

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査） 平成 29 年度年次評価書

1. はじめに

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）は、国の予算を用いて実施される長期・大規模の疫学調査であり、本調査から得られた成果から環境政策の検討を行うことを目的としている。その実施に当たっては、科学的、第三者的な観点からの評価を行うことが不可欠である。

エコチル調査においては、調査の企画及び実施内容の評価を行うため、外部の専門家からなる企画評価委員会を環境省に設置しており、同委員会において、調査の効果的・効率的な運営、目的の達成、国民・社会への成果の還元等の観点から、エコチル調査の実施状況の評価を実施することとしている。

エコチル調査は、コアセンター（国立環境研究所）が実施主体となって、メディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）及びユニットセンターとの協働により実施している。

エコチル調査の実施状況の評価については、同調査が長期間にわたる事業であることを鑑み、進捗状況に関する年次評価又は中間評価を行うこととし、事業終了後には最終評価を行うこととしている。

年次評価においては、参加者の参加継続及び質問票回答に繋がるフォローアップ状況、詳細調査の進捗度の点検と目標管理、個人情報管理の徹底、成果発表ルールへの遵守、実施組織における運営の改善、調査研究の質の向上等の観点から評価を行うこととする。

なお、エコチル調査の実施状況の評価については、行政機関が行う政策の評価に関する法律に基づく環境省の政策評価や、独立行政法人通則法の規定に基づく国立環境研究所における業務実績評価などを含め、重層的に実施されることとなる。

2. 概評

2-1 実施体制

エコチル調査のユニットセンターは、公募で選ばれた全国 15 地域の大学等で組織されている。ユニットセンターでは、参加者から返送のあった質問票の入力、詳細調査での訪問調査、医学的検査、精神神経発達検査の実施、参加者への広報などのコミュニケーション活動、地域運営協議会の運営及び調査結果を用いた研究活動を行っている。調査の目的である環境要因が子どもの健康に与える影響を解明できるように参加者の維持に努めるとともに、調査の状況、地域の実情を勘案した適切な実施体制を毎年度検討することが望まれる（参考②～③）。

また、今後はエコチル調査の進捗に準じ、学術論文等の成果が積み重ねられる時期であるため、社会に成果の還元を図る観点から適切な科学コミュニケーションを行うための体制の構築が望まれる。

また、参加者（子ども）が学童期を迎え、平成 31 年度からは対面による学童期調査も開始されることから、学童期における調査を行うことを踏まえた実施体制の見直しと構築が望まれる。

2-2 子ども出生数に対する現参加者数（現参加者率）

エコチル調査の成果をより信頼性の高いものにするため、参加者数を高い水準で維持することがエコチル調査の最重要課題の一つである。「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）研究計画書」においても、「追跡率（注記参照）は、フォローアップ期間終了時に80%以上となることを目指す」と記載されている。追跡率を示す指標である、子ども出生数に対する現参加者数（現参加者率、平成29年9月26日時点（暫定値））をみると、全国平均で96.7%であり、高い水準で維持していることは、高く評価できる（表1）。

また、来年度から参加者（子ども）が学童期を迎える時期となることから、引き続き現参加者率を高い水準で維持できるような取組が期待される。

（注）追跡率：時間を追って追跡情報を入手できる調査対象者数を調査開始時の調査対象者数で割ったもの。

2-3 質問票回収状況

エコチル調査の成果をより信頼性の高いものにするためには、参加者の質問票回収率を高い水準で維持することが最重要課題の一つである。平成29年9月26日時点（発送後6か月後）の子どもの出生後の質問票回収率は、生後6か月、1歳、1歳半、2歳、2歳半、3歳、3歳半、4歳、4歳半、5歳で、それぞれ94.1%、91.3%、89.2%、87.2%、85.3%、83.8%、81.5%、80.2%、78.4%、75.8%である。全年齢を平均しても86.8%と高い回収率を維持していることは、高く評価できる（表2）。

また、来年度から参加者（子ども）が学童期を迎える時期となることから、引き続き質問票回収率を高い水準で維持できるような取組が期待される。

2-4 質問票回収率の維持状況（出生後6か月回収率と5歳回収率の差）

多くのユニットセンターで、子どもの年齢を重ねるごとに質問票回収率が低下する傾向がみられており、今後、質問票回収率の低減をできる限り抑えていくことが重要である。出生後6か月回収率と5歳回収率の差（質問票低減率）を求めたところ、全国平均の低減率は18.3ポイントとなっていた。ユニットセンター別では、最小9.9ポイント～最大27.2ポイントの幅が見られた（表3）。全国平均より大幅に低減率が大きいユニットセンターについては、原因を分析し、改善に導く工夫が必要である。

2-5 質問票回収率の直近の改善状況

6ヶ月からの質問票回収率の推移を示すグラフにおける平成28年度9月29日時点と平成29年9月26日時点での年齢別回収率の回帰直線（ $Y=aX+b$ ）の傾き（a）の差異について、直近1年間の比較を行った（表4-1、表4-2）。質問票回収率に改善傾向が見られたユニットセンターがあったことは、高く評価できる。こうしたユニットセンターの取組みからグッドプラクティスを相互に学んでいくことが有効と考えられる。

2-6 参加者及び調査地域でのコミュニケーション活動

平成28年度年次評価では、参加者のフォローアップに関する取組の一環として

PDCA サイクルに則り、コミュニケーション活動の取組について定量的な分析や改善がなされているかの評価を行った。

今年度は、コミュニケーション活動への取組だけでなく、参加者へのモチベーションの維持、質問票の回収率の維持・向上、成果発表への取組、個人情報・倫理への配慮及びルール遵守に対する取組、予算の効果的な運用への取組など業務全般の取組について、PDCA サイクルに則って、改善がなされているかの評価を行った（表5）。19のユニットセンター・サブユニットセンターのうち9センターにおいて特に優れた事例がみられた。

2-7 詳細調査の実施状況

平成26年10月に開始した詳細調査のリクルートは平成28年8月時点で5,019名の応諾で完了している。これまでに、1歳半の環境測定及び2歳の医学的検査と精神神経発達検査が終了している。平成29年度は、昨年度に引き続き3歳の環境測定と今年度から開始となった4歳の医学的検査と精神神経発達検査を実施している（参考④）。

精神神経発達検査については、メディカルサポートセンターが中心となって、新版K式の検査者認定試験を開催するなど評価の精度を高める取組みが行われていることは評価できる。また、各ユニットセンターにおいては、実施体制の強化（臨床心理士、看護師、保健師、その他有資格者等の雇用等）がなされていることは評価できる。

2-8 エコチル調査ルールの遵守及び管理状況

エコチル調査は、大規模な調査ゆえ多数の関係者に支えられている。多くの関係者が関わって実施する調査においては、一定の「ルール」を策定し、それらが遵守されるよう管理している。特に調査の要になり得る重要事項において、「ルール」を遵守することは大規模かつ長期的な調査を安定的に遂行することにつながる。

特に、成果発表は社会へのインパクトが大きいことから、エコチル調査では、「エコチル調査の成果発表に関する基本ルール」を定めている。今年度は成果発表に関する基本ルールに違反した事例の発生はないが、今後エコチル調査の成果発表が増えてくる時期となる。これらの状況を踏まえ、必要なルールを定めるとともに、成果発表の促進の観点から可能な内容についてのルールの簡素化を図ることが望まれる（表6）。

今後も引き続き個人情報の管理体制を強化していくことが期待される（表7）。

2-9 地域運営協議会の実施状況

各ユニットセンターが関連組織と良好な関係を構築・維持することは、今後の調査を円滑に継続するために必要不可欠であると考えられる。エコチル調査参加者が学童期に入ることやエコチル調査の成果発表が徐々に増えていくことを勘案し、ユニットセンターが調査地域の小中学校等の教育関係機関等や地方公共団体の環境部局等に地域運営協議会への参加を積極的に行ったことは評価できる。引き続き、これらの機関との連携を深めていくことが期待される（参考③）。

2-10 成果の社会への還元

エコチル調査の進展に伴い、データの分析や学術論文等による成果発表の増加が期待される時期であることから、今後は、その成果を社会に還元していくことが重要である。また、エコチル調査全体として、成果の社会への還元の状況（一般への広報、シンポジウムや新聞・雑誌等を通じての概説、学会での発表等）を適切に評価していくことが必要である（参考⑦-1～⑦-6）。

2-11 研究（追加調査等）の体制及び実績

エコチル調査の全国データを用いた成果発表については、コアセンターを中心として、論文の質が担保できるような体制を構築し、論文執筆に向けた取組を行っている。

エコチル調査の全国データを用いた論文は 20 編、追加調査に係る論文は 14 編（平成 30 年 2 月末時点）発表されており、大規模疫学調査の先行研究である DNBC（デンマーク全国出生コホート）、MoBa（ノルウェー母子コホート調査）の同じ時期の論文数（DNBC 10 編、MoBa 0 編）に比較しても多く、現段階としては評価できる（参考⑤-1、⑤-2、⑥）。一方、エコチル調査の中心仮説に係る論文発表はまだない状況であることから、化学物質と健康影響に係るものを中心とした論文執筆の加速化に、一層力を入れることが望まれる。

2-12 その他

平成 28 年度年次評価書を受けての取組状況は、年次評価の内容を勘案した PDCA サイクルに則った取組が、各ユニットセンターにおいてなされている。

3. 実施機関別評価

3-1 環境省

- エコチル調査の目的とする成果を得るためには、長期間にわたる予算と体制の確保が不可欠である。現在、当初予算及び補正予算で調査を実施しているが、これまでも当初予算で完結するような安定した予算確保を目指してきた。今年度は昨年度と比較して、当初予算（案）の比率が上がり、かつ、補正予算を合わせた額が増額になったことは評価できる。今後も引き続き、より安定した予算確保のための努力を行うことが望まれる。
- 今後、分析を進めて研究成果の社会への還元を推進する時期に本格的に入っていくことから、調査・分析結果を社会に還元するための予算をより効果的に運用するため、平成 31 年度からユニットセンターの委託費について国立環境研究所運営費交付金に一体化が図られる予定である。そのため、環境省予算からの移行がスムーズに行えるような体制を整備することが必要である。ユニットセンター委託費の配賦、運用のノウハウを適切にコアセンターと共有し、早急にコアセンターで適切な運営ができるような準備を、コアセンターと共に着実に進めることが期待される。
- 広報については、従来は主に、エコチル調査に関する国民の認知度・理解度の向上の視点から実施してきたが、今後は、エコチル調査の進展に伴い成果が積み重ねられる時期であることから、従来の取組に加えて、成果の社会への還元を目的とした広報活動を展開していくことが、重要である。成果の社会への還

元として、シンポジウムの開催、展示物の作成、エコチル調査のホームページの改訂等を実施したことは評価できる。一方で、エコチル調査の結果が一般の方にも伝わりやすくするために、論文の和文の概要を公開する方法を検討することが望まれる。論文の内容を社会に誤解なく、かつ、わかりやすく伝わるようにするために、報道発表の体制整備をコアセンターと共に進めていることは評価できる。

- 国際連携については、ノルウェー、デンマーク、ドイツ等の諸外国の出生コホート調査の専門家をメンバーとする「大規模出生コホート調査に関する国際作業グループ」に引き続き参画し、これらの専門家と連携をより一層強化していくことが望まれる。また、従来一般国民向けに隔年で実施してきた国際シンポジウムを、本年度は国際疫学会の中で研究者向けに開催し、環境疫学に関する国際的な知の共有を行ったことは評価できる。引き続き国際学会等を通じて世界に向けた情報発信に取り組むことが期待される。
- 参加者（子ども）が学童期に入ることから、今後、教育的視点から学校関係者から協力を得ることが重要となってくる。そのため、文部科学省、小児関連団体等との情報共有を引き続き進め、より一層の連携を図ることが望まれる。

3-2 コアセンター

- エコチル調査の実実施主体として、全国のユニットセンターとの緊密な連携を図りながら全体をとりまとめており、今後もそのような取組が継続されることが期待される。
- エコチル調査の成果を効果的にするためには、現参加者率や質問票回収率の維持が重要であるが、調査開始から7年目の現在も、いずれも高い水準を維持できていることは高く評価できる。これらを維持するための取組として、質問票の回収率が高いユニットセンターや、改善が見られるユニットセンターの取組状況等を調査し、ユニットセンター実務担当者 web 会議及びスタッフ研修の開催などを通して、引き続きユニットセンター間の情報共有の場を設けていくことが望まれる。また、コアセンターにおいても現参加者率や質問票回収率の維持に資する取組を引き続き検討するべきである。
- 参加者（子ども）の成長に合わせた6～12歳の研究計画についてメディカルサポートセンターと連携し、正案を得るべく着実に検討を進めていくところであるが、今後早急に確定させることが期待される。また、約10万人分の妊婦の血中金属類の測定及び約2万人分の妊婦の血中金属類のデータ固定が終了するなど、着実に化学分析結果を解析できる体制が整いつつあることは評価できる。一方で、化学分析の将来的な分析項目についても分析計画を早急に策定し、効率的・効果的に化学分析が実施されることが望まれる。
- 医学的検査及び精神神経発達検査の実施、詳細調査の結果返却、相談対応については、引き続きメディカルサポートセンターと連携しつつ、各ユニットセンターに応じたフォローを行うことが望まれる。
- エコチル調査の全体調査についての成果発表については、コアセンターを中心として、論文の質が担保できるよう「中心仮説ワークショップ」の開催や体制の構築を行ったことは評価できる。また、エコチル調査で得られた成果が諸外国にも通用するようなものとなるよう、成果のまとめ方及び論文の質の担保

ができるような体制を構築したことは評価できる。

- エコチル調査の論文数（20 編、2 月末時点）が着実に増えてきていることは評価できるが、一方で中心仮説に係る論文執筆の加速化が望まれる。また、今後成果が加速的に増えていくことに備えて、現存の成果発表ルールの見直し（必要な事項のルール化と簡素化を含む）を行うことが望まれる。
- 平成 31 年度からユニットセンターの委託費について国立環境研究所運営費交付金に一体化が図られる予定である。早急にコアセンターで適切な運営ができるような準備を、環境省と共に着実に進めることが期待される。
- ユニットセンターにおける参加者の個人情報の管理については、個人情報の管理状況が適切であるかどうか、定期的に確認する体制を維持することが重要である。そのため、引き続きコアセンターが中心となり、適切な個人情報の管理がなされるような体制を維持していくことが望まれる。

3-3 メディカルサポートセンター

- 平成 29 年度から開始された 4 歳時の医学的検査及び精神神経発達検査の標準化が適切に行われ、円滑に調査が進んでいることは評価できる。引き続き検査の質を維持するためにバックアップ体制を維持強化することが望まれる。
- 各ユニットセンターにおいて、詳細調査の結果返却の際、臨床心理士等の専門家のいないユニットセンターをバックアップする体制を引き続き維持強化することが望まれる。
- 平成 31 年度から開始が予定されている学童期調査において、実施可能な精神発達検査の手法の開発、妥当性の検討を着実に進めていることは高く評価できる。
- エコチル調査の成果発表の加速を図る一環として、データクリーニングの方法の見直しをコアセンターと行ったことは評価できる。
- 成果の社会への還元の一環として、全国データを用いた論文に関してメディカルサポートセンターからは 20 編中 2 編（平成 30 年 2 月末時点）が発表されていることは評価できる。今後は、中心仮説に係る論文に関しても順次執筆を加速化していくことが望まれる。
- エコチル調査の全体調査の成果発表については、論文の質が担保できるような体制構築をコアセンターと協働して検討することが望まれる。

3-4 ユニットセンター

10 万組の親子を対象に実施しているエコチル調査において、子どもが 13 歳になる調査の終了時まで、より多くの参加者の調査継続と年に 2 回送付する質問票により多く回答いただくことが、調査の質の向上及び国民に対して有益な結果を還元するために必要不可欠かつ重要な事項である。調査開始から 7 年目の現在も、現参加者率および質問票回収率はいずれも高い水準を維持されており、全体としては高く評価できる。

各ユニットセンターにおける業務全般においては PDCA サイクルの中で調査地域の特徴や効率性を勘案し、調査の質の向上に繋がるような取組を行うことが重要である。

また、エコチル調査が開始されて 7 年目を迎える今般、調査の成果が積み重ねられる時期に差し掛かり、今後その成果を社会に適切に還元していくことが

重要である。成果の社会への還元として、ユニットセンターでのアウトリーチ活動は、学会発表 88 件、講演会 31 件、イベント 169 件（41,199 人動員、2 月末時点）、新聞への掲載 65 件、テレビ・ラジオでの放送 13 件等において、積極的に調査地域を中心に活動していることは評価できる。なお、エコチル調査を適切に実施するための各種ルール（成果発表や個人情報管理などに係るものを含む）を遵守することは大規模かつ長期的な調査を安定的に遂行することにつながるため、引き続きルールに沿った運用を行っていただけるよう、各ユニットセンターにて周知を継続していくことが期待される（参考⑦）。

本年度の評価においては、①参加者の参加継続と質問票の回収に繋がるフォローアップ状況と、②エコチル調査の業務全般における PDCA サイクルでの取組、③主要なルールの遵守状況及び管理状況を勘案した評価方法を設定した。

総合評価指標

(1) フォローアップ状況

○ 現参加者率【表1】

対象である子どもの出生者数に対し、調査参加者数の比率を算出した。調査参加者数とは、出生した子どものうち、参加を取り止めた数（協力取り止め、同意撤回など）を差し引いた人数である。

【評価】各ユニットセンターの規模を把握するための参考資料としてのみ活用する（評価は行わない）。

○ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）【表2】

平成29年9月26日時点で質問票送付後6ヶ月経過した出生後6ヶ月から5歳までの発送数に対する回収数を用いて算出。総合的な質問票の回収状況を確認する指標として位置付ける。

【評価】回収率が86.8%（平均）以上を◎とする。また、平成28年度、29年度継続して回収率が0.5SD以上の場合は◎を加点する。

○ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と5歳回収率の差）【表3】

【表2】における出生後6ヶ月の質問票回収率と5歳時の質問票回収率の差を算出。直近の質問票回収状況を確認する指標として位置付ける。

【評価】差異ポイント17ポイント未満を◎とする。

○ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）【表4】

6ヶ月からの質問票回収率の推移を示すグラフにおける平成28年度9月29日時点と平成29年9月26日時点での年齢別回収率の回帰直線（ $Y=aX+b$ ）の傾き（a）の差異をみる。直近1年間の質問票回収状況を確認する指標として位置付ける。

【評価】傾き差異がプラスの場合を◎とする。

(2) エコチル調査に係る業務全般に関する取組

○ エコチル調査に係る業務全般に関する取組のPDCA評価【表5】

参加者の調査参加へのモチベーションの維持、質問票回収率の維持・向上、コミュニケーション活動、成果発表への取組、個人情報・倫理への配慮及びルール遵守に対する取組、予算の効果的な運用の取組など業務全般の取組について、PDCAサイクル※に則って実施されているかを確認する指標として位置付ける。

【評価】PDCAの観点を踏まえ、特に優れたフォローアップに係る取組みを行っている場合を◎とする。

※フォローアップ状況におけるPDCAの考え方

- ①（P：計画）これまでの取組の結果を的確に分析をして、その結果をよく勘案して計画を立案する
- ②（D：実施）（P）を受けて、具体的に取組みを実施する
- ③（C：評価）（D）の結果を的確且つ客観的に分析を行い説得力のある根拠を示す
- ④（A：改善）（A）での考察を来期の計画に反映することを示す
- ⑤効率性を考慮した費用対効果を十分に検討する

(3) エコチル調査ルールへの遵守及び管理状況

エコチル調査で定める各種ルールの遵守状況やその管理状況を確認するための指標として位置付ける。

[評価] ルール違反等が確認された場合は、フォローアップ状況が良好であったとしても、総合評価において S・A 評価の対象としない。また、2回以上（年度をまたぐ場合を含む）同じ内容でルール違反を発生させた場合は総合評価を C とする。

総合評価の考え方

S: ◎が3個以上あり、且つ、PDCA 評価が◎

A: ◎が2個以上ある

B: ◎が1個ある

C: ◎がない

※ 但し、ルール違反等があった場合は◎が2個以上の場合でも B 以下となる

各ユニットセンターの総評

北海道ユニットセンター

総評：B

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。

宮城ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と5歳回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
参加者等へのモチベーションの維持に対する取組として、調査協力者と直接コンタクトする機会を増やすために質問票回収時に寄せられる問い合わせに専門の教員がコメントを書いて謝礼と一緒に送付するなど、計画的に取り組んでいることは特に高く評価できる。

福島ユニットセンター

総評：S

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：
平成28年度及び29年度の結果：高い回収率を維持できている。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
参加者等へのモチベーションの維持に対する取組として、現参加者の減少率を1%以内にとどめることを指標と掲げ、PDCAサイクルの中で計画的に取り組んでいる。その一環として、年間21回ものイベントを実施し、アンケートでも参加者の意向を確認しながら次期の計画に反映していることは特に高く評価できる。

千葉ユニットセンター

総評：B

- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
質問票の回収率の維持・向上に関する取組として、回収率が低いリクルート時期の参加者を重点的なターゲットとし、他の集団とは異なるアプローチを行いその評価を踏まえて更なる改善を図るなど、戦略的に取り組んでいることは特に高く評価できる。

神奈川ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：
平成28年度及び29年度の結果：高い回収率を維持できている。

甲信ユニットセンター（山梨大学）

総評：A

- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
質問票の回収率の維持・向上に関する取組として、返送依頼方法変更後の回収率の年齢別推移や参加者向けのイベント等の実施についてその効果を丁寧に分析し、次期の計画・実施に反映したことにより回収率の改善に繋がっていることは特に高く評価できる。

甲信サブユニットセンター（信州大学）

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）
平成28年度及び29年度の結果：高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と5歳回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

富山ユニットセンター

総評：S

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：
平成28年度及び29年度の結果：高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と5歳回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
質問票の回収率の維持・向上に関する取組として、3歳児健診での声かけや型抜きはがきの送付等、参加者（子ども）の年齢ごとに参加者へのアプローチの方法を検討・計画し、回収率維持・向上の対策強化を図り、回収率の改善に繋がっていることは特に高く評価できる。

愛知ユニットセンター

総評：S

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と5歳回収率の差）：

回収率の低減を抑制できている。

- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
質問票の回収率の維持・向上に関する取組として、質問票回収日数の短縮を指標に掲げ、「KAIZEN コンテスト」を通じたユニットセンター内の良い事例の横展開も盛り込んだ取組の結果、回収率の改善に繋がっていることは特に高く評価できる。

京都ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：
平成28年度及び29年度の結果：高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と5歳回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

大阪ユニットセンター

総評：B

- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

兵庫ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
質問票の回収率の維持・向上に関する取組として、参加者率の減少をできるだけ少なくすることも合わせて指標として掲げ、参加者（子ども）の取りやめ発生数を年齢別に回収率の推移の分析を丁寧に行い、その分析結果を次期の計画・実施に着実に繋げていることは特に高く評価できる。

鳥取ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：
平成28年度及び29年度の結果：高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

高知ユニットセンター

総評：B

◎ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価：

コミュニケーション活動に対する取組として、直接的なコミュニケーションの場としてのイベントの他にも、参加者及び調査地域に向けた報告書の配布や地域の新聞への記事の掲載（連載）を通じた調査結果の還元を積極的に行っていることは特に高く評価できる。

産業医科大学サブユニットセンター

総評：B

◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と5歳回収率の差）：

回収率の低減を抑制できている。

九州大学サブユニットセンター

総評：A

◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：

高い回収率を維持できている。

◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：

昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

熊本大学サブユニットセンター

総評：A

◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：

昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

◎ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価：

質問票の回収率の維持・向上に関する取組として、参加者のグループごとの特徴（回収率が低い等）を考慮したアプローチや質問票送付ごとに押されるスタンプラリーの導入などの取組を複数組み合わせを行い、回収率の改善が見られ始めていることは特に高く評価できる。

宮崎大学サブユニットセンター

総評：A

◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：

高い回収率を維持できている。

◎ 質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）：

平成28年度及び29年度の結果：高い回収率を維持できている。

琉球大学サブユニットセンター

総評：B

◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：

昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

ユニットセンター 総合評価一覧

評価項目	フォローアップ状況										エコチル調査に係る業務全般の取組状況		総合評価			
	現参加者率【暫定】	質問票の回収率(累計)									PDCA評価	エコチル調査ルールの遵守及び管理状況				
	現参加者数÷登録者数【表1】	質問票回収状況(6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率)【表2】			質問票回収率の維持状況(6ヶ月回収率と5歳回収率の差)【表3】		質問票回収率の直近の改善状況(回収率の傾向比較)【表4】 (※平成28年9月29日時点から平成29年9月26日時点までの期間)		【表5】							
評価項目	評価項目	評価	評価項目	評価	評価項目	評価	評価	評価	評価	評価項目	評価					
掲載項目	現参加者率	回収率	◎	回収率の差異	◎	傾きの差異	◎	◎	違反の有無	該当ルール名と種類	評価(S,A,B,C)					
評価基準	◎:86.8%(平均)以上 ※また、平成28年度、29年度継続して回収率が(SD0.5)以上の場合は◎を加点する			◎:17ポイント未満		◎:傾きの差異がプラス		PDCAの観点を踏まえ、特に優れたフォローアップに係る取組を行っている場合◎		☑:違反事案※軽微なもの含まない						
	現参加者率(参考)	回収率	ランキング(参考)	評価		回収率の差異	ランキング(参考)	評価	傾きの差	ランキング(参考)	評価	評価	☑	該当ルールと事案の種類	総合評価	ユニット/サブユニットセンター名
				平成29年度の回収率が平均以上	平成28年度、29年度共に回収率が(SD0.5)以上											
北海道ユニットセンター	97.3	87.7	8	◎		18.3	11		-0.129	14					B	北海道
宮城ユニットセンター	95.8	83.3	16			16.5	6	◎	-0.048	11	◎				A	宮城
福島ユニットセンター	97.5	88.5	6	◎	◎	18.4	12		-0.113	13	◎				S	福島
千葉ユニットセンター	95.1	85.2	14			19.1	13		-0.243	16	◎				B	千葉
神奈川ユニットセンター	95.1	88.5	7	◎	◎	17.8	9		-0.253	18					A	神奈川
甲信ユニットセンター(山梨大学)	94.9	83.1	18			19.7	15		0.623	1	◎	◎			A	山梨大学
甲信サブユニットセンター(信州大学)	96.3	93.3	1	◎	◎	9.9	1	◎	0.183	4	◎				A	信州大学
富山ユニットセンター	97.0	90.3	2	◎	◎	15.5	4	◎	0.113	6	◎	◎			S	富山
愛知ユニットセンター	96.8	87.3	10	◎		13.1	2	◎	0.176	5	◎	◎			S	愛知
京都ユニットセンター	97.6	90.2	4	◎	◎	14.5	3	◎	0.197	3	◎				A	京都
大阪ユニットセンター	98.1	86.1	13			17.7	8		0.041	10	◎				B	大阪
兵庫ユニットセンター	96.3	87.6	9	◎		20.0	16		-0.197	15	◎				A	兵庫
鳥取ユニットセンター	97.5	88.9	5	◎	◎	18.1	10		0.046	9	◎				A	鳥取
高知ユニットセンター	97.1	83.9	15			22.3	17		-0.245	17	◎				B	高知
産業医科大学サブユニットセンター	98.6	86.3	12			16.3	5	◎	-0.111	12					B	産業医科大
九州大学サブユニットセンター	96.5	87.1	11	◎		19.4	14		0.102	7	◎				A	九州大学
熊本大学サブユニットセンター	97.1	80.6	19			23.5	18		0.048	8	◎	◎			A	熊本大学
宮崎大学サブユニットセンター	97.4	90.2	3	◎	◎	17.3	7		-0.601	19					A	宮崎大学
琉球大学サブユニットセンター	95.6	83.2	17			27.2	19		0.302	2	◎				B	琉球大学

総合評価
S: ◎が3個以上あり、且つ、PDCA評価が◎
A: ◎が2個以上ある
B: ◎が1個ある
C: ◎がない
 ※ 但し、ルール違反等があった場合は、◎が2個以上の場合でもB以下となる。

表1 子どもの現参加者率【平成29年9月末時点（暫定値）】※現参加者率の高い順に表示

ユニットセンター/サブユニットセンター	登録者数 (子ども出生数) (a)	現参加者数 (b)	協力取り止め及び同意撤回 ※注			その他 (他UCからの転出、打ち切り、不明等)	他UCからの転入	現参加率 (b/a)
			協力取り止め	同意撤回	完全同意撤回			
産業医科大学サブユニットセンター	2,944	2,904	28	8	0	11	7	98.6%
大阪ユニットセンター	7,846	7,695	99	5	3	57	13	98.1%
京都ユニットセンター	3,886	3,793	55	3	1	44	10	97.6%
鳥取ユニットセンター	3,036	2,960	47	1	0	33	5	97.5%
福島ユニットセンター	12,867	12,543	220	103	2	103	104	97.5%
宮崎大学サブユニットセンター	1,834	1,787	26	12	0	14	5	97.4%
北海道ユニットセンター	7,758	7,549	167	17	1	40	16	97.3%
熊本大学サブユニットセンター	3,012	2,925	66	7	0	23	9	97.1%
高知ユニットセンター	6,917	6,716	146	20	3	38	6	97.1%
富山ユニットセンター	5,388	5,225	76	65	5	23	6	97.0%
愛知ユニットセンター	5,555	5,380	141	5	1	48	20	96.8%
九州大学サブユニットセンター	4,565	4,403	77	33	0	64	12	96.5%
甲信サブユニットセンター(信州大学)	2,679	2,580	85	9	0	11	6	96.3%
兵庫ユニットセンター	5,069	4,881	65	10	1	122	10	96.3%
宮城ユニットセンター	9,002	8,625	155	103	0	152	33	95.8%
琉球大学サブユニットセンター	863	825	23	0	0	19	4	95.6%
神奈川ユニットセンター	6,388	6,076	241	3	0	90	22	95.1%
千葉ユニットセンター	6,009	5,712	216	20	0	76	15	95.1%
甲信ユニットセンター(山梨大学)	4,490	4,262	190	10	0	39	11	94.9%
コアセンター								
合計	100,108	96,841	2,123	434	17	1,007	314	96.7%
標準偏差(SD)	—	—	—	—	—			1.0%

※注: 協力取りやめ及び同意撤回にあたっての手続きとして、下記の3つの種別がある(ただし、詳細調査を除く)。

1. 協力取り止め: 協力取りやめの請求
2. 同意撤回: 個人情報の削除をともなう協力取りやめの請求
3. 完全同意撤回: 協力取りやめ及び提供した試料・データの廃棄の請求

表2 質問票回収率 (6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率)【平成29年9月26日時点の累積、6ヶ月後】※回収率の高い順で表示

ユニットセンター/サブユニットセンター	C-6m		C-1y		C-1.5y		C-2y		C-2.5y		C-3y		C-3.5y		C-4y		C-4.5y		C-5y		総数	
	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)																		
甲信サブユニットセンター(信州大学)	2,663	97.4	2,649	96.1	2,643	95.1	2,631	93.6	2,573	92.1	2,104	92.0	1,675	90.0	1,185	88.5	801	88.4	458	87.6	19,382	93.3
富山ユニットセンター	5,345	96.7	5,338	93.9	5,327	92.0	5,313	90.8	5,245	89.5	4,375	87.9	3,511	86.7	2,631	84.8	1,839	83.3	1,035	81.2	39,959	90.3
宮崎大学サブユニットセンター	1,828	95.8	1,823	94.3	1,814	93.8	1,808	89.2	1,806	86.9	1,505	90.6	1,222	91.2	919	83.9	681	79.6	396	78.5	13,802	90.2
京都ユニットセンター	3,868	95.7	3,843	93.4	3,830	91.6	3,835	90.4	3,745	89.3	3,044	87.7	2,401	85.6	1,622	85.6	992	84.4	400	81.3	27,580	90.2
鳥取ユニットセンター	3,024	95.2	3,021	93.4	3,016	91.3	3,013	89.0	2,994	88.1	2,527	86.7	2,067	84.4	1,519	83.0	1,041	82.4	585	77.1	22,807	88.9
福島ユニットセンター	12,832	96.9	12,737	94.1	12,692	91.0	12,655	87.7	12,507	84.9	9,586	83.0	6,404	80.7	3,209	80.0	1,780	79.4	1,022	78.6	85,424	88.5
神奈川ユニットセンター	6,362	95.3	6,343	92.9	6,318	90.1	6,301	88.1	6,180	86.1	5,093	85.8	4,039	84.1	2,839	82.9	1,758	83.1	838	77.6	46,071	88.5
北海道ユニットセンター	7,714	94.1	7,673	91.9	7,657	90.2	7,647	88.3	7,495	86.3	6,173	84.0	4,761	82.8	3,365	82.1	2,163	79.4	1,184	75.8	55,832	87.7
兵庫ユニットセンター	4,977	95.0	4,967	92.5	4,963	90.8	4,952	88.9	4,916	86.5	4,317	84.8	3,500	82.9	2,654	80.1	1,825	77.6	887	75.0	37,958	87.6
愛知ユニットセンター	5,522	92.8	5,514	90.9	5,502	88.9	5,482	87.8	5,402	86.5	4,595	85.3	3,671	82.5	2,608	81.6	1,699	80.6	839	79.7	40,834	87.3
九州大学サブユニットセンター	4,543	93.9	4,529	91.1	4,513	89.4	4,500	87.6	4,450	86.4	3,761	85.0	3,053	82.8	2,331	82.2	1,650	79.2	899	74.5	34,229	87.1
産業医科大学サブユニットセンター	2,930	94.3	2,917	90.1	2,912	88.2	2,921	86.6	2,876	85.6	2,423	83.8	1,931	80.3	1,447	79.8	979	78.0	542	78.0	21,878	86.3
大阪ユニットセンター	7,807	93.1	7,794	90.7	7,782	88.8	7,770	86.5	7,704	85.0	6,435	83.8	5,031	81.1	3,854	80.3	2,788	77.1	1,626	75.4	58,591	86.1
千葉ユニットセンター	5,896	91.8	5,883	89.9	5,867	88.3	5,852	86.2	5,667	84.2	4,832	82.4	3,952	79.6	2,956	78.6	1,903	76.4	936	72.8	43,744	85.2
高知ユニットセンター	6,887	91.7	6,875	89.1	6,865	86.7	6,837	85.3	6,713	84.4	5,504	80.3	4,330	76.5	3,137	75.2	2,092	71.1	1,185	69.4	50,425	83.9
宮城ユニットセンター	8,955	90.3	8,940	86.6	8,923	85.0	8,884	84.0	8,821	82.7	8,013	81.6	6,647	79.2	5,072	77.6	3,543	76.6	1,832	73.8	69,630	83.3
琉球大学サブユニットセンター	859	95.9	854	93.3	853	89.0	851	82.5	846	78.4	721	75.6	568	73.6	403	72.2	283	75.6	163	68.7	6,401	83.2
甲信ユニットセンター(山梨大学)	4,454	93.2	4,423	87.9	4,405	84.8	4,387	82.6	4,319	80.9	3,654	79.6	2,957	77.3	2,223	76.6	1,548	76.3	877	73.5	33,247	83.1
熊本大学サブユニットセンター	3,005	91.5	3,000	88.4	2,995	83.1	2,990	82.8	2,943	76.6	2,503	76.7	2,026	72.5	1,497	70.9	1,007	69.5	572	68.0	22,538	80.6
コアセンター	51	92.2	116	93.1	131	93.1	77	87.0	20	85.0												
合計	99,522	94.1	99,239	91.3	99,008	89.2	98,706	87.2	97,222	85.3	81,165	83.8	63,746	81.5	45,471	80.2	30,372	78.4	16,276	75.8	730,727	86.8

※質問票の回収率:

全年齢の質問票送付の合計に対する、全年齢の質問票回収数の合計の割合。

送付後6か月経過した平成29年9月26日時点での出生後6か月から5歳までの回収数を用いて算出した。

表3 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と5歳回収率）【平成29年9月26日時点の累積、6ヶ月後】※低減率の低い順に表示

ユニットセンター/サブユニットセンター	C-6m		C-1y		C-1.5y		C-2y		C-2.5y		C-3y		C-3.5y		C-4y		C-4.5y		C-5y		総数		低減率
	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	6m-5y (回収率%)																		
甲信サブユニットセンター(信州大学)	2,663	97.4	2,649	96.1	2,643	95.1	2,631	93.6	2,573	92.1	2,104	92.0	1,675	90.0	1,185	88.5	801	88.4	458	87.6	19,382	93.3	9.9
愛知ユニットセンター	5,522	92.8	5,514	90.9	5,502	88.9	5,482	87.8	5,402	86.5	4,595	85.3	3,671	82.5	2,608	81.6	1,699	80.6	839	79.7	40,834	87.3	13.1
京都ユニットセンター	3,868	95.7	3,843	93.4	3,830	91.6	3,835	90.4	3,745	89.3	3,044	87.7	2,401	85.6	1,622	85.6	992	84.4	400	81.3	27,580	90.2	14.5
富山ユニットセンター	5,345	96.7	5,338	93.9	5,327	92.0	5,313	90.8	5,245	89.5	4,375	87.9	3,511	86.7	2,631	84.8	1,839	83.3	1,035	81.2	39,959	90.3	15.5
産業医科大学サブユニットセンター	2,930	94.3	2,917	90.1	2,912	88.2	2,921	86.6	2,876	85.6	2,423	83.8	1,931	80.3	1,447	79.8	979	78.0	542	78.0	21,878	86.3	16.3
宮城ユニットセンター	8,955	90.3	8,940	86.6	8,923	85.0	8,884	84.0	8,821	82.7	8,013	81.6	6,647	79.2	5,072	77.6	3,543	76.6	1,832	73.8	69,630	83.3	16.5
宮崎大学サブユニットセンター	1,828	95.8	1,823	94.3	1,814	93.8	1,808	89.2	1,806	86.9	1,505	90.6	1,222	91.2	919	83.9	681	79.6	396	78.5	13,802	90.2	17.3
大阪ユニットセンター	7,807	93.1	7,794	90.7	7,782	88.8	7,770	86.5	7,704	85.0	6,435	83.8	5,031	81.1	3,854	80.3	2,788	77.1	1,626	75.4	58,591	86.1	17.7
神奈川ユニットセンター	6,362	95.3	6,343	92.9	6,318	90.1	6,301	88.1	6,180	86.1	5,093	85.8	4,039	84.1	2,839	82.9	1,758	83.1	838	77.6	46,071	88.5	17.8
鳥取ユニットセンター	3,024	95.2	3,021	93.4	3,016	91.3	3,013	89.0	2,994	88.1	2,527	86.7	2,067	84.4	1,519	83.0	1,041	82.4	585	77.1	22,807	88.9	18.1
北海道ユニットセンター	7,714	94.1	7,673	91.9	7,657	90.2	7,647	88.3	7,495	86.3	6,173	84.0	4,761	82.8	3,365	82.1	2,163	79.4	1,184	75.8	55,832	87.7	18.3
福島ユニットセンター	12,832	96.9	12,737	94.1	12,692	91.0	12,655	87.7	12,507	84.9	9,586	83.0	6,404	80.7	3,209	80.0	1,780	79.4	1,022	78.6	85,424	88.5	18.4
千葉ユニットセンター	5,896	91.8	5,883	89.9	5,867	88.3	5,852	86.2	5,667	84.2	4,832	82.4	3,952	79.6	2,956	78.6	1,903	76.4	936	72.8	43,744	85.2	19.1
九州大学サブユニットセンター	4,543	93.9	4,529	91.1	4,513	89.4	4,500	87.6	4,450	86.4	3,761	85.0	3,053	82.8	2,331	82.2	1,650	79.2	899	74.5	34,229	87.1	19.4
甲信ユニットセンター(山梨大学)	4,454	93.2	4,423	87.9	4,405	84.8	4,387	82.6	4,319	80.9	3,654	79.6	2,957	77.3	2,223	76.6	1,548	76.3	877	73.5	33,247	83.1	19.7
兵庫ユニットセンター	4,977	95.0	4,967	92.5	4,963	90.8	4,952	88.9	4,916	86.5	4,317	84.8	3,500	82.9	2,654	80.1	1,825	77.6	887	75.0	37,958	87.6	20.0
高知ユニットセンター	6,887	91.7	6,875	89.1	6,865	86.7	6,837	85.3	6,713	84.4	5,504	80.3	4,330	76.5	3,137	75.2	2,092	71.1	1,185	69.4	50,425	83.9	22.3
熊本大学サブユニットセンター	3,005	91.5	3,000	88.4	2,995	83.1	2,990	82.8	2,943	76.6	2,503	76.7	2,026	72.5	1,497	70.9	1,007	69.5	572	68.0	22,538	80.6	23.5
琉球大学サブユニットセンター	859	95.9	854	93.3	853	89.0	851	82.5	846	78.4	721	75.6	568	73.6	403	72.2	283	75.6	163	68.7	6,401	83.2	27.2
コアセンター	51	92.2	116	93.1	131	93.1	77	87.0	20	85.0													
合計	99,522	94.1	99,239	91.3	99,008	89.2	98,706	87.2	97,222	85.3	81,165	83.8	63,746	81.5	45,471	80.2	30,372	78.4	16,276	75.8	730,727	86.8	18.3

※質問票の回収率：
 全年齢の質問票送付の合計に対する、全年齢の質問票回収数の合計の割合。
 送付後6か月経過した2017年9月26日時点での出生後6か月から5歳までの回収数を用いて算出した。

表 4-1 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）【平成 29 年 9 月 26 日時点の累積、6 ヶ月後】
 ※差が正に大きい順に表示

ユニットセンター／サブユニットセンター	H27, H28, H29 の一次直線の傾き 注1)				
	H27 注2)	H28 注3)	H29 注4)	差 (H28-H27)	差 (H29-H28)
甲信ユニットセンター(山梨大学)	-2.589	-2.543	-1.920	0.046	0.623
琉球大学サブユニットセンター	-3.631	-3.225	-2.923	0.406	0.302
京都ユニットセンター	-1.434	-1.647	-1.450	-0.213	0.197
甲信サブユニットセンター(信州大学)	-1.306	-1.315	-1.132	-0.009	0.183
愛知ユニットセンター	-2.231	-1.652	-1.476	0.580	0.176
富山ユニットセンター	-1.294	-1.713	-1.600	-0.419	0.113
九州大学サブユニットセンター	-2.746	-1.984	-1.882	0.762	0.102
熊本大学サブユニットセンター	-2.431	-2.694	-2.646	-0.262	0.048
鳥取ユニットセンター	-1.671	-1.845	-1.799	-0.174	0.046
大阪ユニットセンター	-2.017	-1.947	-1.906	0.070	0.041
宮城ユニットセンター	-1.834	-1.596	-1.644	0.238	-0.048
産業医科大学サブユニットセンター	-1.740	-1.667	-1.778	0.073	-0.111
福島ユニットセンター	-1.831	-1.984	-2.097	-0.153	-0.113
北海道ユニットセンター	-1.863	-1.759	-1.888	0.104	-0.129
兵庫ユニットセンター	-2.117	-1.967	-2.164	0.150	-0.197
千葉ユニットセンター	-1.783	-1.794	-2.037	-0.011	-0.243
高知ユニットセンター	-2.131	-2.270	-2.515	-0.138	-0.245
神奈川ユニットセンター	-1.297	-1.426	-1.678	-0.128	-0.253
宮崎大学サブユニットセンター	-1.994	-1.209	-1.809	0.786	-0.601
コアセンター					
総計	-1.997	-1.907	-1.913	0.090	-0.006
標準偏差(SD)	0.558	0.478	0.418	0.327	0.255

注記

- 1) 質問票の累積回収率(発送後6か月経過後)を用いて、生後6か月、1歳、1歳半、2歳、2歳半、3歳、3歳半、4歳、4歳半、5歳時の質問票回収率の低下を、回帰直線の傾きとして評価
- 2) H27: 平成27年10月2日時点における、生後6か月、1歳、1歳半、2歳、2歳半、3歳時を、それぞれXとして1~6を与え、回収率をYとして求めた回帰直線の傾き。(表4-2参照)
- 3) H28: 平成28年9月28日時点における、生後6か月、1歳、1歳半、2歳、2歳半、3歳、3歳半、4歳時を、それぞれXとして1~8を与え、回収率をYとして求めた回帰直線の傾き。(表4-2参照)
- 4) H29: 平成29年9月26日時点における、生後6か月、1歳、1歳半、2歳、2歳半、3歳、3歳半、4歳、4歳半、5歳時を、それぞれXとして1~10を与え、回収率をYとして求めた回帰直線の傾き。(表4-2参照)

表4-2 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）【平成29年9月26日時点の累積、6ヶ月後】

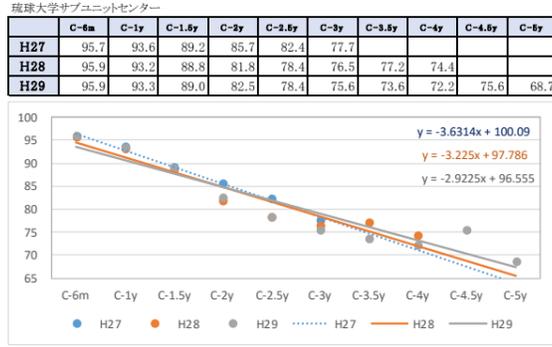
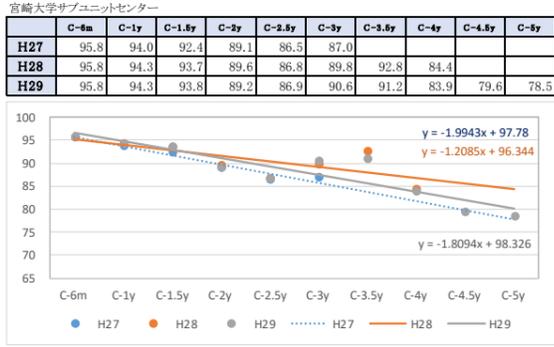
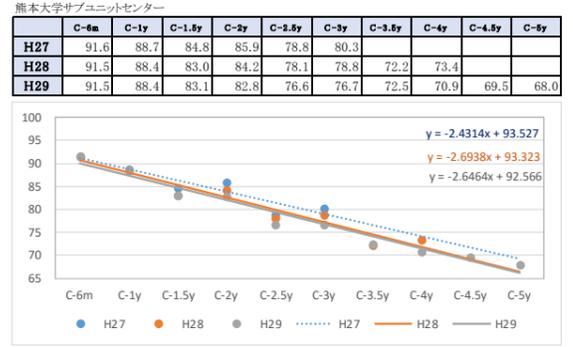
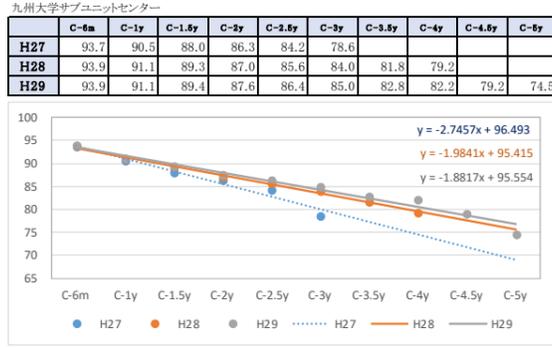
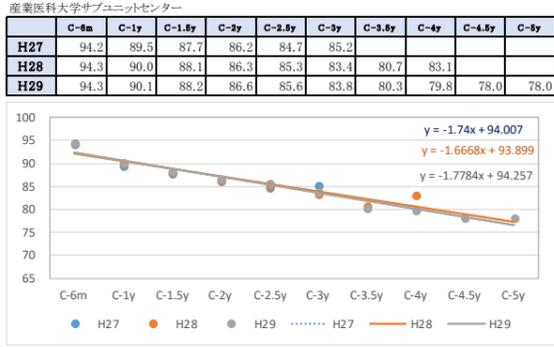
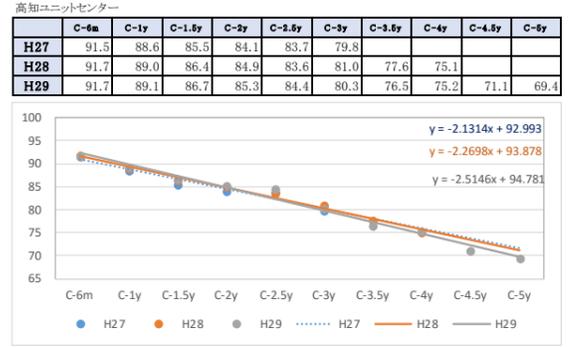
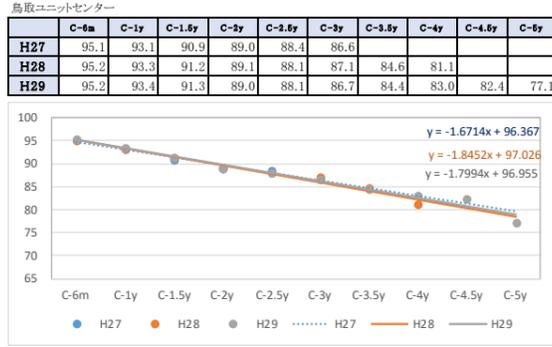
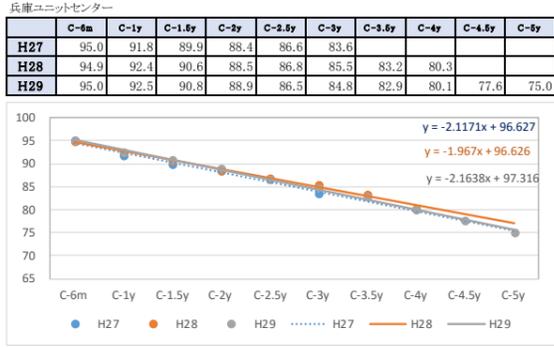
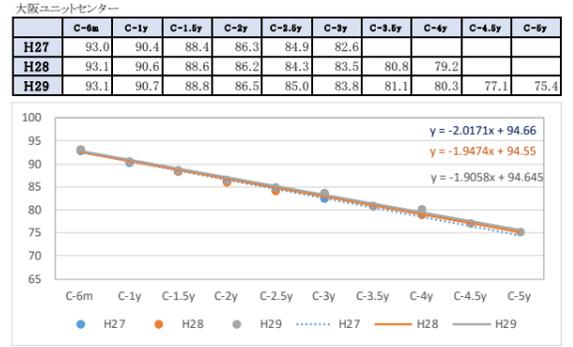
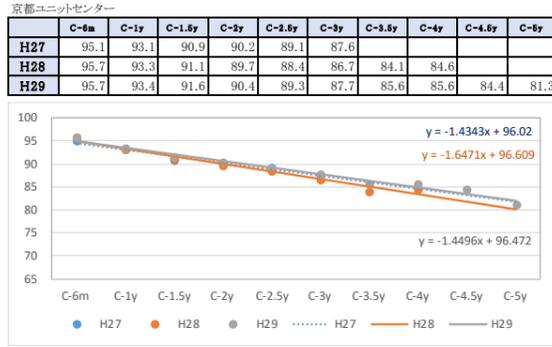
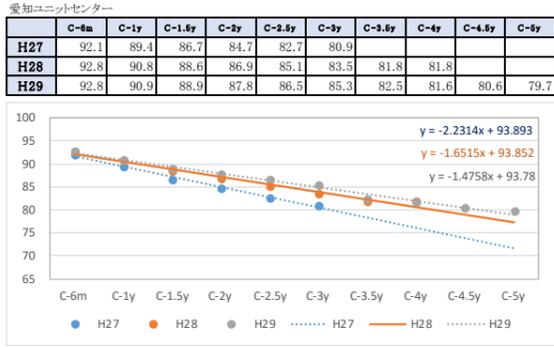
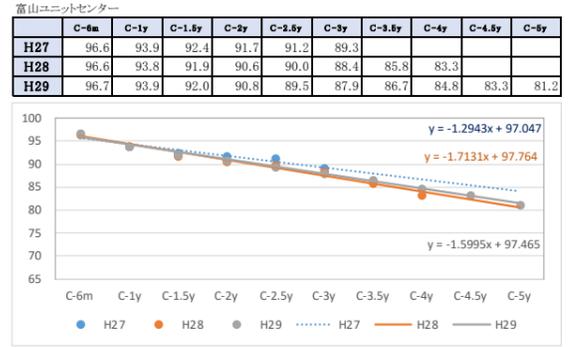
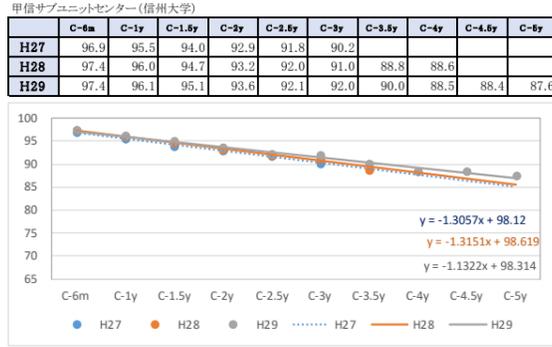
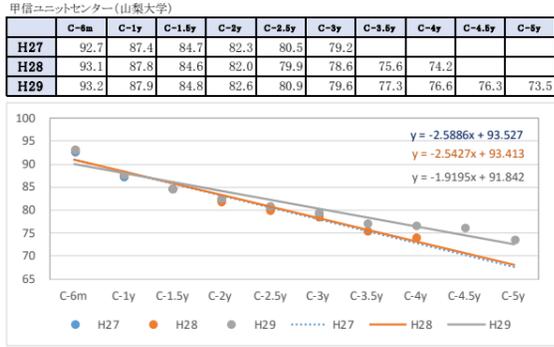
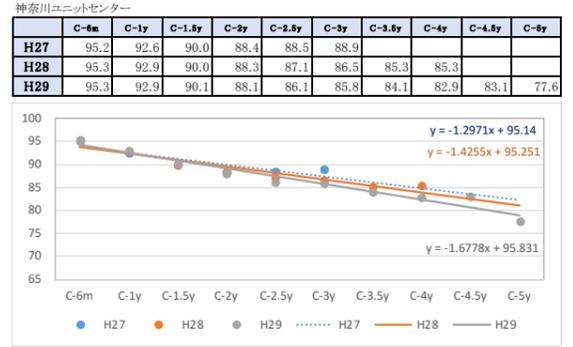
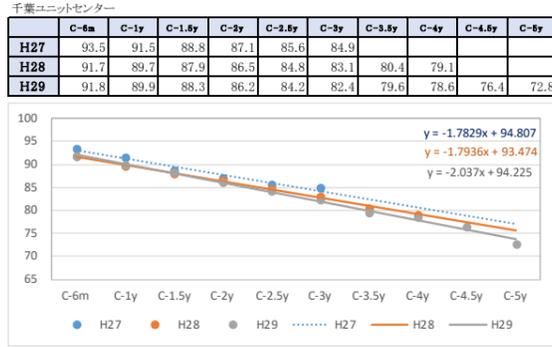
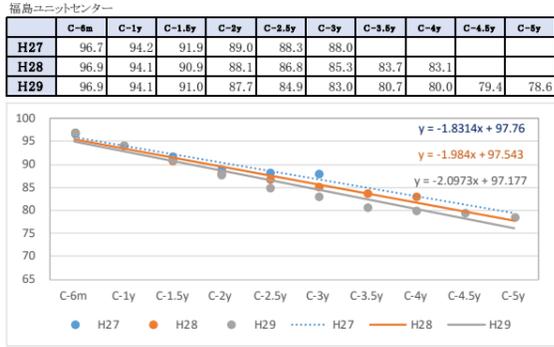
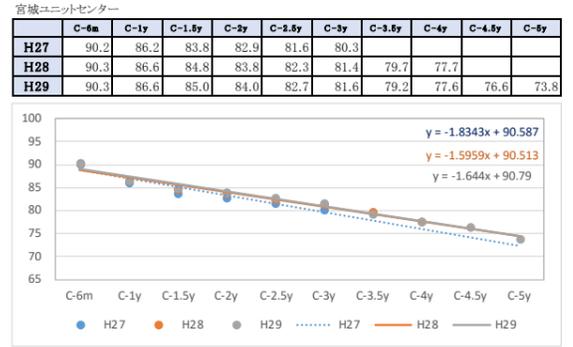
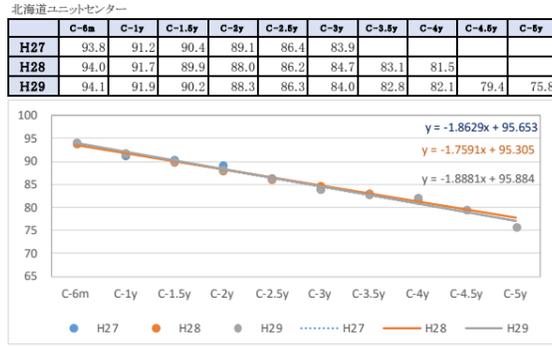
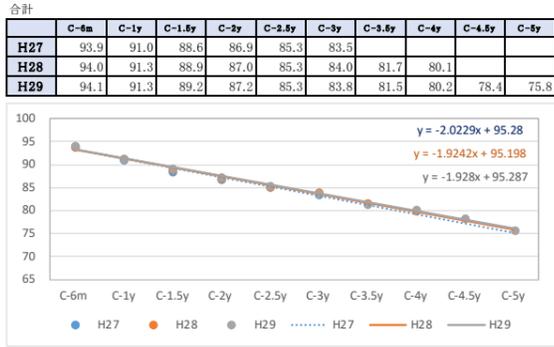


表5 ユニットセンターでの特に優れたフォローアップに係る取組

ユニットセンター ／サブユニットセンター	特に優れたフォローアップに係る取組に対する評価内容
宮城ユニットセンター	参加者等へのモチベーションの維持に対する取組として、調査協力者と直接コンタクトする機会を増やすために質問票回収時に寄せられる問い合わせに専門の教員がコメントを書いて謝礼と一緒に送付するなど、計画的に取り組んでいることは特に高く評価できる。
福島ユニットセンター	参加者等へのモチベーションの維持に対する取組として、現参加者の減少率を1%以内にとどめることを指標と掲げ、PDCA サイクルの中で計画的に取り組んでいる。その一環として、年間21回ものイベントを実施し、アンケートでも参加者の意向を確認しながら次期の計画に反映していることは特に高く評価できる。
千葉ユニットセンター	質問票の回収率の維持・向上に関する取組として、回収率が低いリクルート時期の参加者を重点的なターゲットとし、他の集団とは異なるアプローチを行いその評価を踏まえて更なる改善を図るなど、戦略的に取り組んでいることは特に高く評価できる。
甲信ユニットセンター（山梨大学）	質問票の回収率の維持・向上に関する取組として、返送依頼方法変更後の回収率の年齢別推移や参加者向けのイベント等の実施についてその効果を丁寧に分析し、次期の計画・実施に反映したことにより回収率の改善に繋がっていることは特に高く評価できる。
富山ユニットセンター	質問票の回収率の維持・向上に関する取組として、3歳児健診での声かけや型抜きはがきの送付等、参加者（子ども）の年齢ごとに参加者へのアプローチの方法を検討・計画し、回収率維持・向上の対策強化を図り、回収率の改善に繋がっていることは特に高く評価できる。
愛知ユニットセンター	質問票の回収率の維持・向上に関する取組として、質問票回収日数の短縮を指標に掲げ、「KAIZEN コンテスト」を通じたユニットセンター内の良い事例の横展開も盛り込んだ取組の結果、回収率の改善に繋がっていることは特に高く評価できる。
兵庫ユニットセンター	質問票の回収率の維持・向上に関する取組として、参加者率の減少をできるだけ少なくすることも合わせて指標として掲げ、参加者（子ども）の取りやめ発生数を年齢別に回収率の推移の分析を丁寧に行い、その分析結果を次期の計画・実施に着実に繋げていることは特に高く評価できる。
高知ユニットセンター	コミュニケーション活動に対する取組として、直接的なコミュニケーションの場としてのイベントの他にも、参加者及び調査地域に向けた報告書の配布や地域の新聞への記事の掲載（連載）を通じた調査結果の還元を積極的に行っていることは特に高く評価できる。
熊本大学サブユニットセンター	質問票の回収率の維持・向上に関する取組として、参加者のグループごとの特徴（回収率が低い等）を考慮したアプローチや質問票送付ごとに押されるスタンプラリーの導入などの取組を複数組み合わせを行い、回収率の改善が見られ始めていることは特に高く評価できる。

【宮城ユニットセンター】

観点	<p>1) 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組 3) コミュニケーション活動に対しての取組 4) 成果発表への取組 6) 予算の効率的な運用への取組</p>
各センターで設定した指標	<p>調査協力者と直接コンタクトする機会を増やし、その活用により参加者のモチベーションの維持を図る</p>
(P) 計画 (D) 実施	<p>宮城ユニットで設定した指標を達成するために、以下の5つの計画を立案し、実施した。</p> <p>1. 自治体・教育委員会主催のイベントへの積極的参画 当ユニットでは、調査地域の参加カバー率（参加者数/母子健康手帳発行数）は、6割と高い。また、対象地域が14自治体と広域に及んでいるため、各自治体や教育委員会等で開催される子ども祭りに参加することは、エコチル調査を効率よくアピールする機会につながると考え、エコチル調査対象児が参加する可能性の高いイベントに参画し、これまでに得られた成果をパネル掲示したり、パンフレットを配布したりした。今回参加したイベントのうち、今年度は栗原市主催「元気なくりはらっ子大会 2017」に、イベントのメインプログラムとして当ユニットのイメージキャラクターとして協力して頂いているムックとガチャピンを招聘した。また、我々のブースに立ち寄ってくれた子どもたちにムックとガチャピンの塗り絵を体験してもらった。その塗り絵を当ユニットのホームページに掲載した。</p> <p>2. 保育所・幼稚園での直接的な協力依頼と資料配布 質問票を返送していただいたり、調査に継続して協力していただくために、保育所・幼稚園に通う6割程度の子どもたちがエコチル調査に参加していることから、父母会などでエコチル調査の調査概要や成果について報告してきた。昨年度は石巻市と気仙沼市近郊の保育所と幼稚園を重点的に訪問したため、今年度は、登米市を重点地区とし、保育所・幼稚園訪問を行った。11月に登米市幼稚園長会議、保育所長会議に出席し、登米市の保育所と幼稚園を訪問することの了承を得た。現在までに24施設の訪問を終了し、エコチル調査について説明を行ってきた。また、石巻市教育委員会、栗原市子育て支援課よりエコチル調査の周知チラシ等を管内の保育所・幼稚園への資料配布の協力を頂いた。</p> <p>3. エコチルセミナーによる直接対話と専門的知識の提供 現在のエコチル調査対象児の年齢にみられる親の悩みに寄り添うことを目的とし、専門の講師を招聘して専門的な知識を対話形式でセミナーを開催した。昨年度は、アレルギーをテーマとしたセミナーを5会場で企画し、定員を超えるほど好評であった。そのため、今年度は8会場に拡大し、アレルギーをテーマとしたセミナーを開催した。参加者は1会場当たり6～29名であった。</p> <p>さらに、今年度は宮城ユニットとしては初めて、小規模のヨガ教室を開催した。子どもの年齢の近い母親たちが集まる場を提供することもできた。</p> <p>4. コメント等への対応などコミュニケーション活性化 質問票にお手紙を同封してくれたり、ユニットセンターへの電話などで質問や相談・コメントが寄せられるケースが散見された。参加者との信頼関係の構築を目指し、専門の教員等がコメント等に対し返答を行っている。</p> <p>5. 成果の発表によるコミュニケーションの確立 エコチル調査が始まり、数年が経過している。そのことから、協力教員をはじめとし、論文の執筆に力を入れた。また、宮城ユニットは他のユニットセンターに比べて喫煙率が高いことから、喫煙/再喫煙に着目した解析を進め、学会発表、地域運営協議会での報告に加え、パンフレットを作成した。これは、上述のイベントなどでも配布している。</p>
(C) 評価	<p>1. 自治体・教育委員会主催のイベントへの積極的参画 栗原市でのイベントでは、ブース訪問した子ども200名のうち、ハガキを持参した調査参加者は87名（43.5%）であった。イベントには、現地のスタッフが参加しているため、詳細調査の参加に関して連絡が取れなくなっていた参加者と対面することができ、調査への継続参加を依頼することができた事例もあった。</p> <p>宮城ユニットでは、リクルート時からRCが継続して勤務していることもあり、これらのイベントに参加することで、エコチル調査参加者とコミュニケーションをとる場となる。</p>

	<p>また、自治体や教育委員会とも連携を取っていくことで、エコチル調査を地域で進めているプロジェクトであると印象付けることが可能であったと考える。</p> <p>2. 保育所・幼稚園での直接的な協力依頼と資料配布 2016年度に石巻市・気仙沼市近郊を中心に保育所と幼稚園を訪問した。その結果、石巻市において、質問票の回収率が向上した。そこで、保育所や幼稚園を訪問することの効果も期待されると考え、今年度は、登米市を中心に訪問を行った。訪問やエコチル調査の資料配布期間が10月から12月であったため、今後、配布後の回収率の推移について評価を行う計画である。</p> <p>3. エコチルセミナーによる直接対話と専門的知識の提供 エコチルセミナーは少人数を対象としている。その理由として、10万人のうちの1名であることを伝えていくこと、そして大人数では聞けないことに対応していくことが挙げられる。実際に参加者は6～29名/回と決して多くはないが、終了後のアンケートでの満足度は極めて高く、リピーターもおり、それぞれの専門家と直接話ができるセミナーは重要なコミュニケーションの場であることがある。</p> <p>4. コメント等への対応などコミュニケーション活性化 質問票に、問い合わせが多く寄せられているため、その内容にあわせて専門の教員がコメントを手書きで書き、謝礼と一緒に送付している。これは、参加者の次回の質問票返送につながっていると期待される。また、参加している子どもの発達の遅れを心配している保護者からの相談に対し、医療機関への紹介を行うなど、個別に丁寧に対応するように日頃から心がけている。</p> <p>5. 成果の発表によるコミュニケーションの確立 現在までに、宮城ユニットからは9編の論文を投稿しており、今後もこのように論文を投稿していく計画である。妊娠中にやめた喫煙習慣を、出産後に再喫煙する方の要因をまとめた。これについては、地域の保健師や医師から興味を持っていただくことができたとともに、今後の対応について検討する材料の一つとして活用されることとなった。</p>
(A) 改善	<p>1. 自治体・教育委員会主催のイベントへの積極的参画 費用対効果からの評価を重視し、引き続き自治体・教育委員会主催のイベントへの参加を継続し、参加者とのコミュニケーション、自治体・教育委員会との連携を維持していく。</p> <p>2. 保育所・幼稚園での直接的な協力依頼と資料配布 これまでの活動から、地域差はあるが、保育所・幼稚園の施設長におけるエコチル調査の認知度は少しずつ高まっている。それに伴い、回収率も向上していることから、継続して進めていく。現在は、エコチル調査の紹介や案内が主眼であるが、今後は、成果を報告することや、小学校などとの連携についても考えていきたい。</p> <p>3. エコチルセミナーによる直接対話と専門的知識の提供 セミナーのテーマについては、参加者の興味に沿うようなテーマの選択が課題となっている。今後、年齢も上がっていくことから、テーマの選定を再度行っていきたい。</p> <p>4. コメント等への対応などコミュニケーション活性化 エコチル調査が研究者側からの一方通行とならないように、今後も、質問票などで寄せられた意見や質問等に対して個別に丁寧に対応していきたい。この活動は質問が来た方のみへの特別な配慮であり、エコチル対象者全員が同じように手厚い対応を実感してもらえる方法を模索していきたい。</p> <p>5. 成果の発表によるコミュニケーションの確立 学術誌に投稿した論文については対象者への報告がまだである。対象者にもわかりやすい成果集を作成、配布していき、質問票の回収率につながることを期待している。 再喫煙の要因パンフレットに関しては、自治体の職員やイベントに参加した一部の方のみへの報告にとどまっている。今後、宮城ユニット全体に周知していきたいと思う。</p>

【福島ユニットセンター】

観点	1) 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組
センターで設定した指標	現参加者の減少率を1%以内にとどめる。
(P) 計画 (D) 実施	<p>1 参加者の追跡</p> <p>(1)連絡先の追跡 質問票等があて先不明で戻ってきた場合、電話等で複数回連絡しても連絡が取れない参加者について、市町村に対し住所照会を行い、住所が判明した参加者には、調査の継続を依頼する。(継続) 計画どおり実施し、平成29年度は12月末現在、31件の住所照会を行ったうち26件の住所確認ができ調査を継続している。</p> <p>(2) 代諾者変更手続き 新たな代諾対象者（主に参加児の父親）の調査への参加について、代諾者変更手続きを始める。手続きについて整理し、前年度までに要代諾受領対象者となっていた参加者への同意手続きを円滑に進め、新たな要代諾受領事例が発生した場合は、同意手続きを行う。(新規) この手続きについて、コアセンターに確認をしながら福島ユニットセンターにおける手順を定めた。また、福島本部事務所と郡山事務所の担当者間で情報共有して手続きを開始した。</p> <p>(3) 協力取りやめ、同意撤回件数の最少化 協力取りやめの理由として多忙をあげる参加者が多いことから、参加者からそのような連絡があった場合は、質問票の提出は見送りが可能であるため、状況が落ち着いたら提出して欲しいことを説明する。 計画どおり実施した。</p> <p>2 エコチル調査参加意識の維持</p> <p>(1)ニューズレターの発行 ニューズレターを年4回発行し、参加者全員に調査結果や子育て情報等を提供する。 計画どおり実施した。</p> <p>(2)粗品の配付 調査協力への感謝と調査参加意識の維持向上を目的として参加者全員に、平成29年3月にはグリーティングカード、平成29年12月には成長記録が記載できるカレンダーを作成する。 計画どおり13,000部作成し配付した。</p> <p>(3)県内各地での小規模イベントの開催 参加者とコミュニケーションの取れる機会として「エコチルふれあい会」を開催する。その際には小児科医師、助産師、保健師の育児に関する話や育児相談の機会も設ける。参加者の満足度、調査や事業への意見を参考にするため、イベント参加者へ事業評価アンケートを実施する。 平成29年度は、計21回計画し12月末までに計画どおり15回実施し、181組の親子または母親が参加した。年度内に、計画しているイベントを実施予定である。</p> <p>●子どもの成長や生活形態に合わせた日程での開催 就園する子どもが増えたことから、長期休暇中や土曜日の開催など日程を工夫し、また、保護者対象の新たな企画を立案し実施した。</p> <p>●開催場所の調整 福島県の避難指示解除区域の拡大に伴い、引越等で郵送物送付先を変更される方が増えたことから、アクセスのよい市町村への参加について検討し、平成30年3月開催予定の案内をできるように調整中である。</p> <p>●小規模イベントの実施状況及びアンケート集計結果 平成29年12月末までに181組の親子または母親が参加した。アンケート回答数は177件（回収率97.8%）であり、参加に対する満足度は「とても満足」、「やや満足」が対象者</p>

	<p>別すべてにおいて90%以上であった。また、エコチル調査に参加している主な理由について、「自分の子どもの健康を見守ってもらえる」、「未来の子育ての環境をよくする」、「自分の子どもの成長や発達を振り返る良い機会」、「調査や検査の結果が帰ってくるので参考になる」との回答がそれぞれのべ75件、71件、70件、65件であった。主な理由として最も多かったのは「未来の子育ての環境をよくする」が45件であった。</p> <p>3 謝金の確実な支払</p> <p>参加者への謝礼（電子マネーシステムによるポイント付与）については、質問票提出の翌月に支払いできるように処理する。また、紛失等の再発行手続きを迅速に対応する計画どおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ポイント還元方法が分かりづらいなどの意見があることから、ニューズレターやカレンダーの裏表紙などに説明の記載を継続した。（継続） ●ポイント付与カードを子どもひとりにつき1枚発行しており、兄弟で参加する母親は複数枚所有となっていたことから、1枚のカードに集約して、より円滑にポイントを使用していただけるようシステム改修を実施した。（新規）
(C) 評価	<p>平成29年12月末時点の子どもの現参加者数は12,519人、出生数に対する割合は97.3%（第89回実務担当者WEB会議資料）と高い割合を維持している。平成29年3月末時点の現参加者数は12,590人、出生数に対する割合は97.8%（第80回実務担当者WEB会議資料）であったことから、9か月間で71人、0.5%減少している。計画に基づく取組により、参加者のモチベーションを維持し、現参加者数は目標範囲内にとどめることができていると窺えた。</p> <p>また、エコチルふれあい会参加者アンケートの結果から、多くの参加者にエコチル調査の意義について共有していただいていると思われる。</p>
(A) 改善	<p>平成30年度は、平成23年（2011年）度生まれの子どもたちが学童期を迎えることから、子どもに対する調査への理解を促す取組も重要となると考え、「顔の見える」参加者とのコミュニケーション、福島での子育てを見守ることをモットーとし、これまでの取組を継続しつつ子どもへのアプローチを検討していくため、以下を新たに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニューズレター：子どもを対象とした内容を検討する。 ・粗品の配付：平成30年度入学予定の子ども参加者全員に、4月には入学祝いとして鉛筆を配付する。 ・小規模イベント（ふれあい会）：学童期検査期のふれあい会のあり方や参加者数の確保について検討する。

【千葉ユニットセンター】

観点	2) 質問票回収率を維持・向上させるための取組
各センターで設定した指標	1. 質問票回収率が低いリクルート時期のグループの回収率向上 2. 全体の質問票回収率の向上

千葉ユニットセンターの質問票回収率についての問題点は以下と考えられた。
 ①質問票を提出するタイミングが遅い(直近の回収率が低く、時間がたつにつれて回復する傾向がある) 図1(ウェブ会議資料)
 ②リクルート時期によって回収率の差がある 図2

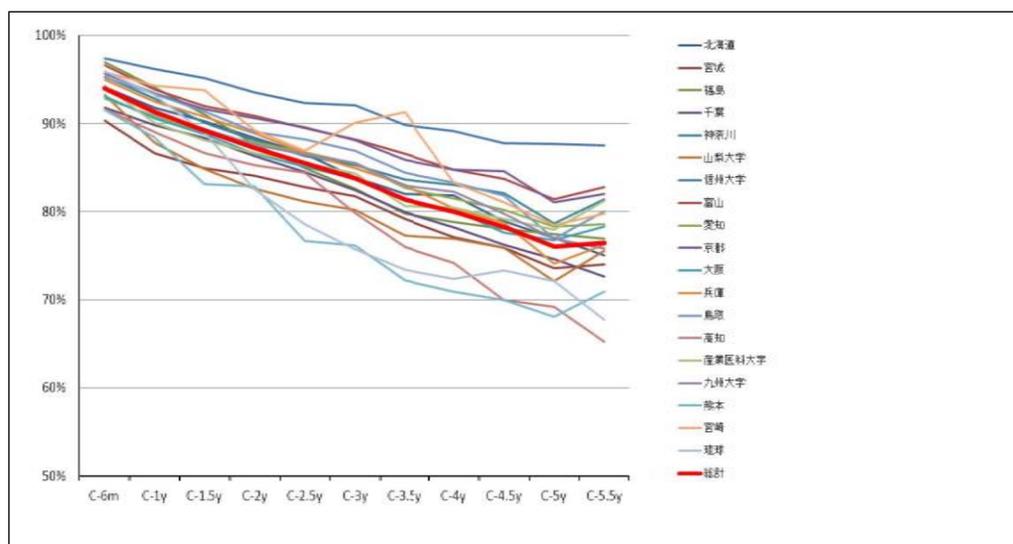


図1. 発送6か月後質問票調査完了率(2018年1月30日現在)
 エコチル調査ウェブ会議資料より

(P) 計画
 (D) 実施

	出産時期														全体
	2011年 第3四半期	2011年 第4四半期	2012年 第1四半期	2012年 第2四半期	2012年 第3四半期	2012年 第4四半期	2013年 第1四半期	2013年 第2四半期	2013年 第3四半期	2013年 第4四半期	2014年 第1四半期	2014年 第2四半期	2014年 第3四半期	2014年 第4四半期	
N	219	290	347	438	510	526	503	446	519	466	377	402	394	193	
6か月	90.4%	93.4%	96.5%	93.4%	95.1%	93.2%	90.5%	87.9%	90.6%	91.2%	93.1%	92.3%	87.3%	77.2%	91.4%
1歳	89.5%	90.3%	95.1%	90.6%	93.1%	90.3%	88.7%	87.0%	89.4%	89.9%	88.9%	78.4%	77.7%	90.2%	88.5%
1歳半	85.4%	87.2%	93.4%	89.5%	91.8%	89.9%	89.9%	85.9%	87.7%	83.5%	82.5%	89.3%	85.8%	86.5%	88.0%
2歳	83.6%	85.2%	93.1%	87.9%	91.2%	89.5%	87.5%	83.9%	84.8%	86.5%	86.2%	81.8%	81.2%	78.8%	86.3%
2.5歳	83.6%	86.2%	92.8%	87.4%	88.6%	87.3%	85.1%	83.0%	82.7%	83.5%	83.8%	74.1%	68.0%	9.3%	81.2%
3歳	81.3%	85.2%	89.0%	85.2%	85.7%	86.1%	79.3%	77.1%	76.7%	76.8%	67.4%	7.0%	0.0%	0.0%	67.2%
3.5歳	78.1%	81.0%	86.2%	82.0%	83.3%	81.2%	74.2%	70.9%	60.5%	6.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	54.3%
4歳	75.8%	79.3%	85.0%	79.2%	76.1%	75.5%	61.2%	7.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	46.7%
4.5歳	72.6%	74.8%	82.1%	71.0%	63.7%	6.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	35.2%
5歳	65.8%	64.8%	59.7%	5.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
5.5歳	52.5%	7.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.6%

図2. リクルート時期と質問票回収率の違い(赤字は平均回収率よりも低い群)

上記の問題点を鑑みて、回収率が低い特定のリクルート時期(2011・2013年リクルート)の参加者が対象にはいるように質問票送付期間を決めて「期間中の質問票を返送していただくとノベルティグッズを差し上げます」というキャンペーン案内送付(図3)と併せて電話、ショートメールによる案内、督促を行った。これは、質問票の提出が遅かったり滞っている参加者はこれまでも何度も督促を行っており、漫然と電話やショートメールをただけでは参加者の方にも「慣れ」が生じているとのフォローアップを行うスタッフからの報告があったため、ノベルティ配布の案内と併せて電話、ショートメールでの督促を行うことにしたためである。

加えて、直近の質問票の返送が少ないことから、直近の質問票(5歳、5歳半)未返送者(リクルート時期が早い参加者)に対して集中的にコンタクトをとり、できるだけ早い返送を依

頼した。
ノベルティグッズについては小さいお子様がいる家庭に喜ばれるもの、送付しやすいもの、を選んだ。(図3)

ノベルティグッズ	対象となる質問票	グッズ案内送付
オリジナル絆創膏	2016年4月～2016年9月送付分	2016年9月14日
今治フェイスタオル	2016年12月～2017年5月送付分	2017年5月22日

図.3 ノベルティグッズと対象質問票時期、案内時期

評価方法は、質問票送付後6か月以上経過した質問票(再依頼の問い合わせを断念した以降の質問票)の回収数を前年度の回収数と比較した。(図4)
評価結果については「オリジナル絆創膏」は、2016年9月14日に案内を郵送し、10月～12月の3か月間、前年よりも6か月以上経過後の質問票回収数が増加していた。
「今治フェイスタオル」は、2017年5月22日に案内を郵送後、さらにショートメールおよび電話でグッズ配付の告知を含めた質問票提出依頼を行った。5月～8月の4か月間、6か月以上経過後の質問票回収数が前年同月比で2倍から3倍に増加していた。
このことから、ノベルティグッズ配付には質問票未提出者からの提出を促進する効果があると考えられた。

(C) 評価

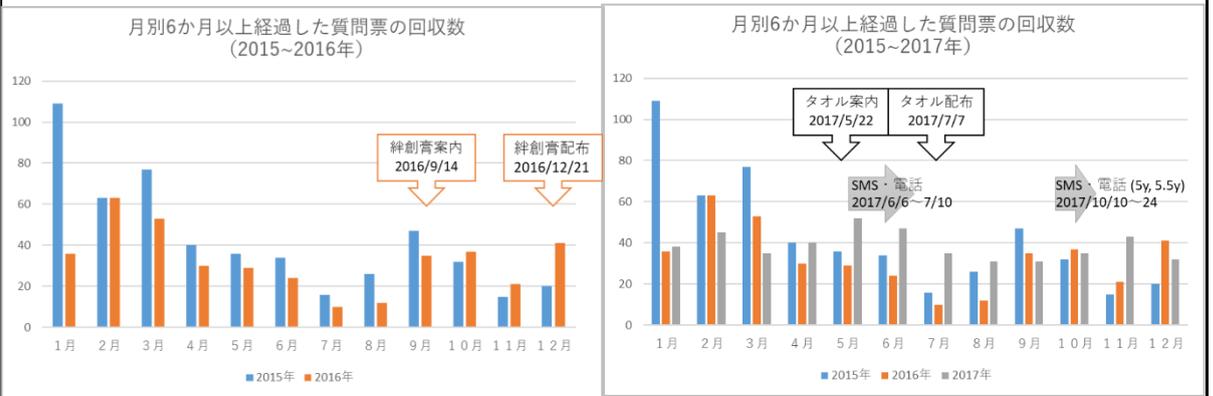


図 4. 月別6か月以上経過した質問票の回収数の比較 (左 2015-2016年・右 2015-2017年)

(A) 改善

2017年6月～2017年11月送付分の質問票返送者にノベルティグッズ(エコバッグ)を送付するキャンペーンを行うこととした。
2月に葉書で全員にキャンペーンの告知、3月からグッズ発送を予定している。また、未提出者にはキャンペーン告知が届く頃にショートメール・電話による提出依頼を行う。
2月以降の質問票返送数をこれまでと比較し、効果の評価する予定である。

【甲信ユニットセンター（山梨大学）】

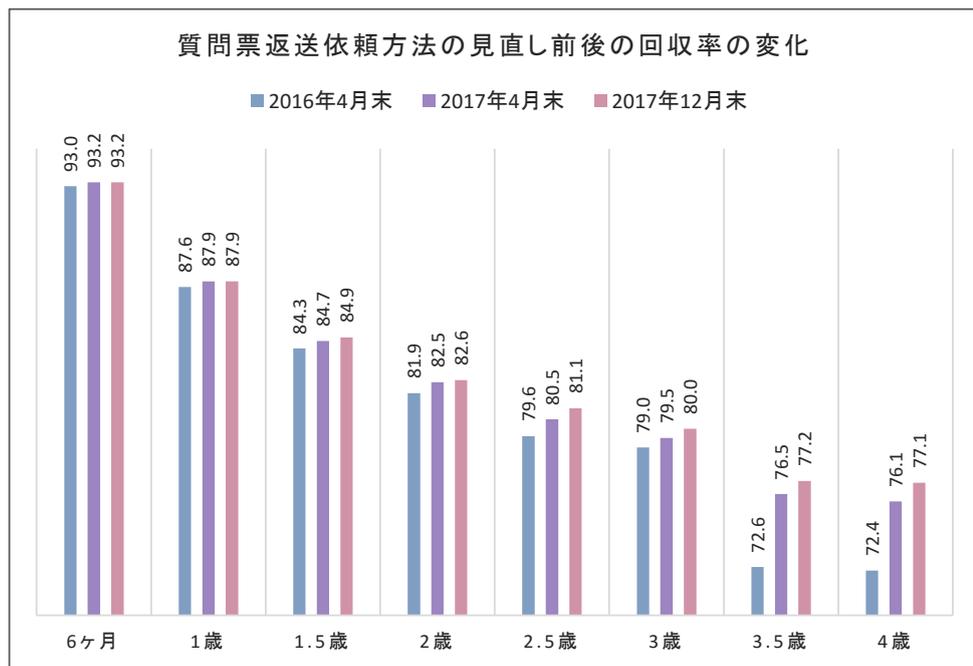
観点	2) 質問票回収率を維持・向上させるための取組
各センターで設定した指標	1. 質問票の返送依頼方法の見直し前と見直し後の年齢別回収率の変化。 2. 質問票の返送依頼方法の見直し前と見直し後の依頼後の回収率の変化。
(P) 計画 (D) 実施	<p>(P) 計画 H28年5月より、質問票未提出の参加者に対し、これまでよりも早期の段階でコンタクトを試みるとともに、連絡手段に電話を取り入れるなど、質問票の返送依頼方法を工夫したところ回収率の低下に改善傾向がみられたことから、本年度も引き続き早い段階でのアプローチと電話によるコミュニケーションの充実を図る。また返送依頼活動の実績や依頼後に回収できた質問票の冊数などを定期的に集計し、回収率の変化を観察する。</p> <p>(D) 実施 ■山梨大学における質問票の返送依頼方法 【見直し前】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 質問票発送から8週間後に未回収の参加者をピックアップし、ショートメールで提出を促す。 ② ショートメールからさらに12週間後に未回収のままの参加者に、ハガキや手紙を送付して提出を促す。 ③ 質問票の年齢ごとにショートメール送信数、ハガキや手紙の送付数などを記録する。 ④ 毎月末時点で依頼後に回収できた冊数を確認し、活動実績をデータ化する。 <p>【見直し後】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 質問票発送から6週間後に未回収の参加者をピックアップし、ショートメールで提出を促す。 ② ショートメールからさらに4週間後に未回収のままの参加者に電話をかける。 ③ 電話からさらに10週間後に未回収の参加者には再度電話をかけ、不通の場合はメッセージ入りのハガキや手紙を送付する。 ④ 質問票の年齢ごとにショートメール送信数や電話発信数、その際の通話、不通話、留守番電話の件数、ハガキや手紙の送付数などを記録する。 ⑤ 毎月末時点で依頼後に回収できた冊数を確認し、活動実績をデータ化する。 ⑥ 作成したデータは毎月1回開くスタッフ情報交換会などで報告し、情報共有を図るとともに、スタッフのモチベーション維持・向上に役立てる。 <p>■H29年度の質問票返送依頼活動の実績 H29年4月～12月にかけて、3歳～6歳時の質問票合わせて4,935冊分の返送状況を観察した。このうち、発送から6週間以内に返送されたのは2,761冊で、返送依頼なしの回収率は55.9%だった。年齢別にみると、最も高いのは3歳時の61.6%、最も低いのは5歳時の47.9%だった。</p> <p>発送から6週間後に未回収の質問票2,174冊分の参加者に対してショートメールで提出依頼文を送信したところ、それから4週間以内に提出されたのは577冊(26.5%)だった。</p> <p>発送から10週間後(ショートメールから4週間後)に未回収のままの質問票1,593冊分の参加者に対して電話による提出依頼を行ったところ、通話できたのは545件(34.2%)で、およそ3人に1人と電話によるコミュニケーションを図ることができた。一方で、通話したことによって、エコチル調査への協力取りやめを申し出た人も15人(0.9%)いた。電話かけから10週間以内に提出された質問票は269冊(16.9%)だった。</p> <p>発送から20週間後(1度目の電話かけから10週間後)に未回収のままの質問票1,304冊分の参加者に対して、再度電話をかけたところ、通話できたのは338件(25.9%)だった。不通と留守番電話にメッセージを残した参加者には、メッセージ入りのハガキや手紙を送付し、返送を促した。その後、H29年12月末までに提出された質問票は134冊(10.3%)だった。</p>

年齢	発送数	返送依頼なし		①SMIによる依頼(発送6w後)		②電話による依頼(発送10w後)				③電話・ハガキによる依頼(発送20w後)										
		回収数	回収率	送信件数	②までの回収数	②までの回収率	電話件数	通話件数	取りやめ数	③までの回収数	③までの回収率	電話・ハガキ件数	通話件数	取りやめ数	12月末までの回収数					
							通話率	取りやめ率		通話率	取りやめ率				12月末までの回収率					
3歳	804	495	61.6%	309	96	31.1%	213	88	41.3%	1	0.5%	42	19.7%	169	56	33.1%	2	1.2%	24	14.2%
3.5歳	866	490	56.6%	376	95	25.3%	280	100	35.7%	4	1.4%	48	17.1%	228	64	28.1%	1	0.4%	27	11.8%
4歳	854	506	59.3%	348	87	25.0%	261	87	33.3%	0	0.0%	45	17.2%	214	49	22.9%	2	0.9%	21	9.8%
4.5歳	792	410	51.8%	382	113	29.6%	268	84	31.3%	1	0.4%	43	16.0%	223	58	26.0%	1	0.4%	24	10.8%
5歳	789	378	47.9%	411	103	25.1%	308	100	32.5%	6	1.9%	50	16.2%	250	56	22.4%	5	2.0%	17	6.8%
5.5歳	735	432	58.8%	303	73	24.1%	228	74	32.5%	3	1.3%	32	14.0%	194	52	26.8%	2	1.0%	20	10.3%
6歳	95	50	52.6%	45	10	22.2%	35	12	34.3%	0	0.0%	9	25.7%	26	3	11.5%	0	0.0%	1	3.8%
合計	4,935	2,761	55.9%	2,174	577	26.5%	1,593	545	34.2%	15	0.9%	269	16.9%	1304	338	25.9%	13	1.0%	134	10.3%

1. 年齢別回収率の変化

質問票の年齢別回収率について、返送依頼見直し前のH28年4月末時点と、見直しから1年後のH29年4月末時点のデータを比較すると、全ての年齢で上昇したことが明らかになった。上昇率が最も高かったのは3.5歳時で、見直し前の72.6%から76.5%へ3.9ポイント上昇した。

さらに、H29年12月末時点のデータと比較してみると、上昇傾向は継続しており、2.5歳と3歳時は80%台に回復した。



2. 返送依頼後の回収率の変化

2歳時から4歳時の質問票について、ショートメールで返送依頼をした参加者を対象にショートメール送信からハガキ発送までの回収率を調べたところ、返送依頼の見直し前は25%~32%前後だったが、見直し後には41~50%近くまで上昇した。つまりショートメール送信の時期を2週間前倒しし、ハガキを送るまでの間に電話によるコンタクトを取り入れたことにより、返送依頼後の回収率は11~20ポイント近く上昇した。

(C) 評価

■ショートメール送信からハガキ発送までの回収率の変化

		SM送信 件数	SM～TELまで (SM～4w後) の回収数	TEL～ハガキまで (TEL～10w後) の回収数	SM～ハガキまで の回収数の合計	返送依頼後 の回収率	ポイント差	上昇率
2y	見直し前(2011/8/21～2014/2/15生まれ)	1021	—	—	308	30.2%	19.2 ↑	63.6%
	見直し後(2014/2/16～2014/11/22生まれ)	334	112	53	165	49.4%		
2.5y	見直し前(2011/7/10～2013/8/17生まれ)	900	—	—	272	30.2%	15.3 ↑	50.7%
	見直し後(2013/8/18～2014/11/22生まれ)	605	197	78	275	45.5%		
3y	見直し前(2011/6/26～2013/2/16生まれ)	781	—	—	255	32.7%	11.5 ↑	35.2%
	見直し後(2013/2/17～2014/8/16生まれ)	876	272	115	387	44.2%		
3.5y	見直し前(2011/6/26～2012/8/18生まれ)	546	—	—	157	28.8%	14.2 ↑	49.3%
	見直し後(2012/8/19～2014/2/15生まれ)	897	254	132	386	43.0%		
4y	見直し前(2011/6/26～2012/2/18生まれ)	289	—	—	74	25.6%	15.9 ↑	62.1%
	見直し後(2012/2/19～2013/8/17生まれ)	879	249	116	365	41.5%		

これらの結果から、質問票回収率については返送依頼を2段階から3段階に増やし、電話による直接対話を取り入れたことによって回収率の向上に一定の効果が認められた。

(A) 改善

H28年から取り組んでいる質問票の返送依頼活動によって、回収率向上に一定の効果が認められたことから、年齢別の質問票についてはしばらくこの方法を続けてみることにする。一方で、6か月時質問票から1冊も提出していないケースや3歳時ぐらいから提出しなくなってしまったケース、数回に1回の頻度で提出するケースなど、参加者によって質問票の提出行動にばらつきが生じていることから、返送依頼活動もそれぞれの状況を考慮した手法をさらに検討していきたい。加えてH30年度からは学年ごとの質問票調査が始まるので、その返送依頼活動の在り方についても検討する必要がある。

【富山ユニットセンター】

観点	1) 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組 2) 質問票回収率を維持・向上させるための取組 3) コミュニケーション活動に対しての取組
各センターで設定した指標	要請方法やグッズ企画の工夫効果による質問票回収率 [平成29年度取組み1-1]
(P) 計画 (D) 実施	<p>これまで質問票回収率は高い水準が維持されており、今後も回収率維持を続けるために、次の2つの工夫、要請方法の工夫、グッズ企画の工夫について計画を策定し実施した。これらの工夫は、ひいては参加者のモチベーション維持や、参加者とのコミュニケーション活動にもつながると考えている。</p> <p>P1：要請方法の工夫の計画</p> <p>特に回収率低下の傾向が予想された3.5歳質問票への回収効果に焦点をあて、具体的に次の3つの要請方法に関する計画を作成した。</p> <p>① 3歳児健診会場での面会による受取の事前要請 ② 発送後2週時点の型抜きはがき(資料1-1-1)送付による要請 ③ 発送後12週時点の電話による要請</p> <p>D1：要請方法の工夫の実施</p> <p>① 3歳児健診会場での面会による受取の事前要請 各保健センターで実施される3歳児健診(以下、3健)会場にRCなどが訪問し、来場者全員に声かけを行った。質問票未提出者には、<u>事前に3健訪問する旨を電話連絡し、質問票を持参いただくように依頼した。</u></p> <p>② 発送後2週時点の型抜きはがき送付による要請 昨年度、4歳時質問票の回収率アップに向けた取り組みとして、発送2週後にエコチルキャラクターをかたどった返送要請のための型抜きはがき(資料1-1-1)の送付を実施した結果、早い時点での回収率上昇に寄与し、回収時期を早める効果が期待されたため、これを<u>4歳以上の全てのステージにおいても実施</u>することとした。</p> <div data-bbox="504 1290 1217 1821" data-label="Image"> </div> <p>③ 発送後12週時点の電話による要請 5歳、5.5歳時質問票の回収率アップに向けた対策として、発送後12週時点で、コミュニケーション能力の高いベテランのRCによる電話の返送要請を実施することとした。詳細調査のリクルートの経験や現場の意見を検討し、電話がつながりやすいと期待された日中11時50分頃～12時30分頃に集中的に取り組むこととした。</p>

P 2 : グッズ企画の工夫の計画

グッズの回収率への効果に関しては、質問票回収後の「返送お礼タイプ」のグッズ送付は富山ユニットセンターでは効果が期待できないことが分かっていた（資料1-1-2、1-1-3）ため、これに代わる効果的なグッズを企画した。ここでは新規に効果検証できた下記2種類の検討結果を記載する。

④おはしパンツ

⑤ミニポケットティッシュ

D 2 : グッズ企画の工夫の実施

④おはしパンツ

「返送お礼タイプ」に替えて、3歳時質問票発送の直前に3歳誕生祝としての送付を実施した。このグッズは、質問票がもうすぐ到着予定である旨をお知らせし、関心を喚起することが期待された。誕生祝である事とかさばる事の両方で興味を引く相乗的效果も期待した。

⑤ミニポケットティッシュ

4歳、4.5歳、5歳にかけて、質問票に同封を実施した。これは、一時期質問票の紛失の連絡が多かったことから、封筒が膨らむことで他の郵便物に紛れにくくなる効果と「質問票以外に何が入っているのかな」と関心がわいて、直ぐに開封するきっかけになる効果が期待された。

その他、イベントや3健時の声かけの際は、グッズを渡すことで声かけしやすいという現場スタッフの意見があり、継続実施することとした。（グッズに関する検討の詳細は「取組-1-3」に記載したため、本報告には記載しない。）

資料 1-1-2



質問票ご返送の方全員に
**オリジナルグッズ
プレゼント中**

詳細がはよほど
収まるサイズです

オリジナルハンダタオル
オリジナルビニールポーチ
オリジナル（5枚入り）

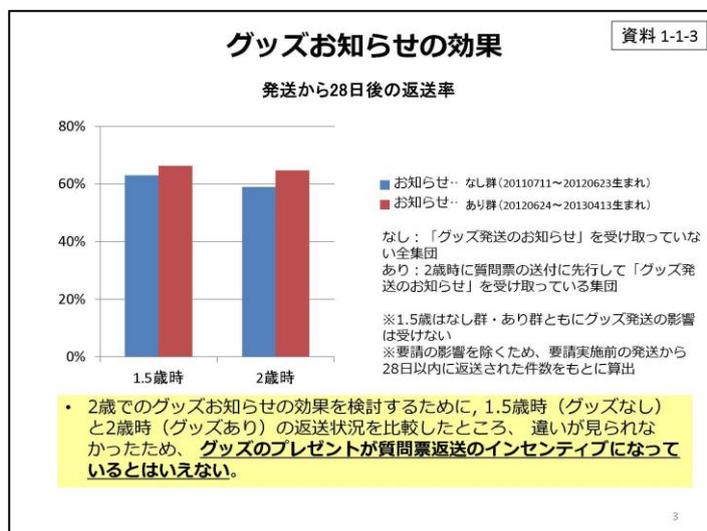
エコチル富山ユニットセンター
〒930-0194 富山県射野2630
TEL: 076-415-8842 FAX: 076-415-8843
E-mail: ecopru@med.u Toyama.ac.jp

**返送インセンティブ
としてのグッズ配布**

2歳時返送の方にタオル
2.5歳時返送の方に
ビニールポーチ

をプレゼント。

質問票送付時に、左の「グッズプレゼントのお知らせ」チラシを同封。このお知らせをした群としなかった群で回収率を比較。グッズ配布が返送のインセンティブとなるか検討した。



C 1 : 要請方法の工夫の評価

① 3歳児健診会場での面会による受取の事前要請

3健では、質問票を新たに317件回収できた。焦点をあてた3.5歳時質問票は、6か月後回収率が85.1%から86.5%に上昇し、3健での要請には一定の効果があると確認された(H28年3月、H29年12月末時点比較値)。[詳細は第7回エコチルシンポジウム掲示ポスター“富山ユニットセンターのフォローアップの取組み”にも掲載]

さらに、3健の活動では、エコチル調査参加者のみならず、エコチル調査非参加の一般者の方にも同様に声かけを実施して、調査報告のチラシなどを配ることができた。このように3健を成果還元の場合やコミュニケーションの場合として有効活用し、エコチル調査の認知度向上を図った。

② 発送後2週時点の型抜きはがき送付による要請

送付を実施した4歳時の質問票回収率は83.1%から84.8%に上昇し、型抜きはがきによる要請に一定の効果が確認された(H28年3月、H29年12月末時点6か月後送付の比較値)。

事前にスタッフ間で検討した結果、早い時期に返送の要請をするのは参加者にとって重荷になる可能性が考えられたため、送付する型抜きはがきはキャラクター性を重視して雰囲気をやわらげ、要請問合せの意味を伴わせたことも良い結果につながったと思われた。

4.5歳時、5歳時については7月から取組みを開始したため、実施時期と未実施時期の比較をした結果、回収率は4.5歳時83.6%→83.5%、5歳時81.8%→80.8%、だった(H29年6月、12月末時点6か月後送付の比較値)。この回収率の推移は統計的な差はなかった(各々 $p=0.96$, $p=0.60$)ため、積極的な回収率向上の効果はみられなかったものの、回収率維持の効果はあったと確認できた。

③ 発送後12週時点の電話による要請

H29年5～9月に電話対象となった人の回収率を算出して評価を行った結果、5歳時では通話できた人74名中17名(23.0%)、5.5歳時では58名中7名(12.1%)の返送があり、通話できなかった人と比較すると回収率が高かったことより、この効果が現れていることが確認された(H29年12月末時点)。

C 2 : グッズ企画の工夫の評価

④ おはしパンツ

3歳時の質問票回収率はH29年3月末と12月末時で約88%(送付後6か月以上経過時)と同率での推移だった。この結果から、積極的な回収率向上まではいかないものの、回収率維持の効果が確認された。また、富山ユニットセンターで心配されていた質問票紛失に関して、電話要請(要請方法の工夫③)の影響を受けない期間内という条件下、紛失連絡数を検討比較した結果、前年度同期比で51件から34件に減少しており、かさばるグッズの同封による紛失回避の効果も確認できた。

⑤ ミニポケットティッシュ

同封した質問票の回収率はそれぞれ、4歳時84.8%、4.5歳時83.5%、5歳時80.8%だった(H29年12月末時点)。4歳時と4.5歳時に統計的な差はなかった($p=0.22$)が、5歳時の質問票を含めて検討すると回収率は統計的に有意に低下していた($p=0.004$)。この結果から、年齢ステージとともに回収率が低下傾向にあるなかで、グッズ同封が回収率維持の効果を発揮したことと、全国のユニットセンターでも回収率低下傾向がみられた5歳時質問票に関してはミニポケットティッシュ同封ではカバーしきれない回収率低下要因があることが分かった。ミニポケットティッシュは好感度が高いことが分かっていたが、今後、回収率を復活させるためには、新たなグッズ企画が必要と考えられた。

新たなグッズとして、歯ブラシ&はみがきカレンダーを企画し、続く年齢ステージの5.5歳時質問票に同封した結果、5歳時の回収率減少傾向が下げ止まり、4～4.5歳

(C) 評価

	<p>時と同じ回収率82.6%にまで回復したことが確認できた(p=0.25)。 回収率が年齢と負の比例関係にあることを鑑みると、この歯ブラシ&はみがきカレンダーに関する新企画グッズの同封は非常に効果的だと考えられ、今後は様々な企画と併行して、他の年齢ステージへの活用も検討することとした。</p> <p>回収率維持のための要請の方法総合評価 要請方法・グッズ企画の工夫に取り組んだ効果によって、全体的な回収率が改善し、質問票回収率の直近の改善状況が平成29年度年次評価書掲載値<u>0.419</u>から<u>0.080</u>へプラスに転じた成果につながったと考えられる。</p>
(A) 改善	<p>A1：要請方法の工夫の改善 ①～③ A2：グッズ企画の工夫の改善 ④・⑤</p> <p>いずれの取り組みも効果が現れているので今後も継続していく。 グッズ企画は、3健などで実施したアンケート結果を今後に生かせるよう工夫を続け、参加者が望むものを費用対効果や相乗効果を念頭に置いて検討していく。</p>

【愛知ユニットセンター】

観点	2) 質問票回収率を維持・向上させるための取組
各センターで設定した指標	<p>昨年度より継続している質問票回収率の維持・向上策に加え、新たに「質問票回収日数(発送から回収までの日数)短縮*」を目標に設定。 *回収が遅延した質問票は思い起こしバイアスなどが生じ、質問票データの質に影響を与えるため(質担保)。</p>
(P) 計画 (D) 実施	①リマインド方法改善(保健所・保健センター健診時の対面リマインドと広報誌での案内+質問票発送後1ヶ月での電話及びショートメール通知を追加)、②データマネジメント(DM)部門設置(平成29年4月～)、③横展開重視型KAIZENコンテストの定期開催、④KPI(Key Performance Indicators, 重要評価指標)に基づく参加状況モニタリングの仕組み作り、を実施した。
(C) 評価	<ol style="list-style-type: none"> 質問票回収率の維持状況は、11.1%→14.1%(7月時点)と同水準を維持、全国平均(18.6%)より大幅に良い軽減率を維持。 平成28年度より継続実施しているKAIZENコンテストでは、平成29年度は質問票回収に関する横展開事例(事務局・サテライト拠点間で共有したい事例)が6件提案、継続的な改善活動が展開されている。 KPIとしてa)四半期毎平均回収日数、b)個人毎の縦断回収日数変動、c)欠損パターン統計を設定、モニタリングツールの作成をDM部門で着手。a)については3歳6ヶ月時点の質問票については、ベースラインデータ(平成28年度)の平均回収日数:40日に対し、平成29年度第2四半期では34日、4歳時点の質問票は同じく39日→35日に短縮、一定の効果が認められた。
(A) 改善	KPIに基づく参加状況モニタリングをリアルタイムかつ系統的に集計・共有できるように、DM部門にて上記a)～c)をモニタリングできる愛知ユニットセンター独自のデータベースを開発中(～平成29年度第3四半期)。

【兵庫ユニットセンター】

観点	2) 質問票回収率を維持・向上させるための取組																																				
各センターで設定した指標	参加率の減少をできるだけ少なくする。 質問票は、送付後6か月以上の回収率の維持・向上に努める。																																				
(P) 計画 (D) 実施	<p>1. 質問票の返送依頼</p> <p>1) 年度当初の方法</p> <p>平成28年度までの質問票回収率が全国平均を上回っていたため、今期も返送依頼方法は大きな変更は行わずに以下の通り実施し、①～④の効果検証を毎月行った上で、必要に応じて改善を図ることとした。</p> <p>① 質問票発送後2か月経過しても返送が無い場合に返送依頼のハガキを送付する。 ② その後1か月以上経過しても返送が無い場合は電話で連絡する。 ③ 電話で依頼しても返送の無い場合や、電話しても留守番電話につながらない場合は手紙を送付する。 ④ 次の質問票が送付される少し前のタイミングに2回目のハガキを送付する。</p> <p>2) 返送依頼時期の見直し</p> <p>兵庫ユニットセンターにおける質問票回収率は3.5歳までは全国平均よりも高かったが、4歳、4.5歳はほぼ同率であり、5歳では全国平均よりも低い傾向となっていた(図1)。そのため、他のユニットセンターにおける返送依頼と回収率の状況を分析した(資料2)。その結果、返送依頼の開始時期が最も遅いことが明らかとなったため、10月以降は1回目の返送依頼ハガキの送付時期を早め、質問票発送の4～6週後に送付することとした。</p> <div data-bbox="443 992 1321 1512" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>図1 発送6か月後の質問票完了率 (調査時期別)</caption> <thead> <tr> <th>調査時期</th> <th>兵庫 (%)</th> <th>全国平均 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6m</td> <td>95%</td> <td>94.10%</td> </tr> <tr> <td>1y</td> <td>92.50%</td> <td>91.30%</td> </tr> <tr> <td>1.5y</td> <td>90.80%</td> <td>89.20%</td> </tr> <tr> <td>2y</td> <td>88.90%</td> <td>87.20%</td> </tr> <tr> <td>2.5y</td> <td>86.60%</td> <td>85.50%</td> </tr> <tr> <td>3y</td> <td>84.90%</td> <td>83.80%</td> </tr> <tr> <td>3.5y</td> <td>83.20%</td> <td>81.30%</td> </tr> <tr> <td>4y</td> <td>80.40%</td> <td>80.10%</td> </tr> <tr> <td>4.5y</td> <td>78.40%</td> <td>78.30%</td> </tr> <tr> <td>5y</td> <td>74.20%</td> <td>75.80%</td> </tr> <tr> <td>5.5y</td> <td>75.80%</td> <td>76.40%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>図1 発送6か月後の質問票完了率 (調査時期別)</p> <p>2. 協力取りやめを申し出た参加者への対応</p> <p>子どもの成長に伴って母親が就業するなど、多忙となっていることを理由に協力取りやめの申し出が増加傾向となっている。特に、質問票の返送依頼のハガキ、電話連絡等の機会に協力取りやめを申し出ることが多い。その場合、エコチル調査の意義を改めて説明するとともに、ユニットセンターで実施しているイベントなどについても説明し、調査に参加することのメリットを感じてもらえるようにする。</p> <p>また、すぐに取りやめとするのではなく、2回程度は質問票への回答をお休みしていただくことを提案する。その場合は、コアセンターから質問票は送付されるが、ユニットセンターから返送の依頼は実施しないこととした。</p>	調査時期	兵庫 (%)	全国平均 (%)	6m	95%	94.10%	1y	92.50%	91.30%	1.5y	90.80%	89.20%	2y	88.90%	87.20%	2.5y	86.60%	85.50%	3y	84.90%	83.80%	3.5y	83.20%	81.30%	4y	80.40%	80.10%	4.5y	78.40%	78.30%	5y	74.20%	75.80%	5.5y	75.80%	76.40%
調査時期	兵庫 (%)	全国平均 (%)																																			
6m	95%	94.10%																																			
1y	92.50%	91.30%																																			
1.5y	90.80%	89.20%																																			
2y	88.90%	87.20%																																			
2.5y	86.60%	85.50%																																			
3y	84.90%	83.80%																																			
3.5y	83.20%	81.30%																																			
4y	80.40%	80.10%																																			
4.5y	78.40%	78.30%																																			
5y	74.20%	75.80%																																			
5.5y	75.80%	76.40%																																			

1. 質問票の返送依頼

1) ハガキによる返送依頼の効果

返送依頼対象数は表 1 に示したとおりであり、10 月 16 日以降は返送依頼時期を早めたために対象数が増加している。

質問票の発送日別に、返送依頼後の質問票返却数の推移をみたところ、1 回目のハガキでの依頼に反応して返送される質問票の大部分は 1 回のみ未返送であった参加者からであり、2 回以上未返送となっていた場合は、ハガキによる依頼だけでは返送されないケースが多かった。そのため、ハガキは 1 回のみ返送のない参加者への働きかけとしては効果があるものの、2 回以上続けて返送のない参加者への働きかけとしての効果は不十分であると考えられた。

表 1 返送依頼後の返却数の推移(発送グループ別)

質問票発送日	依頼対象	ハガキ	電話	電話応答なし	再送後	返却総数	依頼後反応率
2017/07/10	153	39	12	6	7	64	41.8%
2017/07/24	128	31	14	10	1	56	43.8%
2017/08/07	169	40	18	8	4	70	41.4%
2017/08/21	148	23	11	10	3	47	31.8%
2017/09/04	150	27	14	10	1	52	34.7%
2017/09/18	140	33	6	4	2	45	32.1%
2017/10/02	151	49	4	1	1	55	36.4%
2017/10/16	181	65	6	5	2	78	43.1%
2017/10/30	152	38	0	1	1	40	26.3%
2017/11/13	205	66	5	1	1	73	35.6%

2) 2 回以上返送のない参加者についての分析

1) で述べたとおり、2 回以上続けて返送のない参加者への対応を見直す必要があると考えられたため、これまで複数回にわたって質問票の返送がない 821 人(参加者の 17.9%)について検討を行った(資料 3)

その結果、2 回以上質問票の返送がない参加者は、1 回のみ返送のない参加者に比べてエコチル調査への参加意欲が大きく低下している可能性があると考えられた。

こうした参加者に対しては、返送を依頼するというハガキや電話による働きかけでは高い効果を期待するのは難しいと考えられる。ハガキ料金が値上げになったこともあり、費用対効果の点でもハガキの送付は再考し、他の方法や手段についても検討する必要があると思われた。

また、回収率低下を抑えるためには 2 回以上の質問票が未提出とならないよう、これまでよりも早期に返送依頼を行うことが望ましい。

3) 電話による返送依頼の効果

ハガキを送付しても返送がない場合に行っている電話依頼についても、10 月以降は依頼時期を早めたために架電数が増加している(表 2)。電話依頼後の返送数は月に 30 件程度であり(表 1)、電話で参加者とお話しした上で質問票を再送付して返送されることもあるため、電話による依頼には一定の効果があることが確認できた。

一方、電話で直接話ができるのは架電数の 25~30%にとどまっており、留守番電話にメッセージを残す場合が約 20%であり、まったく応答のない場合が半数を超えている。そのため、ハガキ、電話以外の手段による依頼についても検討する必要がある。

表2 電話による返送依頼

	架電数	通話数	留守電話	応答なし
7月	184	53 (29%)	35 (19%)	96 (52%)
8月	154	41 (27%)	33 (21%)	80 (52%)
9月	239	76 (32%)	57 (24%)	106 (44%)
10月	403	106 (26%)	74 (18%)	223 (55%)
11月	258	64 (25%)	46 (18%)	148 (57%)
12月	287	66 (23%)	58 (20%)	163 (57%)

4) 返送依頼の開始時期を早めた効果の評価

当初は質問票発送後 2 か月経過しても返送が無い場合に返送依頼ハガキを送付していたが、10月16日以降は4~6週後に送付するように時期を早めた。その結果、ハガキの送付数が多くなったが、返送数も増えており(図2)、ハガキ送付時期を早めた効果が認められた。

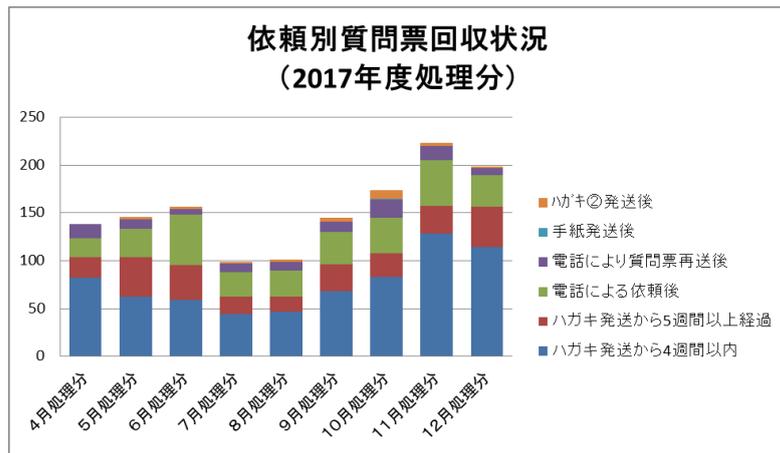


図2 返送依頼方法別の質問票返送状況(月別)

また、返送依頼開始時期を早めた対象者について、10月16日に送付した質問票と、6か月前に送付した質問票の回収率を比較した(表3)。その結果、質問票の発送4週間後の回収率はいずれも50%であったが、6週間後、2か月後の回収率はいずれも6か月前に比べて5ポイント高くなっており、返送依頼時期を早めたことによる効果が認められた。

表3 質問票送付後の返送状況(回収率)

発送日	発送数	4週間後	6週間後	2か月後
4月17日	365	181 (50%)	212 (58%)	235 (64%)
10月16日	364	183 (50%)	230 (63%)	252 (69%)

2. 協力取りやめを申し出た参加者への対応

1) 協力取りやめの発生数

協力取りやめの月別発生数を前年と比較すると、本年度は5月に8件と最多であったが、その後は徐々に減少し、8月以降は前年よりも少なくなっている(図3)。

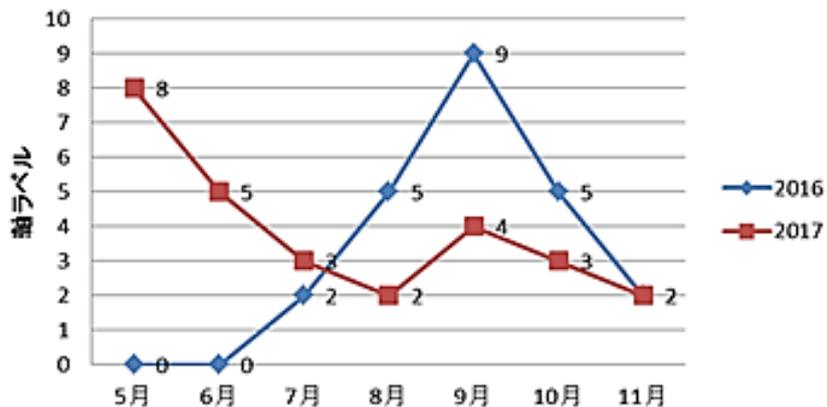


図3 協力取りやめの発生数(月別、前年との比較)

子どもの年齢別にみると、5歳での取りやめが9件と最も多く、他の時期の2倍以上であった（図4）。これは、子どもの成長に伴って母親が就業することなどによる影響と考えられた。

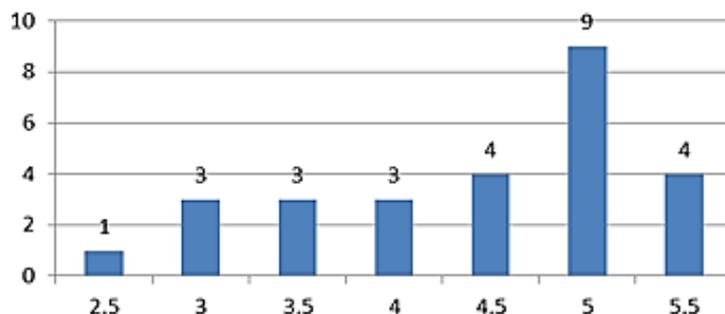


図4 協力取りやめの発生数（子どもの年齢別）

2) 協力取りやめの申し出への対応

質問票に同封して返送される登録内容変更届への記載や、参加者本人からユニットセンターへの電話連絡によって取りやめを申し出られる場合は、それまでの質問票に全て回答していただいている場合が多い。取りやめの理由として、質問票の内容と量が負担となっており、これ以上は継続できないことを挙げられることが多い。こうした場合、調査の意義やメリットを説明したり、お休みを提案したりしても、質問票を提出しないこと自体が精神的負担であるからと、拒否されることが多い。

協力取りやめを申し出る参加者の中には、以前にも協力取りやめの申し出があり、その際は質問票の回答をお休みして調査を継続することとしていた参加者もいた。一方で、少数ではあるが、しばらくお休みした後に、新しい質問票に継続して回答してくれる参加者も存在することから、お休みを提案することにも一定の効果はあると考える。

また、協力取りやめを申し出た参加者に対して、取りやめ後の対応について十分な説明を行わなかったために不信感を抱かせるインシデントが1件発生した。

1. 質問票の返送依頼方法

- 1) ハガキによる1回目の返送依頼を行う時期を早めたことによる効果が認められているため、今後も質問票送付の4~6週間後にハガキによる返送依頼を開始する。
- 2) 2回以上質問票の返送がない参加者に対しては、依頼ハガキに手書きのメッセージを添えるなど、これまでと違った方法でのアプローチを行う。また、費用対効果も考慮して、ショートメールの利用を試行する。ショートメールは文字数の制限など、その効果には疑問もあるため、まずは3回以上返送がなく、電話も繋がらない参加者に限定して、ショートメールによる依頼を行い、その効果を検証した上で、依頼対象者の拡大を検討する。
- 3) 電話による依頼は繋がらない場合も多いが、参加者と直接会話することができ、一定の効果が認められることから、継続して実施する。電話が繋がりやすい時間帯も含めて、架電の効果を検証する。
- 4) 電話による依頼内容を標準化するためのオペレーションフローを作成し、スタッフ間で共有する。
- 5) 日常的に参加者とのコミュニケーションを図り、参加者のモチベーションを維持・向上させるための取り組みを継続する（具体的な取り組みは別紙に記載の通り）。
- 6) 特に、2回以上の質問票が未提出となっている参加者に対して、小学校入学時のプレゼント送付などを契機として、新しい気持ちで協力していただけるようにコミュニケーションを取り続ける。

(A) 改善

2. 協力取りやめを申し出た参加者への対応

- 1) すぐに協力取りやめとするのではなく、エコチル調査の意義や参加者へのメリットなどを改めて説明する。また、調査協力が負担になっているという場合は、2回程度質問票の返送をお休みすることを提案する（その間は返送依頼を行わないことを説明する）。
- 2) 1)の対応にもかかわらず、協力取りやめとなった場合は、これまでにご提供いただ

	いた試料や情報の取り扱いについて説明した上で、「協力取りやめ」または「同意撤回」の手続きを行う。そのためのフローを作成し、全スタッフで共有する。
	3. 次回の評価 改善した取り組みの結果について、参加者率、質問票の回収率、回収率の低減率等を毎月の定例会に報告してスタッフ間で共有し、他のユニットセンターにおける状況とも比較して、効果検証を行う。

【高知ユニットセンター】

観点	3) コミュニケーション活動に対する取組
各センターで設定した指標	1. 質問票回収率の低減率抑制 2. 参加者率の維持
(P) 計画 (D) 実施	<p>平成 29 年 2 月に一般向けイベントを開催し、その内容が地元新聞紙・高知新聞へ掲載され、そこからエコチル調査連載がスタートした。調査から分かったこととして、高知新聞に全 30 回の記事を掲載（平成 29 年 5 月～7 月）。</p> <p>その他、参加者や自治体、県下保育園および幼稚園、医療機関など協力機関等への「こうちエコチル調査報告書 2016 年版」の配布。子育て支援誌へイベント開催等のお知らせを掲載し、コミュニケーション活動を継続。</p> <p>平成 29 年度調査から分かってきたこととして「こうちエコチル調査報告書 2017 年版」を作成、12 月より配布を開始した。</p> <p>また、イベント時に実施するアンケートにより、例年と比較した参加者の動向把握を継続して実施。大型イベント（すこやか）で実施するアンケート調査を今年度は幡多地区イベントでも実施し、遠隔地の参加者の動向把握に努めた。</p>
(C) 評価	平成 27 年度のイベント時のアンケートで、最も要望の高かった「調査で分かったことを知らせてほしい」という結果から、参加者と一般の両方への広報活動も積極的に継続している。例年のアンケート結果を比較すると、「分かったことを知らせてほしい」とい

別表3

こうちエコチル調査報告書2017年版 配布先一覧

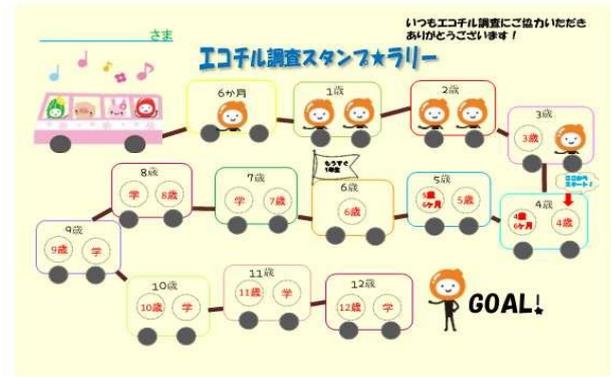
NO	配布先
1	エコチル参加者
2	エコチル調査運営協議会・エコチル調査運営委員会
3	公立保育園・幼稚園 (南国市・香南市・香美市・四万十市・宿毛市・土佐清水市 橋原町・黒潮町・大月町・三原村)
4	高知県内 私立幼稚園
5	県内自治体 34市町村 (高知大学広報誌 Lead同封)
6	高知県秘書課・広報広聴課・私学・大学支援課 (高知大学広報誌 Lead同封)
7	高知市各ふれあいセンター (高知大学広報誌 Lead同封)
8	県内小児科医
9	全ユニットセンター・サブユニットセンター
10	高知医療センター
11	国立病院機構 高知病院
12	高知赤十字病院
13	浅井産婦人科・内科
14	はまだ産婦人科
15	国見産婦人科
16	田村産婦人科
17	内田産婦人科
18	高知ファミリークリニック
19	高知大学医学部附属病院
20	JA高知病院
21	たにむら産婦人科
22	高知県立幡多けんみん病院
23	菊地産婦人科医院
24	市立宇和島病院
25	長野産婦人科医院
26	萩山産婦人科レディースクリニック
27	かわばた産婦人科
28	伊藤産婦人科
29	梅原産婦人科
30	にこにこレディースクリニック
31	高知大学 男女共同参画推進室
32	高知大学 教育学部(幼児教育コース)
33	高知新聞社
34	高知大学 ニューシネマ☆パラダイス
35	高知大学 看護学部
36	のいち動物公園
37	株式会社ココロ・サン
38	イオン高知店
39	高知県安芸市赤野公民館
40	南国市立スポーツセンター
41	RKC調理製菓専門学校
42	株式会社サニーマート(管理本部・中央流通センター)
43	株式会社サンシャイン(企画部販売促進課・本部)
44	対象地区以外市町村(子育て支援担当部署) 室戸市・安芸市・土佐市・須崎市・東洋町・奈半利町・田野町・安田町・北川村 馬路村・芸西村・本山町・大豊町・土佐町・大川村・いの町・仁淀川町・中土佐町 佐川町・越知町・日高村・津野町・四万十町

	<p>う要望が 59% (2015)、36% (2016)、27% (2017)、「現状でいい」という声が 38% (2015)、44% (2016)、48% (2017) であり、この結果からある程度要望が満たされており、参加者とのコミュニケーション活動も維持できている。</p> <p>また、遠隔地である幡多地区イベントでのアンケート調査結果より、幡多地区イベントに参加した全員から「楽しかった (とても楽しかった 73%、楽しかった 27%)」という評価を得、エコチル調査幡多地区参加者 1,186 人のうちの 4.9% がイベントに参加していたことが分かった。高知県中心部でのイベント (2017 スポーツフェスタ) への主な対象地区 (高知市、南国市、香南市、香美市) の参加率 3.0% と比較すると、幡多地区参加者の幡多地区イベントへの参加率は 4.9% と高いものと言える。</p> <p>高知県中心部でのイベントへの幡多地区からの参加は僅か 4 名 (イベント参加者 216 人中) であり、恒例となっている高知県中心部でのイベントへは幡多地区からは参加しづらいことが分かる。地区ごとにイベントを実施することで参加者の「イベントに参加したい」というニーズに対応できる。</p>
(A) 改善	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔地参加者のニーズにより、イベント実施の継続、および今年度初めて実施した幡多地区イベントでのアンケート調査を継続し、アンケート結果を比較し、コミュニケーション活動の評価を行う。 ・今後、参加者のニーズに応えるため、調査結果を分かりやすく説明する報告会をイベントの冒頭に行う。 ・イベントの対象者を一般市民に広げ、調査結果の社会還元に努める。 ・対象地区保育園、幼稚園、小学校を訪問し、教員や保護者に向けての報告会の実施やエコチル講話を実施し、質問票調査への協力を得る。エコチル調査の社会的認知向上に力を入れ、質問票回収率改善、参加者率の維持に繋げる。

【熊本大学サブユニットセンター】

観点	2) 質問票回収率を維持・向上させるための取組
各センターで設定した指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現参加者率 97%台を維持・質問票回収率の低減は 5 ポイント以内に抑える ・ 各年齢の抽出グループ毎の回収率をすべて平均回収率-10%以上に引き上げる
(P) 計画 (D) 実施	<p>P：年々回収率が低下してきていることからスタッフ会議を繰り返し行い、フォローアップにおける参加者へのリマインド方法を全体で見直し、対象者へのアプローチ方法を大幅に変更する計画を立てた。</p> <p>D：今年度より下記のとおり 4 点の指標強化対策を開始した。</p> <p>① 質問票返送依頼方法の変更と抽出グループごとのアプローチ アプローチ① 返送依頼ハガキ送付（質問票発送後、約 4 週間） アプローチ② ショートメール送信（返送依頼ハガキ送付後、約 2 週間） アプローチ③ 架電（ショートメール送信後、約 2 週間） ※アプローチ③の後、約 2 週間後に回収率を算出</p> <p>2017 年 8 月より、アプローチ③の手法をショートメールから架電へ変更した。質問票の記入や謝礼の受取りで困っていることはないか確認し、謝礼については電子マネーから金券に変更できることを案内する。不通の場合はショートメール送信とするが、下記 3 つの条件のいずれかに該当する参加者については 3 回まで電話をかけることとした。ただし、3 回架電しても不通の場合はショートメール送信とした。就業している方が多いため、昼休みの時間帯を中心に架電を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回質問票の提出があるものの、今回の質問票が提出されていない参加者 ・ 前回の回収率が平均と比較して 10%以上低い抽出グループに属する参加者 ・ 前回の回収率が前々回の回収率と比較して 7%以上減少している抽出グループに属する参加者 <p>② 事前案内の送付（5 月開始）および送付後の電話案内（8 月開始） 質問票発送前に事前案内を一斉送付し、これまでに質問票を全て返送している参加者以外を対象とした電話案内を行う。質問票の記入や謝礼の受取りで困っていることはないか確認し、謝礼については電子マネーから金券に変更できることを案内する。12 月以降、地域 RC と参加者とのコミュニケーションを深めるため、電話案内の業務を熊本大学から人吉事務所へ移行した。事前案内の文章については随時内容を変更する。</p> <p>③ オリジナルでこぼんハガキによる手書きメッセージの送付（4 月開始） 下記の条件に該当する参加者にオリジナルでこぼんハガキによる手書きのお礼状を送付。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回未提出で今回提出していただいた参加者（8 月以降） ・ 質問票などにメッセージを書いて送って下さった参加者 </p> <p>④ スタンプラリーカードの配布（9 月開始） 過去の質問票の提出状況が一目で確認できるようにスタンプカード形式で印刷し、事前案内に同封。3 回続けて返送のあった参加者に対してアメニティグッズをプレゼントする企画を行う。</p>

・8月以降、参加者への電話案内(質問票の返送依頼と事前案内送付時)を行った結果、電話をかけた1703件のうち、つながった参加者は705件(41.4%)であった。また、そのうち、謝礼を電子マネーから金券へ変更した参加者は305件(つながったうち43.3%)であり、変更の理由としては「電子マネーを利用していない」「ポイントのダウンロードが面倒」等が多数を占めた。謝礼の変更希望に対しては可能な限り柔軟に対応し、参加者のモチベーションがより向上するよう努めた。



(表)

(C) 評価

・質問票の回収数を前年度と比較したところ、電話案内を開始した8月以降、回収数が増加傾向をたどり、9月半ばには前年度の回収数を上回った。また、8月以降、前回の質問票が未提出だった参加者から156件の質問票提出があった。全体的に前回質問票の回収率より低減傾向にあるなか、電話案内による効果があったものと評価する。



(裏)

・4月以降に手書きのオリジナルでこぼんハガキでのお礼状を約270件送付した。その際に参加者への感謝の意がより伝わるよう質問票の提出のあった翌日もしくは翌々日にはお礼状を送付するなどスピーディーな対応を心がけた。

(内訳：前回の質問票未提出で今回提出のお礼156件、質問票などへのメッセージ記入のお礼113件)

・リマインドの3回目をショートメールから架電に変更したが、この電話での協力取りやめを申し出る参加者はいなかった。回収率向上に一定の効果が見込めることから引き続き架電を行っていくが、協力取りやめにつながらないよう会話内容には十分配慮し、参加率の維持に努める。

(A) 改善

・事前案内送付後の電話案内については、全ての抽出グループへの電話案内完了後に架電対象者を変更する。具体的には、これまでに質問票を全て提出した参加者へ電話にてアプローチし、回収率の維持に努める。(2018年1月末より実施) 内容としては、今まで質問票を全て提出いただいたお礼を述べるとともに、謝礼について電子マネーから金券への変更が可能な事を案内する。また、スタンプラリーが始まり3回続けて提出するとアメニティグッズをお送りする事を案内する。

・抽出グループによっては質問票の回収率が大幅に低下していることが把握できたため、抽出グループに応じてアプローチ方法を変え、リマインドを行うこととした。また、合計90組ある抽出グループ全てについて、前回の回収率との比較が一目で分かるよう表とグラフで管理し、抽出グループごとのアプローチについて随時見直しを行う。また、改善したリマインド方法を用いて実施したフォローアップ対策の結果を朝礼時やメールにて報告し、常にスタッフ間で情報共有できるよう努める。

・さらなる回収率の底上げを目的として、2018年2月以降、4点の指標強化対策に加え新たな試み2点を計画している。

	<p>(計画 1)</p> <p>回収率が低下している抽出グループのなかでも 3 回目の返送依頼を経て 2 週間が経過した時点でなお質問票の提出がない参加者に対し質問票を再送付する。その際に回収率の低い参加者においては封筒開封にさえ至っていないケースが多いことも予想されるため、謝礼の案内やユニットセンターからのメッセージなど目に留まりやすい同封物とともに透明封筒で送付することを検討している。</p> <p>(計画 2)</p> <p>質問票未提出者をリスト化して各調査地域の RC と情報を共有し、検診会場や小児科を有する医療機関などに出向いて声かけを行う。待ち時間などを利用して質問票記入を依頼することにより、少数ながらも確実な回収につなげていきたいと考える。</p>
--	---

表6 成果発表の遵守状況 (平成29年3月～平成30年2月末)

	成果発表ルール の遵守状況		環境省への事前届出が必要な成果発表に関する届出書の提出状況										
			成果発表届出書							成果発表に 関する事前 審査後届出 書	追加調査に 関する承認 申請書	合計	
	事後報告	合計件数	論文投稿	口頭・ポスター発表			一般広報 (マスメディア等)		追加調査 に係る外 部研究費 報告書・ 公開報告 会	合計	論文執筆		
				学会	講演会	その他	マスメディア	マスメディア 以外					
北海道ユニットセンター	0	0	0	3	2	0	0	2	5	12	1	0	13
宮城ユニットセンター	0	0	12	20	0	0	11	0	1	44	18	0	62
福島ユニットセンター	0	0	2	4	3	0	3	6	0	18	1	3	22
千葉ユニットセンター	0	0	2	7	4	6	0	0	0	19	1	1	21
神奈川ユニットセンター	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	1	0	3
甲信ユニットセンター(山梨大学)	0	0	1	7	0	0	0	2	0	10	0	0	10
甲信サブユニットセンター(信州大学)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	2
富山ユニットセンター	0	0	0	9	8	9	3	14	2	45	4	0	49
愛知ユニットセンター	0	0	1	9	2	2	2	3	6	25	0	0	25
京都ユニットセンター	0	0	0	13	0	0	1	5	5	24	1	0	25
大阪ユニットセンター	0	0	0	8	1	0	0	2	0	11	2	0	13
兵庫ユニットセンター	0	0	0	3	0	0	0	2	0	5	0	0	5
鳥取ユニットセンター	0	0	2	7	0	0	0	2	1	12	0	0	12
高知ユニットセンター	0	0	1	1	0	0	35	0	0	37	4	2	43
産業医科大学サブユニットセンター	0	0	4	0	1	0	0	0	1	6	4	1	11
九州大学サブユニットセンター	0	0	1	0	1	0	0	0	1	3	2	0	5
熊本大学サブユニットセンター	0	0	2	2	0	0	0	0	0	4	0	0	4
宮崎大学サブユニットセンター	0	0	0	1	0	0	0	3	0	4	0	0	4
琉球大学サブユニットセンター	0	0	0	2	1	0	0	5	0	8	0	0	8

表7 個人情報の管理状況 (平成29年3月～平成29年9月末)

ユニットセンター／サブユニットセンター	1	2	3	4	5	6	7	8
	個人情報の所在等の特定	個人情報へのアクセス権の設定等	個人情報の適正な利用と管理	個人情報が記録された媒体の管理	自己点検リストの作成	基本ルールの周知に関する取り組み	質問票管理方法及び処理方法	過去1年の問題事例数
北海道ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
宮城ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
福島ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
千葉ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
神奈川ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
甲信ユニットセンター(山梨大学)	○	○	○	○	○	○	○	0
甲信サブユニットセンター(信州大学)	○	○	○	○	○	○	○	0
富山ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
愛知ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
京都ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
大阪ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
兵庫ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
鳥取ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
高知ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
産業医科大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
九州大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
熊本大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
宮崎大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
琉球大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0

参考① フォローアップ活動（質問票の回収状況、コミュニケーション活動）

	コミュニケーション活動						
	ニュースレター	ホームページ	粗品配布	主参加者限定イベント	一般向けイベント主催	地域の参加イベント	その他
北海道ユニットセンター	○	○	○	○	－	－	○
宮城ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○
福島ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○
千葉ユニットセンター	○	○	○	○	○	－	○
神奈川ユニットセンター	○	○	○	－	－	○	○
甲信ユニットセンター(山梨大学)	○	○	○	○	－	○	○
甲信サブユニットセンター(信州大学)	－	○	○	○	○	○	－
富山ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○
愛知ユニットセンター	○	○	－	○	－	○	○
京都ユニットセンター	○	○	○	○	○	－	○
大阪ユニットセンター	○	○	○	○	－	－	○
兵庫ユニットセンター	○	○	○	○	－	－	－
鳥取ユニットセンター	○	○	○	○	－	－	－
高知ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○
産業医科大学サブユニットセンター	○	○	○	○	－	－	○
九州大学サブユニットセンター	○	○	○	－	－	○	－
熊本大学サブユニットセンター	○	○	○	○	－	－	○
宮崎大学サブユニットセンター	○	○	○	○	－	○	－
琉球大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	－

参考②-1 実施体制（全体）

ユニットセンター/ サブユニットセンター	総数	委託費での雇用によるエコチル業務従事者																		委託費での雇用ではないエコチル業務従事者			
		教員		研究員		リサーチコーディネーター										事務職員		その他		教員		事務職員	
						看護師・保健師・助産師		臨床心理士		その他有資格者 (国家資格)		無資格者		合計									
従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数
北海道ユニットセンター	49	105	6	49	2	81	4	0	0	0	0	260	11	341	15	420	13	0	0	96	13	0	0
宮城ユニットセンター	31	171	6	0	0	148	5	0	0	0	0	305	9	453	14	146	4	129	6	4	1	0	0
福島ユニットセンター	50	124	4	0	0	232	7	39	1	124	4	496	13	891	25	686	18	0	0	2	3	0	0
千葉ユニットセンター	27	89	3	91	3	8	1	0	0	0	0	263	7	271	8	234	6	0	0	35	7	0	0
神奈川ユニットセンター	13	35	1	0	0	0	0	10	1	0	0	105	2	115	3	128	7	0	0	1	1	1	1
甲信ユニットセンター(山梨大学)	18	131	4	0	0	176	6	0	0	0	0	0	0	176	6	208	7	0	0	16	1	0	0
甲信サブユニットセンター(信州大学)	24	80	3	0	0	116	5	0	0	0	0	40	1	156	6	184	8	0	0	37	7	0	0
富山ユニットセンター	38	55	2	39	1	155	15	(無資格者に 含む)	2	0	0	134	4	288	21	346	11	0	0	45	3	0	0
愛知ユニットセンター	35	38	1	38	1	84	5	14	1	0	0	197	12	295	18	243	10	0	0	17	4	4	1
京都ユニットセンター	37	120	2	(教員に含 む)	8	325	2	0	0	(看護師・保健 師・助産師に含 む)	1	(看護師・保健 師・助産師に含 む)	13	325	16	52	3	0	0	5	8	0	0
大阪ユニットセンター	37	116	4	16	2	141	6	20	2	67	5	53	3	281	16	301	12	0	0	8	1	12	2
兵庫ユニットセンター	37	41	1	0	0	12	4	38	1	0	0	200	7	250	12	306	12	0	0	24	12	0	0
鳥取ユニットセンター	16	39	1	0	0	78	2	39	1	0	0	69	2	185	5	266	8	0	0	15	2	0	0
高知ユニットセンター	52	39	1	109	4	90	3	0	0	88	4	168	6	345	13	269	9	0	0	裁量労働制	21	155	4
産業医科大学サブユニットセンター	24	78	2	0	0	211	8	5	1	0	0	0	0	216	9	119	4	0	0	26	9	0	0
九州大学サブユニットセンター	25	89	3	0	0	60	2	0	0	0	0	352	14	412	16	120	4	0	0	3	2	0	0
熊本大学サブユニットセンター	23	39	1	35	1	0	0	0	0	0	0	90	3	90	3	306	13	0	0	算出困難	4	35	1
宮崎大学サブユニットセンター	10	39	1	0	0	39	1	0	0	0	0	28	1	67	2	179	5	0	0	8	1	25	1
琉球大学サブユニットセンター	13	39	1	0	0	0	0	0	0	18	1	60	2	78	3	100	3	0	0	25	5	6	1

参考②-2 実施体制（詳細調査）

	詳細調査に係る人員（精神発達検査者除く）				精神発達検査者	
	医師・教員	リサーチ コーディネーター	事務員	医師・看護師 の外部委託	検査者	うち 臨床心理士
北海道ユニットセンター	14	17	3	○	8	2
宮城ユニットセンター	0	14	0	○	4	1
福島ユニットセンター	7	24	18	○	15	9
千葉ユニットセンター	5	8	0	○	5	0
神奈川ユニットセンター	0	3	0	○	4	1
甲信ユニットセンター（山梨大学）	2	9	1	—	4	1
甲信サブユニットセンター（信州大学）	1	4	2	○	4	0
富山ユニットセンター	3	21	2	○	4	2
愛知ユニットセンター	2	15	1	○	10	1
京都ユニットセンター	2	13	2	○	6	6
大阪ユニットセンター	2	12	3	○	6	6
兵庫ユニットセンター	2	12	4	—	2	1
鳥取ユニットセンター	1	5	0	—	4	1
高知ユニットセンター	15	8	0	○	3	1
産業医科大学サブユニットセンター	3	5	4	—	6	2
九州大学サブユニットセンター	2	9	0	—	4	2
熊本大学サブユニットセンター	1	7	10	○	3	0
宮崎大学サブユニットセンター	1	6	0	○	4	0
琉球大学サブユニットセンター	2	4	0	○	2	1

参考③ 平成 29 年度地域運営協議会への参加機関声かけ数

ユニットセンター/ サブユニットセンター	①健康・福祉系	②環境系	③教育系	④その他	合計
北海道ユニットセンター	55	3	15	5	78
宮城ユニットセンター	65	0	15	10	90
福島ユニットセンター	147	1	19	3	170
千葉ユニットセンター	40	8	4	0	52
神奈川ユニットセンター	23	3	1	0	27
甲信ユニットセンター(山梨大学)	18	2	3	6	29
甲信サブユニットセンター(信州大学)	8	1	3	0	12
富山ユニットセンター	18	1	11	0	30
愛知ユニットセンター	21	3	2	5	31
京都ユニットセンター	54	2	3	0	59
大阪ユニットセンター	41	1	9	1	52
兵庫ユニットセンター	18	1	1	0	20
鳥取ユニットセンター	5	1	2	0	8
高知ユニットセンター	20	4	2	0	26
産業医科大学サブユニットセンター	39	1	5	3	48
九州大学サブユニットセンター	11	0	1	2	14
熊本大学サブユニットセンター	35	0	32	8	75
宮崎大学サブユニットセンター	17	1	2	0	20
琉球大学サブユニットセンター	9	3	1	0	13

参考④ 詳細調査の参加者数

ユニットセンター/ サブユニットセンター	割り当て数	参加者数				
		2歳 医学的検査	2歳 精神神経 発達検査	3歳 環境調査	4歳 医学的検査	4歳 精神神経 発達検査
北海道ユニットセンター	406	397	394	379	389	392
宮城ユニットセンター	447	430	429	412	441	441
福島ユニットセンター	637	614	617	623	621	621
千葉ユニットセンター	300	293	295	289	270	266
神奈川ユニットセンター	323	304	308	292	307	306
甲信ユニットセンター(山梨大学)	225	220	222	215	222	222
甲信サブユニットセンター(信州大学)	131	130	130	124	124	124
富山ユニットセンター	270	264	265	255	259	254
愛知ユニットセンター	278	276	276	274	270	274
京都ユニットセンター	193	186	188	189	161	155
大阪ユニットセンター	390	384	384	373	386	386
兵庫ユニットセンター	251	249	248	249	244	244
鳥取ユニットセンター	148	144	144	142	135	135
高知ユニットセンター	344	333	331	340	330	330
産業医科大学サブユニットセンター	146	146	146	138	136	136
九州大学サブユニットセンター	228	231	230	226	224	224
熊本大学サブユニットセンター	149	148	147	146	146	146
宮崎大学サブユニットセンター	90	89	89	88	87	87
琉球大学サブユニットセンター	44	44	44	44	43	43
合計	5,000	4,882	4,887	4,798	4,795	4,786

参考⑤-1 エコチル調査プロフィールペーパー及び全国データを用いた論文アクセプト 状況 20 編 (平成 30 年 2 月末時点)

【プロフィールペーパー】

No	著者名	雑誌名	論文タイトル
1	道川 武紘ほか (コアセンター) Michikawa T., et al.	Journal of Epidemiology, 2015, 25(6):452-8. http://doi.org/10.2188/jea.JE20140186 2015年発行	The Japan Environment and Children's Study (JECS): a preliminary report on selected characteristics of approximately 10,000 pregnant women recruited during the first year of the study
2	山本 貴和子ほか (メディカルサポートセンター) Yamamoto-Hanada, K., et al.	World Allergy Organization Journal, 2017, 10(1): 24. https://doi.org/10.1186/s40413-017-0157-0 2017年発行	Allergic profiles of mothers and fathers in the Japan Environment and Children's Study (JECS): a nationwide birth cohort study
3	道川 武紘ほか (コアセンター) Michikawa T., et al.	Journal of Epidemiology, 2017 Oct 25. http://doi.org/10.2188/jea.JE20170018 2017年発行	Baseline Profile of Participants in the Japan Environment and Children's Study (JECS)

【全国データを用いた論文】

1	鈴木 孝太ほか (甲信ユニットセンター(山梨大学)) Kohta, S., et al. Japan Environment and Children's Study Group.	Journal of Epidemiology, 2016; 26(7):371-7. http://doi.org/10.2188/jea.JE20150185 2016年発行	Association between maternal smoking during pregnancy and birth weight: an appropriately adjusted model from the Japan Environment and Children's Study
2	渡邊 善ほか (宮城ユニットセンター) Watanabe, Z., et al.	Journal of Affective Disorders, 2016, 15;190:341-8. https://doi.org/10.1016/j.jad.2015.10.024 2016年発行	Psychological distress during pregnancy in Miyagi after the Great East Japan Earthquake: The Japan Environment and Children's Study
3	水野 聖士ほか (宮城ユニットセンター) Mizuno, S., et al.	Diabetes research and clinical practice, 2016, 120: 132-141. http://dx.doi.org/10.1016/j.diabres.2016.07.020 2016年発行	Association between social capital and the prevalence of gestational diabetes mellitus: An interim report of the Japan Environment and Children's Study
4	櫻井香澄ほか (宮城ユニットセンター) Sakurai, K., et al.	Disaster medicine and public health preparedness, 2016, 11(2), 216-226. https://doi.org/10.1017/dmp.2016.109 2016年発行	Incidence of Domestic Violence Against Pregnant Females After the Great East Japan Earthquake in Miyagi Prefecture: The Japan Environment and Children's Study
5	西郡 秀和ほか (宮城ユニットセンター) Nishigori, H., et al.	Disaster medicine and public health preparedness, 2017, 11(3), 355-364. https://doi.org/10.1017/dmp.2016.150 2017年発行	Pregnant Women's Awareness of Social Capital in the Great East Japan Earthquake-Affected Areas of Miyagi Prefecture: The Japan Environment and Children's Study
6	原田 崇ほか (鳥取ユニットセンター) Harada, T., et al.	PLOS ONE, 2016, 11(12): e0168476. https://doi.org/10.1371/journal.pone.0168476 2016年発行	Obstetrical Complications in Women with Endometriosis: A Cohort Study in Japan
7	小原 拓ほか (宮城ユニットセンター) Obara, T., et al.	The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine, 2017, 30(5): 588-593. http://dx.doi.org/10.1080/14767058.2016.1179273 2016年発行	Prevalence and determinants of inadequate use of folic acid supplementation in Japanese pregnant women: the Japan Environment and Children's Study (JECS)
8	諸隈 誠一ほか (九州大学サブユニットセンター) Morokuma, S., et al.	BMC pregnancy and childbirth, 2016, 16: 247. https://doi.org/10.1186/s12884-016-1041-6 2016年発行	Relationship between hyperemesis gravidarum and small-for-gestational-age in the Japanese population: the Japan Environment and Children's Study (JECS)
9	諸隈 誠一ほか (九州大学サブユニットセンター) Morokuma, S., et al.	BMC Res Notes, 2017, 10(1):394 https://doi.org/10.1186/s13104-017-2675-9 2017年発行	Maternal Sleep and Small for Gestational Age Infants in the Japan Environment and Children's Study: a cohort study
10	西郡 秀和ほか (宮城ユニットセンター) Takahashi, F., et al.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine, 2016, 240 (4): 309-321. http://doi.org/10.1620/tjem.240.309 2016年発行	Fermented Food Consumption and Psychological Distress in Pregnant Women: A Nationwide Birth Cohort Study of the Japan Environment and Children's Study
11	西郡 秀和ほか (宮城ユニットセンター) Nishigori, H., et al.	Pharmacy, 2017, 5(2) : 21. https://doi.org/10.3390/pharmacy5020021 2017年発行	Drug Use before and during Pregnancy in Japan: The Japan Environment and Children's Study

No	著者名	雑誌名	論文タイトル
12	西郡 秀和ほか (宮城ユニットセンター) Nishigori, H., et al.	Congenital anomalies, 2017, 57(3): 72-78. https://doi.org/10.1111/cga.12202 2017年発行	Selective serotonin reuptake inhibitors and risk of major congenital anomalies for pregnancies in Japan: A nationwide birth cohort study of the Japan Environment and Children's Study
13	菅沼 成文ほか (高知ユニットセンター) Muchanga, S. M. J., et al.	Journal of Affective Disorders, 2017, 217: 34-41. https://doi.org/10.1016/j.jad.2017.03.049 2017年発行	Preconception gynecological risk factors of postpartum depression among Japanese women: The Japan Environment and Children's Study (JECS)
14	森田 理仁ほか (京都ユニットセンター) Masahito Morita, et al.	Letters on Evolutionary Behavioral Science, 2017, 8(2): 40-44. DOI: 10.5178/lebs.2017.63 2017年発行	Parental condition and infant sex at birth in the Japan Environment and Children's Study: a test of the Trivers-Willard hypothesis
15	浜崎 景ほか (富山ユニットセンター) Kei Hamazaki, et al.	Journal of Psychiatric Research, 2018, 98:9-16. https://doi.org/10.1016/j.jpsychires.2017.11.013 2017年発行	Dietary intake of fish and n-3 polyunsaturated fatty acids and risks of perinatal depression: The Japan Environment and Children's Study (JECS)
16	有馬隆博ほか (宮城ユニットセンター) Yoshimasu, K., et al.	Reproductive Biomedicine & Society Online, 2018, 5, 5-16. https://doi.org/10.1016/j.rbms.2017.09.002	Lack of association between receiving ART treatment and parental psychological distress during pregnancy: Preliminary findings of the Japan Environment and Children's Study
17	山本 貴和子ほか (メディカルサポートセンター) Yamamoto-Hanada.K., et al	Journal of Allergy Clinical Immunology, http://dx.doi.org/10.1016/j.jaip.2017.12.006 http://www.jaci-inpractice.org/article/S2213-2198(17)31024-3/abstract	Allergy and Mental Health Among Pregnant Women in the Japan Environment and Children's Study

参考⑤-2 追加調査に係る論文発表 14編 (平成30年2月末時点)

No.	ユニットセンター名	掲載された論文			
		タイトル	執筆代表者名	雑誌名	巻・号
1	北海道ユニットセンター	The Association between Prenatal Yoga and the Administration of Ritodrine Hydrochloride during Pregnancy: An Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study.	Kawanishi Y, Saijo Y, Yoshioka E, Nakagi Y, Yoshida T, Miyamoto T, Sengoku K, Ito Y, Miyashita C, Araki A, Kishi R	PLoS One	2016. 11(6)
2	宮城ユニットセンター	Heterogeneity of the Fatty Acid Composition of Japanese Placentae for Determining the Perinatal Fatty Acid Status: a Methodological Study.	Yamazaki I, Kimura F, Nakagawa K, Nakai K, Arima T, Kawabata T, Kagawa Y, Saitoh S, Mizuno S, Yaegashi N, Miyazawa T.	J Oleo Sci.	2015. 64(8)
3	宮城ユニットセンター	Determinants of polyunsaturated fatty acid concentrations in erythrocytes of pregnant Japanese women from a birth cohort study: study protocol and baseline findings of an adjunct study of the Japan Environment & Children's Study.	Saito S, Kawabata T, Tatsuta N, Kimura F, Miyazawa T, Mizuno S, Nishigori H, Arima T, Kagawa Y, Yoshimasu K, Tsuno K, Ito Y, Kamijima M, Nakai K, Yaegashi N, Miyagi Study Group of Japan Environment & Children's Study.	Environmental Health and Preventive Medicine.	2017. 22
4	宮城ユニットセンター	Polyunsaturated Fatty Acid Levels in Maternal Erythrocytes of Japanese Women during Pregnancy and after Childbirth.	Kawabata T, Kagawa Y, Kimura F, Miyazawa T, Saito S, Arima T, Nakai K and Yaegashi N.	Nutrient	2017. 9(3)
5	千葉ユニットセンター	Survey of motivation to participate in a birth cohort.	Midori Yamamoto, Misuzu Fujita, Chisato Mori, Akira Hata	J Hum Genet	
6	千葉ユニットセンター	Assessment of questionnaire-based PCB exposure focused on food frequency in birth cohorts in Japan.	Akifumi Eguchi, Masae Otake, Masamichi Hanazato, Norimichi Suzuki, Yoshiharu Matsuno, Hiroko Nakaoka, Emiko Todaka, Chisato Mori	Environ Sci Pollut Res Int	2016. 61(9)
7	富山ユニットセンター	Serum n-3 polyunsaturated fatty acids and psychological distress in early pregnancy: Adjunct Study of Japan Environment and	Hamazaki K, Harauma A, Otaka Y, Moriguchi T, Inadera H	Transl Psychiatry.	2016. 6:e737
8	富山ユニットセンター	Association of serum n-3 polyunsaturated fatty acids with psychological distress in the second and third trimesters of pregnancy: Adjunct Study of Japan Environment and Children's Study	Hamazaki K, Harauma A, Tanabe S, Namai M, Moriguchi T, Inadera H	Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids.	2016. 114
9	愛知ユニットセンター	Quantitative analysis of organophosphate insecticide metabolites in urine extracted from disposable diapers of toddlers in Japan	Oya N, Ito Y, Hioki K, Asai Y, Aoi A, Sugiura Y, Ueyama J, Oguri T, Kato S, Ebara T, Kamijima M.	Int J Hyg Environ Health.	2017. 220(2PtA)
10	京都ユニットセンター 甲信ユニットセンター (山梨大学) 富山ユニットセンター 鳥取ユニットセンター	Effect of desert dust exposure on allergic symptoms: A natural experiment in Japan.	Kanatani KT, Hamazaki K, Inadera H, Sugimoto N, Shimizu A, Noma H, Onishi K, Takahashi Y, Itazawa T, Egawa M, Sato K, Go T, Ito I, Kurozawa Y, Konishi I, Adachi Y, Nakayama T, Japan Environment & Children's Study Group.	Ann Allergy Asthma Immunol.	2016. 116(5)
11	京都ユニットセンター 甲信ユニットセンター (山梨大学) 富山ユニットセンター 鳥取ユニットセンター	Birth cohort study on the effects of desert dust exposure on children's health: protocol of an adjunct study of the Japan Environment & Children's Study.	Kanatani KT, Adachi Y, Sugimoto N, Noma H, Onishi K, Hamazaki K, Takahashi Y, Ito I, Egawa M, Sato K, Go T, Kurozawa Y, Inadera H, Konishi I, Nakayama T; Japan Environment & Children's Study Group.	BMJ Open.	2014. 4(6)
12	兵庫ユニットセンター	Airborne endotoxin concentrations in indoor and outdoor particulate matter and their predictors in an urban city	Yoshiko Yoda, Kenji Tamura, Masayuki Shima	Indoor Air	2017. 27(5)
13	産業医科大 学サブユニットセンター	Status of Pregnant Women's Mental and Physical Stress and Influences of Work (妊婦の精神的・身体的ストレス状況と労働による影響の調査)	Ayumi Anan, Yun-shan Li, Mayumi Tsuji, Yuki Nagamatsu, Satoko Chou, Kayo Toyofuku, Junko Nakatani, and Kazuaki Kawai	JJOMT(日本職業・災害医学会誌)	2017. 65(4)
14	熊本大学サブユニットセンター	Association of Excessive Mobile Phone Use during Pregnancy with Birth Weight: an Adjunct Study in Kumamoto of Japan Environment and Children's Study	Xi Lu; Masako Oda; Takashi Ohba; Hiroshi Mitsubuchi; Shota Masuda; Takahiko Katoh	Environmental Health and Preventive Medicine	2017. 22:52

参考⑥ デンマーク・ノルウェーに関する文献レビュー等概要

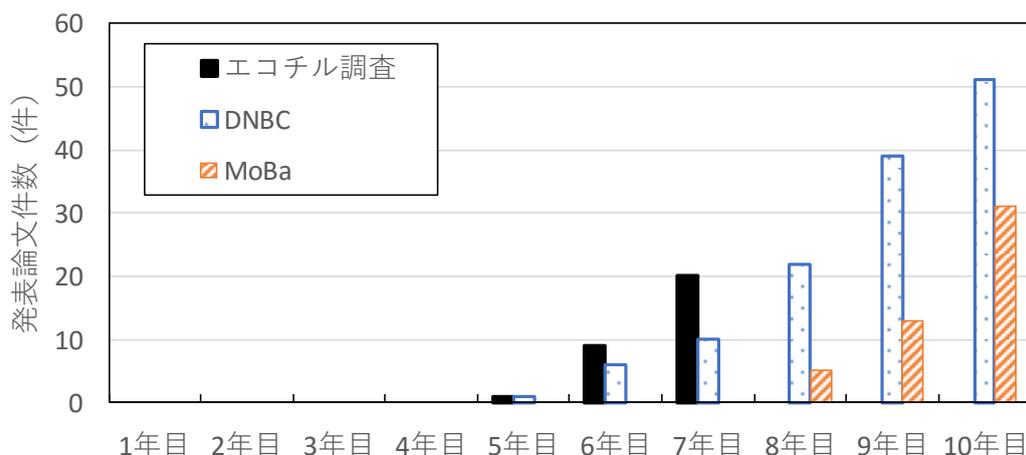
エコチル調査国際連携委員会

1. 背景、方法等

- 企画評価委員会等にて、小児環境保健に関する大規模疫学調査の国際的な動向を踏まえて、エコチル調査を進めるべきであると御指摘
- DNBC（デンマーク全国出生コホート）、MoBa（ノルウェー母子コホート調査）の公式発表の論文から、研究目的にエコチル調査研究計画書（6.2章 調査対象とする曝露要因）に記載されている曝露要因に関する事項を含むものを抽出・整理し、一覧表を作成
- それらを国際連携委員会にて得られる知見として整理

2. まとめ

- 公式ホームページに掲載されている論文（2017年6月6日時点）はDNBC 439件、MoBa 459件であった。中長期影響を検証する疫学調査では、リクルート終了後から数年間は、データの確定の時期であり学術的・政策的成果は出ないが、分析を進める時期では、発表論文数は毎年増加を続けている。エコチル調査は、調査開始年からの発表論文数に関して、DNBCやMoBaよりも多い結果となっている。



調査開始年からの論文数（一年毎累積数1～10年目）

- 化学物質の曝露評価は、主に食物摂取頻度調査票（FFQ）、職業歴、推計モデル等から推定していたが、血液や尿などの生体試料を用いた化学物質の曝露評価は数百～数千人規模であった。（妊婦の血中PFOS、PFOA濃度、PFAS、PCB、ダイオキシン、臭素系難燃剤、有機塩素系農薬等を測定）
- エコチル調査においては、化学物質の曝露評価を質問票だけでなく、数千～数万人規模で測定し解析を行う予定である。他の研究では難しい、わが国に特徴的な曝露、低用量の曝露や複数の曝露と健康影響を評価することが可能である。

参考⑦-1 成果発表状況（学会での発表） 88件（平成30年2月末時点）

NO	ユニットセンター/ サブユニットセンター	学会名	発表形態	内容	追加調査に 関する発表
1	北海道ユニットセンター	第76回日本公衆衛生学会総会 学術講演会	ポスター	エコチル調査北海道ユニットセンター詳細調査における1.5歳時の環境測定(第2報)	
2	宮城ユニットセンター	The 20th East Asian Forum of Nursing Scholar	ポスター	Factors Related to Maternal Positive Affect and Changes in Comfort during Pregnancy.	○
3	宮城ユニットセンター	第87回日本衛生学会学術総会	口頭	母体血および臍帯血赤血球中の多価不飽和脂肪酸レベルを決定する要因:エコチル調査の追加調査より	○
4	宮城ユニットセンター	第87回日本衛生学会学術総会	口頭	ω3系不飽和脂肪酸摂取の評価による魚摂取のリスクとベネフィットの研究	○
5	宮城ユニットセンター	第69回日本産科婦人科学会	口頭	The Great East Japan Earthquake and following big tsunami impacted mental condition of pregnant women in the seriously affected area, Miyagi: The Japan Environment and Children's Study	
6	宮城ユニットセンター	第105回日本泌尿器科学会 総会	ポスター	小児外陰部先天異常(停留精巣、真性包茎、陰嚢水腫)の自然史に関する大規模前向き調査	○
7	宮城ユニットセンター	第71回日本栄養・食糧学会大会	口頭	日本人母乳のビタミンD含量の実態-エコチル調査の追加調査より	○
8	宮城ユニットセンター	第71回日本栄養・食糧学会大会	ポスター	母児のFADS遺伝子多型と赤血球脂肪酸組成および血中脂質との関連	○
9	宮城ユニットセンター	第71回日本栄養・食糧学会大会	ポスター	臍帯血および母体中の赤血球中多価不飽和脂肪酸レベルを決める要因:エコチル調査の追加調査より	○
10	宮城ユニットセンター	第223回日本小児科学会宮城地方会	口頭	エコチル調査2歳詳細調査でビタミンD(25OHD)が著明低値であった3例	
11	宮城ユニットセンター	第20回日本運動疫学会学術総会	口頭	妊娠前および妊娠中期の身体活動量と低出生体重との関連:コホート研究 ~子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)~	○
12	宮城ユニットセンター	第53回日本周産期・新生児医学	ポスター	日本人母乳のビタミンD含量の実態-エコチル調査の追加調査より-	○
13	宮城ユニットセンター	第26回 日本腎泌尿器疾患予防 医学研究会	口頭	小児外陰部先天異常(停留精巣、陰嚢水腫、真性包茎)の自然史に関する大規模前向き調査 ~エコチル調査の追加調査の結果から~	○
14	宮城ユニットセンター	第66回東北公衆衛生学会	口頭	母親の出産後再喫煙の状況-宮城県におけるエコチル調査結果から	○
15	宮城ユニットセンター	第72回日本体力医学会大会	口頭	妊娠前および妊娠中期の身体活動量と早産との関連:コホート研究 ~子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)~	○
16	宮城ユニットセンター	日本脂質栄養学会第26回大会	ポスター	胎盤採取部位による脂肪酸組成の違い-エコチル調査の追加調査より-	○
17	宮城ユニットセンター	日本脂質栄養学会第26回大会	ポスター	DHAは生後7ヶ月の子どもの神経発達に寄与するか?エコチル調査と連携した出生コホート調査での検証	○
18	宮城ユニットセンター	日本脂質栄養学会第26回大会	ポスター	在胎期間に応じた出生体重と臍帯血中脂肪酸組成の関連:出生コホート調査内ネステッド・ケースコントロールスタディ	○
19	宮城ユニットセンター	第32回日本女性医学学会	口頭	分娩後再開した月経周期における月経前症候群、月経前気分不快障害 エコチル調査宮城ユニットセンター対象者コホートより	○
20	宮城ユニットセンター	The 10th Asian Conference on Pharmacoepidemiology (Brisbane)	ポスター	Prevalence and determinants of inadequate use of folic acid supplementation in Japanese pregnant women: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	
21	福島ユニットセンター	第49回日本小児感染症学会総会・ 学術集会	口頭	ヒトパレコウイルス3型に対する母体血、臍帯血の中和抗体価と周産期因子との関連	○
22	福島ユニットセンター	第58回日本児童青年精神医学会	口頭	福島市における東日本大震災後の子どもの精神状態と発達障害との関連について-エコチル追加調査-	○
23	福島ユニットセンター	第120回日本小児科学会学術集会	ポスター	小児疫学研究における2才児の静脈採血について(福島県でのエコチル調査から) Venous blood sampling from 2 years old child at Fukushima prefecture in JECS	
24	福島ユニットセンター	第28回日本疫学会学術総会	ポスター	ヒトパレコウイルス3型に対する母体血、臍帯血の中和抗体価と周産期因子との関連	○
25	千葉ユニットセンター	第24回日本遺伝子診療学会大会	口頭	幼児を持つ母親の遺伝子検査と遺伝子検査に対する意識について	○
26	千葉ユニットセンター	第16回Diabetes Research Forum in Tokyo	口頭	ヒトにおける軽度糖代謝障害のメタボローム解析	○
27	千葉ユニットセンター	第76回日本公衆衛生学会総会	ポスター	授乳時の母親の行動に関する背景要因の探索および養育態度との関連	
28	千葉ユニットセンター	第35回 千葉糖尿病研究会	口頭	糖尿病研究における出生コホートの活用	○
29	千葉ユニットセンター	第28回日本疫学会学術総会	ポスター	出生コホート調査参加者の協力意識および遺伝子解析に対する考え方	○
30	神奈川ユニットセンター	日本公衆衛生学会総会	ポスター	エコチル調査における質問票到着までの所要時間の変化	

NO	ユニットセンター/ サブユニットセンター	学会名	発表形態	内容	追加調査に 関する発表
31	神奈川ユニットセンター	日本疫学会学術総会	ポスター	質問票提出に影響を与える因子と母親の子育て環境との関連	
32	甲信ユニットセンター (山梨大学)	50th Annual SER Meeting	ポスター	Factors associated with selective study participation in the Japan Environment and Children's Study (JECS) among the participants in Yamanashi regional centre	
33	甲信ユニットセンター (山梨大学)	The 21 st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology	ポスター	Comparison of characteristics between participants and non-participants of a sub-cohort study: The Japan Environment and Children's Study	
34	甲信ユニットセンター (山梨大学)	The 29th Annual Scientific Conference of the International Society of Environmental Epidemiology (ISEE)	口頭	The relationship between airborne pollen and cedar-specific immunoglobulin E during early pregnancy: a subdivision of a nationwide birth cohort study.	
35	甲信ユニットセンター (山梨大学)	第76回日本公衆衛生学会総会	口頭	妊娠初期における血中スギ特異的IgEクラス判定とアレルギー性鼻炎(花粉症)との関係 -エコチル調査山梨県内のデータから	
36	甲信ユニットセンター (山梨大学)	第76回日本公衆衛生学会総会	ポスター	乳幼児期の発熱頻度の回答時期による検討-山梨県内のエコチル調査のデータから	
37	甲信ユニットセンター (山梨大学)	第28回 日本疫学会学術総会	口頭	鳥取県米子市に飛来した粗大粒子及びPM2.5の発生源別のエコチル調査参加児への健康影響	○
38	甲信ユニットセンター (山梨大学)	第28回 日本疫学会学術総会	ポスター	自記式発達スクリーニングスケールの欠損値の検討 -エコチル調査における山梨県内の参加者のデータから	
39	富山ユニットセンター	第87回日本衛生学会学術 総会	ポスター	PM2.5の喘息児への影響(中間解析結果)	○
40	富山ユニットセンター	日本脂質栄養学会第26回大会	口頭	妊娠期における抑うつと血清の3系多価不飽和脂肪酸に関する疫学調査	○
41	富山ユニットセンター	日本公衆衛生学会総会第76回	ポスター	エコチル調査における富山ユニットセンターのイベント活動の実際と評価	
42	富山ユニットセンター	日本公衆衛生学会総会第76回	口頭	燃焼性大気汚染物質の黄砂の健康影響への修飾-エコチル追加調査より-	○
43	富山ユニットセンター	日本公衆衛生学会総会第76回	口頭	黄砂・PM2.5の乳幼児の目/鼻/呼吸器症状への影響	○
44	富山ユニットセンター	7th Mind-Body Interface International Symposium/台湾台 中市	口頭	Epidemiological studies on n-3 polyunsaturated fatty acids and depressive symptoms in pregnant women and young generation	○
45	愛知ユニットセンター	第87回日本衛生学会	口頭	使用済み紙おむつを用いた幼児における有機リン系殺虫剤曝露量の測定.	○
46	愛知ユニットセンター	第87回日本衛生学会	口頭	使用済み紙おむつを用いた幼児におけるピレスロイド系殺虫剤の曝露評価.	○
47	愛知ユニットセンター	第63回東海公衆衛生学会	ポスター	エコチル調査愛知ユニットセンターにおける母親の喫煙状況の変化	
48	愛知ユニットセンター	The 21nd International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (国際疫学会)	ポスター	Exposure assessment of organophosphorus pesticide in Japanese diapered children	○
49	愛知ユニットセンター	第44回日本毒性学会	口頭	使い捨てオムツを用いた尿中ネオニコチノイド系殺虫剤のバイオモニタリング手法の開発と小児への実践応用	○
50	愛知ユニットセンター	第44回日本毒性学会	口頭	妊娠の進行に伴う尿中殺虫剤曝露マーカー濃度の変動についての検討	○
51	愛知ユニットセンター	第45回産業中毒・生物学的モニタリング研究会	口頭	3歳児の尿中有機リン系殺虫剤代謝物濃度と採尿季節の関係	○
52	愛知ユニットセンター	10th World Congress Developmental Origins of Health and Disease	口頭	Japan Environment and Children's Study (JECS) - Study design and present status	
53	愛知ユニットセンター	第17回日本小児心身医学会東 海北陸地方会	口頭	3歳6か月時における協調運動発達と気質との関連についての検討	○
54	京都ユニットセンター	第87回日本衛生学会	ポスター	PM2.5の喘息児への影響(中間解析結果)	○
55	京都ユニットセンター	第66回日本アレルギー学会	口頭	The combined effects of Asian dust and PAH-quinone on allergic symptoms in pregnant women	○
56	京都ユニットセンター	第44回毒性学会学術年会	口頭	大気汚染の健康影響に関する疫学研究 -アレルギー疾患を中心に-	○
57	京都ユニットセンター	The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology	口頭	High Frequency of Vitamin D Deficiency in Pregnant Japanese Women Associated with UV Avoidance and Hypo-Vitamin D Diet	○
58	京都ユニットセンター	Rhinology World Congress 2017	口頭	Ambient desert dust particles exert adjuvant effects in human in real life settings	○
59	京都ユニットセンター	第58回大気環境学会年会	ポスター	燃焼性大気汚染物質の、黄砂の健康影響への修飾	○
60	京都ユニットセンター	第58回大気環境学会年会	ポスター	黄砂・PM2.5の健康乳幼児の目・鼻・呼吸器症状への影響	○

NO	ユニットセンター/ サブユニットセンター	学会名	発表形態	内容	追加調査に関する発表
61	京都ユニットセンター	The 29th Annual Scientific Conference of International Society of Environmental Epidemiology 2017	口頭	The effects of Asian dust for allergic symptoms may be partly attributed to PAH-quinone, secondarily formed on the dust surface - Observational study in 3 regions in Japan -	○
62	京都ユニットセンター	The 29th Annual Scientific Conference of International Society of Environmental Epidemiology 2017	口頭	The effect of Asian dust on infants' nose, eyes and respiratory symptoms	○
63	京都ユニットセンター	第76回日本公衆衛生学会	口頭	燃焼性大気汚染物質の、黄砂の健康影響への修飾	○
64	京都ユニットセンター	第76回日本公衆衛生学会	口頭	黄砂・PM2.5の健康乳幼児の目・鼻・呼吸器症状への影響	○
65	京都ユニットセンター	第28回日本疫学会学術総会	口頭	黄砂・PM2.5の健康乳幼児の目・鼻・呼吸器症状への影響	○
66	京都ユニットセンター	日本進化学会・第19回大会	ポスター	進化生物学と子ども学の学際研究:京都地域におけるエコチル調査を例に	
67	大阪ユニットセンター	日本子ども療養支援研究会	口頭	エコチル調査医学的検査におけるプレバレーションの取り組み	
68	大阪ユニットセンター	第66回大阪小児保健研究会	口頭	エコチル調査医学的検査におけるプレバレーションの取り組み	
69	大阪ユニットセンター	第28回日本疫学会総会	ポスター	エコチル調査大阪ユニットセンターの質問票回収率に関する分析①	
70	大阪ユニットセンター	第28回日本疫学会総会	ポスター	エコチル調査大阪ユニットセンターの質問票回収率に関する分析②	
71	大阪ユニットセンター	第28回日本疫学会総会	ポスター	エコチル調査大阪ユニットセンターの質問票回収率に関する分析③	
72	兵庫ユニットセンター	第58回大気環境学会年会	ポスター	詳細調査の環境測定の結果	
73	兵庫ユニットセンター	The 29th Annual Scientific Conference of International Society of Environmental Epidemiology 2017	ポスター	家屋内のエンドトキシン濃度に影響する要因	○
74	兵庫ユニットセンター	第86回日本公衆衛生学会総会	ポスター	家屋内外のエンドトキシン濃度測定結果	○
75	鳥取ユニットセンター	日本小児神経学会	口頭	視覚的嗜好性を応用した自閉スペクトラム症の早期発見に関するコホート研究	○
76	鳥取ユニットセンター	第60回鳥取県公衆衛生学会	口頭	既往歴の産前・産後血中オキシトシン濃度へ与える影響	○
77	鳥取ユニットセンター	第21回国際疫学会	ポスター	The relation between medical history and oxytocin concentration during gestation period in Japanese pregnant women	○
78	鳥取ユニットセンター	第12回日本禁煙科学会学術総会	口頭	エコチル調査からみたタバコの健康影響	
79	鳥取ユニットセンター	第76回日本公衆衛生学会総会	口頭	黄砂・PM2.5の乳幼児の目/鼻/呼吸器症状への影響 -エコチル追加調査より	○
80	鳥取ユニットセンター	第69回中国四国小児科学会	口頭	エコチル調査鳥取ユニットセンターの活動状況	
81	鳥取ユニットセンター	第28回日本疫学会総会	口頭	鳥取県米子市に飛来した粗大粒子及びPM2.5の発生源別のエコチル調査参加児への健康影響	○
82	高知ユニットセンター	第92回日本小児科学会高知地方会	口頭	子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査) -進捗報告および今後の展望-	
83	高知ユニットセンター	第23回日本保育保健学会	ポスター	子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査) -進捗報告および調査から分かってきたこと-	
84	産業医科大学サブユニットセンター	14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology	ポスター	Inability of 6-month-old Infants to Push-up in the Prone Position and Subsequent Developmental Delay.	
85	産業医科大学サブユニットセンター	第59回日本小児神経学会学術集会	口演	腹臥位で胸部挙上できない6か月児のその後の発達に関する検討 ~エコチル調査産業医科大学サブユニットセンターデータから~	
86	熊本大学サブユニットセンター	日本公衆衛生学会	ポスター	エコチル調査熊本大学SUCにおける電子マネーシステムの有効性の再評価	
87	宮崎大学サブユニットセンター	第87回日本衛生学会学術総会	ポスター	エコチル調査の活動内容説明	
88	琉球大学サブユニットセンター	第87回日本衛生学会学術総会	口頭	にがりの摂取が妊婦のHbA1cに与える影響~南九州・沖縄UCエコチル調査から~	

参考⑦-2 成果発表状況（講演会での発表） 31件（平成30年2月末時点）

NO	ユニットセンター/ サブユニットセンター	講演会名	発表形態	内容	想定する広報の対 象者	追加調査に 関する発表
1	北海道ユニットセンター	市民講演会	口頭	エコチル調査からの報告	エコチル調査参加 者・一般市民	
2	北海道ユニットセンター	市民講演会	口頭	胎児期における性ホルモンの役割と環境ホルモン なぜ女の子はままごとをするのか？-	エコチル調査参加 者・一般市民	○
3	宮城ユニットセンター	学校・地域保健連携推進事業 仙台教育事務所研修会	口頭	子どもの健康と環境の関わりについて	小・中学校の学校、 保健に関わる教職 員	
4	宮城ユニットセンター	エコチル調査公開講座2018(愛 知UC)	口頭	何が出産後に再喫煙に至る要因となるか？	一般	
5	宮城ユニットセンター	エコチル調査公開講座2019(愛 知UC)	口頭	環境と子どもの発達—メチル水銀を中心に	一般	
6	福島ユニットセンター	平成28年度エコチル調査福島 ユニットセンター学内報告会	口頭	エコチル調査に関する進捗状況についての報告	学内研究者	
7	福島ユニットセンター	プレママ&プレパパセミナー	口頭	プレママ、プレパパへ～新しい家族を迎えるために～	一般県民	
8	千葉ユニットセンター	安房保健所母子保健推進協議 会	口頭	エコチル調査集計結果から 母親の喫煙状況につ いて	保健主事、養護教 諭	
9	千葉ユニットセンター	福岡小児科医会講演会	口頭	アレルギー疾患と細菌叢	医療関係者	
10	千葉ユニットセンター	夷隅地域・職域連携推進協議 会	口頭	エコチル調査からみえる夷隅地域のたばこ対策につ いて	保健担当者、医療 関係者、学校関係 者	
11	千葉ユニットセンター	小児皮膚科学会	口頭	母乳中免疫活性物質と乳幼児アトピー性皮膚炎	医療関係者	
12	千葉ユニットセンター	小児喘息・アレルギー学セミ ナー2017	口頭	母アレルギーマーチに関する最近の話題	医療関係者	
13	千葉ユニットセンター	安房地区保健主事・養護教諭 合同研修会	口頭	子どもの健康と環境 ～受動喫煙の影響～	保健主事、養護教 諭	
14	千葉ユニットセンター	生活クラブ埼玉 熊谷ブロック講 演会	口頭	化学物質の健康への影響を考える	一般	
15	千葉ユニットセンター	夷隅保健所母子保健推進協議 会	口頭	エコチル調査からみえる夷隅地域の母子保健の問 題点について	保健主事、医療関 係者、養護教諭	
16	甲信サブユニットセンター (信州大学)	エコチルフェスティバル	口頭	エコチル調査の進捗状況	一般市民	
17	富山ユニットセンター	第28回日本小児科医会総会 フォーラムin富山	口頭	胎児環境と子どもの健康-エコチル調査からみえるも の	医師	
18	富山ユニットセンター	広東海洋大学海洋薬物研究所	口頭	The effects of omega-3 polyunsaturated fatty acids on mental health	学生・教員	○
19	富山ユニットセンター	平成29年度公益社団法人日本 助産師会 東海北陸地区研修 会	口頭	未来の子どもたちのために—エコチル調査の取組み—	助産師	
20	富山ユニットセンター	第16回久留米大学バイオ 統計学フォーラム	口頭	2つの代表的大規模コホートスタディからみえること： 放射線影響研究所の寿命調査にもとづく複数死因を 考慮した死亡率解析、および子ども・妊産婦の健康と 環境に関するエコチル調査の現状	学生・教員・一般	○
21	富山ユニットセンター	琉球大学第2回生物統計・疫学 公開講演会	口頭	大規模コホート調査の特徴と展望-原爆放射線に関 する寿命調査と子どもの環境要因曝露に関するエコ チル調査-	医師・教員・学生	
22	富山ユニットセンター	琉球大学SUC情報交換会	口頭	エコチル調査富山ユニットセンターのフォローアップ 状況と取組みについて	エコチル調査従事ス タッフ	
23	富山ユニットセンター	大分統計談話会	口頭	原爆被爆者寿命調査の研究成果とエコチル調査紹 介	研究者・一般	
24	愛知ユニットセンター	平成29年度 RA(博士課程研究 遂行協力制度)成果発表	ポスター	幼児の殺虫剤曝露量モニタリング		○
25	愛知ユニットセンター	愛知UC主催エコチル調査公開 講座	口頭	そんなにオムツを集めてどうするの！？—使用済み オムツからわかること	一般	
26	愛知ユニットセンター	愛知UC主催エコチル調査公開 講座	口頭	永遠の決別は難しい？—愛知県における妊娠前か ら出産後の喫煙状況の変化-	一般	
27	京都ユニットセンター	推進費5-1555 エコチル調査 追加調査『黄砂と子どもの健康 調査』より	口頭	環境省「黄砂の健康影響に関する検討会」	黄砂関連研究者	○
28	大阪ユニットセンター	エコチル調査6周年記念講演会	口頭	出生時全固定データ、2歳までの暫定データの集計	一般、行政、 調査参加者	
29	大阪ユニットセンター	エコチル調査6周年記念講演会	口頭	エコチル調査の子育てに関する暫定データの集計	一般、行政、 調査参加者	
30	九州大学サブユニットセン ター	エコチル調査市民公開講座(愛 知ユニットセンター主催)	口頭	全国データを用いた論文(中心仮説外)課題48	市民	
31	琉球大学サブユニットセンタ ー	第66回日本農村医学会学術総 会	口頭	子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調 査)の概要と沖縄県宮古島の状況	エコチル調査参加 者および一般市民	

参考⑦-3 成果発表状況（調査地域でのアウトリーチ活動（講演会、イベント等））
169件、動員人数 41,199人（平成30年2月末時点）

NO	ユニットセンター/ サブユニットセンター	タイトル	想定する広報の 対象	内容・目的	追加調査 に関する 発表	動員 人数
1	北海道ユニットセンター	第1回親子料理教室	参加者親子	・エコチル調査に継続的に参加をしてもらうためのモチベーションづくり（昨年の参加者アンケートで要望が多かったため）		37
2	北海道ユニットセンター	第2回親子料理教室	参加者親子	・エコチル調査参加者間の交流		43
3	北海道ユニットセンター	第3回親子料理教室	参加者親子	・質問票の提出を呼びかける		34
4	北海道ユニットセンター	第1回、2回親子リトミック教室	参加者親子	※第1回での応募が非常に多かったため追加実施した		71
5	北海道ユニットセンター	エコチル通信写真撮影会	参加者親子	・エコチル調査に継続的に参加をしてもらうためのモチベーションづくり		10
6	北海道ユニットセンター	エコチル通信写真撮影会	参加者親子	・エコチル調査参加者間の交流		10
7	北海道ユニットセンター	エコチル遠足	参加者親子	・質問票の提出を呼びかける		23
8	北海道ユニットセンター	第3回リトミック教室	参加者親子	・エコチル調査に継続的に参加をしてもらうためのモチベーションづくり		35
9	北海道ユニットセンター	第4回リトミック教室	参加者親子	・エコチル調査参加者間の交流		31
10	北海道ユニットセンター	エコチル通信写真撮影会	参加者親子	・質問票の提出を呼びかける		20
11	北海道ユニットセンター	親子ピクニック、身長体重測定	参加者親子	参加いただいている3歳のお子様・お母様方同士の交流の場として楽しく体を動かしてもらおう。また今後も調査を続けていただけるようお願いをする。		27
12	北海道ユニットセンター	親子ピクニック、身長体重測定	参加者親子	参加いただいている3歳のお子様・お母様方同士の交流の場として楽しく体を動かしてもらおう。また今後も調査を続けていただけるようお願いをする。		24
13	北海道ユニットセンター	エコチル調査北見ファミリーフェスタ2017 Let's enjoy music and English!!	参加者親子	親子でエレクティーン演奏と英語の歌で楽しんでいただく。また今後も調査を続けていただけるようお願いをする。		100
14	北海道ユニットセンター	親子ピクニック、身長体重測定	参加者親子	参加いただいている3歳のお子様・お母様方同士の交流の場として楽しく体を動かしてもらおう。また今後も調査を続けていただけるようお願いをする。		30
15	宮城ユニットセンター	東北大学医学部オープンキャンパス	一般、高校生・中学生	一般の方へのエコチル調査の周知ならびに大学関係者へ協力		540
16	宮城ユニットセンター	登米市こどもまつり【協力】	参加者、一般	参加者コミュニケーションと幼稚園・保育所との連携		600
17	宮城ユニットセンター	石巻市民食育健康フェスティバル	参加者、一般	参加者、協力機関、地域の方々とのコミュニケーション		150
18	宮城ユニットセンター	石巻市楽しさいっぱい子ども展【共催】	参加者、一般	参加者コミュニケーションと教育委員会、幼稚園・保育所との連携		320
19	宮城ユニットセンター	栗原市元気なくりはらこ大会【協賛】	参加者、一般	参加者コミュニケーションと教育委員会、幼稚園・保育所との連携		900
20	宮城ユニットセンター	大崎市健康と福祉のつどい	参加者、一般	参加者、協力機関、地域の方々とのコミュニケーション		360
21	宮城ユニットセンター	第16回エコチルセミナー（石巻）	参加者、一般	参加者コミュニケーション		14
22	宮城ユニットセンター	第17回エコチルセミナー（亘理町）	参加者、一般	参加者コミュニケーション		6
23	宮城ユニットセンター	第18回エコチルセミナー（岩沼市）	参加者、一般	参加者コミュニケーション		10
24	宮城ユニットセンター	第19回エコチルセミナー（気仙沼市）	参加者、一般	参加者コミュニケーション		12
25	宮城ユニットセンター	第20回エコチルセミナー（登米市）	参加者、一般	参加者コミュニケーション		24
26	宮城ユニットセンター	第21回エコチルセミナー（栗原市）	参加者、一般	参加者コミュニケーション		21
27	宮城ユニットセンター	第22回エコチルセミナー（加美町）	参加者、一般	参加者コミュニケーション		12
28	宮城ユニットセンター	第23回エコチルセミナー（大崎市）	参加者、一般	参加者コミュニケーション		27
29	宮城ユニットセンター	第24回エコチルセミナー（石巻市）	参加者、一般	参加者コミュニケーション		29
30	宮城ユニットセンター	親子ヨガ教室（気仙沼市）	参加者	参加者コミュニケーション		15
31	福島ユニットセンター	親子対象ふれあい会 会津地区	参加者親子	エコチル調査で分かったこと		56
32	福島ユニットセンター	3歳児対象ふれあい会 県南地区	参加者親子	エコチル調査で分かったこと		56
33	福島ユニットセンター	親子対象ふれあい会 相双地区	参加者親子	エコチル調査で分かったこと		3
34	福島ユニットセンター	5歳児対象ふれあい会 県北地区	参加者親子	エコチル調査で分かったこと		27
35	福島ユニットセンター	3歳児対象ふれあい会 会津地区	参加者親子	エコチル調査で分かったこと		19
36	福島ユニットセンター	第52回郡山市こどもまつり	一般	エコチル調査で分かったこと		500
37	福島ユニットセンター	3歳児対象ふれあい会 県北地区	参加者親子	エコチル調査で分かったこと		54
38	福島ユニットセンター	3歳児対象ふれあい会 県中地区 郡山市	参加者親子	エコチル調査で分かったこと		35
39	福島ユニットセンター	3歳児対象ふれあい会 いわき地区	参加者親子	エコチル調査で分かったこと		32
40	福島ユニットセンター	4-6歳対象ふれあい会 会津地区	参加者親子	エコチル調査で分かったこと		42
41	福島ユニットセンター	4-6歳対象ふれあい会 県北地区 伊達市	参加者親子	エコチル調査で分かったこと		62
42	福島ユニットセンター	4-6歳対象ふれあい会 県北地区 福島市	参加者親子	エコチル調査で分かったこと		47
43	福島ユニットセンター	子育て講演会&ファミリーコンサート	参加者、一般	エコチル調査で分かったこと		403
44	福島ユニットセンター	3歳児対象ふれあい会 県中地区 郡山市	参加者親子	エコチル調査で分かったこと		32
45	福島ユニットセンター	第25回環境フェスタ&第33回健康まつり（会津若松市）	一般	エコチル調査で分かったこと		500
46	福島ユニットセンター	健康フェスタ（福島市）	一般	エコチル調査で分かったこと		329
47	福島ユニットセンター	保護者対象育児相談会 相双地区	参加者保護者	エコチル調査で分かったこと		2
48	福島ユニットセンター	4-6歳対象ふれあい会 いわき地区	参加者親子	エコチル調査で分かったこと		25
49	福島ユニットセンター	保護者対象ふれあい会 県中地区	参加者保護者	エコチル調査で分かったこと		19
50	福島ユニットセンター	3歳児対象ふれあい会 県北地区	参加者親子	エコチル調査で分かったこと		22
51	福島ユニットセンター	保護者対象ふれあい会 県北地区	参加者保護者	エコチル調査で分かったこと		7
52	福島ユニットセンター	郡山市ファミリーフェスタ2017	一般	エコチル調査で分かったこと		1,000
53	福島ユニットセンター	保護者対象ふれあい会 会津地区	参加者保護者	エコチル調査で分かったこと		9
54	福島ユニットセンター	保護者対象ふれあい会 県中地区 須賀川市	参加者保護者	エコチル調査で分かったこと		11
55	福島ユニットセンター	保護者対象ふれあい会 県中地区 白河市	参加者保護者	エコチル調査で分かったこと		4
56	福島ユニットセンター	保護者対象ふれあい会 県北地区 福島市	参加者保護者	エコチル調査で分かったこと		26
57	千葉ユニットセンター	エコチル調査集計結果から 母親の喫煙状況について	参加者と家族	参加者のフォローアップ維持を目的とし、イベントと並行して、エコチル情報の発信と質問票回収を行う		8
58	千葉ユニットセンター	千葉エコチル調査でわかってきたことーアレルギーと生活環境	参加者	エコチル調査に参加されている方の意見を聞き、運営等に反映する。		23
59	千葉ユニットセンター	びよさち秋祭り	参加者	フォローアップイベント		222
60	神奈川ユニットセンター	大和市民祭	一般	エコチル調査の認知度アップ		116

NO	ユニットセンター/ サブユニットセンター	タイトル	想定する広報の 対象	内容・目的	追加調査 に関する 発表	動員 人数
61	神奈川ユニットセンター	小田原市子育てフェスティバル	一般	エコチル調査の認知度アップ		72
62	神奈川ユニットセンター	金沢まつりいきいきフェスタ	一般	エコチル調査の認知度アップ		38
63	甲信ユニットセンター (山梨大学)	エコチルやまなし ファミリーイベント2017	参加者	参加者コミュニケーション活動の一環。定員を決めずにホールイベントを開催することで新規参加者を発掘する。		521
64	甲信ユニットセンター (山梨大学)	エコチルサロン	参加者	山梨県内最大級の子育て支援イベントに調査参加者専用のスペースを開設。調査参加者がイベント会場を訪れたついでに気軽に立ち寄れる場所を作ること、ユニットの主催イベントに申し込まない層の参加者とも直接コミュニケーションを図る機会をつくる。		334
65	甲信ユニットセンター (山梨大学)	エコチルやまなし フォーラム2017 秋 「子どもの発達について考えよう」	参加者	エコチル調査の進捗状況や集計結果などを参加者に報告するとともに、毎回子どもの健康や環境問題などに関するテーマを設定し、専門家による講演会を開くことでアカデミックな研究に協力していることを実感してもらう。		53
66	甲信サブユニットセンター (信州大学)	親子英会話:駒ケ根	参加者親子	参加者フォローと還元、参加者交流		47
67	甲信サブユニットセンター (信州大学)	親子体操:駒ケ根	参加者親子	参加者フォローと還元、参加者交流		79
68	甲信サブユニットセンター (信州大学)	親子英会話:箕輪	参加者親子	参加者フォローと還元、参加者交流		38
69	甲信サブユニットセンター (信州大学)	親子農業体験:農学部	参加者親子	参加者フォローと還元、参加者交流		74
70	甲信サブユニットセンター (信州大学)	親子体操:伊那	参加者親子	参加者フォローと還元、参加者交流		67
71	甲信サブユニットセンター (信州大学)	親子農業体験:農学部	参加者親子	参加者フォローと還元、参加者交流		71
72	甲信サブユニットセンター (信州大学)	農学部AFC祭	一般	エコチル調査の地域浸透		4,000
73	甲信サブユニットセンター (信州大学)	親子英会話:駒ケ根	参加者親子	参加者フォローと還元、参加者交流		61
74	甲信サブユニットセンター (信州大学)	親子体操:南箕輪	参加者親子	参加者フォローと還元、参加者交流		57
75	甲信サブユニットセンター (信州大学)	エコチルフェスティバル:伊那	一般	エコチル調査の地域浸透・進捗報告		100
76	甲信サブユニットセンター (信州大学)	親子英会話:駒ケ根	参加者親子	参加者フォローと還元、参加者交流		42
77	甲信サブユニットセンター (信州大学)	親子農業体験:農学部	参加者親子	参加者フォローと還元、参加者交流		69
78	甲信サブユニットセンター (信州大学)	親子英会話:箕輪	参加者親子	参加者フォローと還元、参加者交流		34
79	甲信サブユニットセンター (信州大学)	親子英会話:伊那	参加者親子	参加者フォローと還元、参加者交流		28
80	富山ユニットセンター	子供を取りまく富山の環境	一般	エコチル調査の概要および進捗状況		20
81	富山ユニットセンター	富山県におけるエコチル調査の現状	参加者	全体調査:富山暫定データからの外遊び時間の集計・習い事の集計、追加調査:黄砂のアレルギー症状への影響		47
82	富山ユニットセンター	富山県におけるエコチル調査の現状	参加者	全体調査:富山暫定データからの外遊び時間の集計・習い事の集計、追加調査:黄砂のアレルギー症状への影響		143
83	富山ユニットセンター	富山県におけるエコチル調査の現状	参加者・一般	全体調査:富山暫定データからのパートナーの育児参加の集計、追加調査:黄砂のアレルギー症状への影響		312
84	富山ユニットセンター	未来の子供たちのためにーエコチル調査の取組ー	一般	エコチル調査の概要および進捗状況		200
85	富山ユニットセンター	妊婦における抑うつと血清の3系多価不飽和脂肪酸に関する疫学調査	学生・教員・一般	富山UCの追加調査に参加されている方を対象に、妊娠期の抑うつと血清の3系多価不飽和脂肪酸との関連について報告した。	○	300
86	富山ユニットセンター	富山県におけるエコチル調査の現状	参加者・一般	調査概要や集計結果、新聞記事などの広報成果		22
87	富山ユニットセンター	エコチル調査からみた富山県の妊産婦と子供の特徴	一般	パートナーの家事や育児への満足度、子どもの外遊び時間・習い事等		100
88	富山ユニットセンター	富山県におけるエコチル調査の現状	参加者・一般	調査概要や集計結果、新聞記事などの広報成果		105
89	富山ユニットセンター	子どもの健康と環境について考えよう! ～エコチル調査からみえてきたこと～	参加者・小学校 PTA	環境と子供の健康の問題、エコチル調査とは、これまでの集計結果、これからのエコチル調査		150
90	富山ユニットセンター	エコチル調査の追加調査で分かったこと	参加者・一般	資料配布(黄砂の研究など新聞記事になった広報成果等)		4,100
91	富山ユニットセンター	エコチル調査を実施しています	参加者・一般	資料配布(エコチル調査概要説明、成果紹介)		8,800
92	富山ユニットセンター	エコチル調査を実施しています	PTA役員	資料配布(エコチル調査概要説明、成果紹介)		1,000
93	愛知ユニットセンター	エコチル調査愛知ユニットセンターぶち講座 子どものアレルギーについて	参加者	子どものアレルギーの現況について、質問票調査の結果をお話し。またアレルギー対策について		8
94	愛知ユニットセンター	エコチル調査愛知ユニットセンターぶち講座 子どものアレルギーについて	参加者	子どものアレルギーの現況について、質問票調査の結果をお話し。またアレルギー対策について		3
95	愛知ユニットセンター	【北区ぶちイベント】子どもの運動能力を伸ばすためのサイエンスミーティング-体育大生と実践! コーディネーショントレーニング-	参加者	定期的にイベントを開催する事で、調査に対する参加意識を高める。また、その場での質問票の回収や、記入に関する質問に答える場にもなっている。		10
96	愛知ユニットセンター	【一宮ぶちイベント】子どもの運動能力を伸ばすためのサイエンスミーティング-体育大生と実践! コーディネーショントレーニング-	参加者	定期的にイベントを開催する事で、調査に対する参加意識を高める。また、その場での質問票の回収や、記入に関する質問に答える場にもなっている。		19
97	愛知ユニットセンター	【北区ぶちイベント】子どもの日のお祝いをしよう	参加者	定期的にイベントを開催する事で、調査に対する参加意識を高める。また、その場での2組質問票の回収や、記入に関する質問に答える場にもなっている。		4
98	愛知ユニットセンター	【一宮ぶちイベント】子どもの日のお祝いをしよう	参加者	定期的にイベントを開催する事で、調査に対する参加意識を高める。また、その場での質問票の回収や、記入に関する質問に答える場にもなっている。		15
99	愛知ユニットセンター	【一宮ぶち講座】子どものアレルギーについて	参加者	エコチル調査に関連する専門家・研究者に子育てに役立つ情報を講座形式で講演してもらう。普段相談できないような事も専門家に相談できる機会を設けることや、調査で分かってきたことをわかりやすく話すことで調査への関心を持続させることが狙い。		2
100	愛知ユニットセンター	【北区ぶち講座】子どものアレルギーについて	参加者	エコチル調査に関連する専門家・研究者に子育てに役立つ情報を講座形式で講演してもらう。普段相談できないような事も専門家に相談できる機会を設けることや、調査で分かってきたことをわかりやすく話すことで調査への関心を持続させることが狙い。		12

NO	ユニットセンター/ サブユニットセンター	タイトル	想定する広報の 対象	内容・目的	追加調査 に関する 発表	動員 人数
101	愛知ユニットセンター	【北区・一宮ぶちイベント】第2回エコチルキッズ科学実験教室～バスボムをつくってみよう～	参加者	定期的にイベントを開催する事で、調査に対する参加意識を高める。また、その場での質問票の回収や、記入に関する質問に答える場にもなっている。		19
102	愛知ユニットセンター	【北区ぶちイベント】エコチル！夏まつり	参加者	定期的にイベントを開催する事で、調査に対する参加意識を高める。また、その場での質問票の回収や、記入に関する質問に答える場にもなっている。		15
103	愛知ユニットセンター	【一宮ぶちイベント】君はできるかな？ちびっこオリンピック	参加者	定期的にイベントを開催する事で、調査に対する参加意識を高める。また、その場での質問票の回収や、記入に関する質問に答える場にもなっている。		4
104	愛知ユニットセンター	【北区ぶちイベント】君はできるかな？ちびっこオリンピック	参加者	定期的にイベントを開催する事で、調査に対する参加意識を高める。また、その場での質問票の回収や、記入に関する質問に答える場にもなっている。		4
105	愛知ユニットセンター	【一宮・北区ぶちイベント】たのしい体操きょうしつ(一宮市民健康まつり)	参加者、一般	定期的にイベントを開催する事で、調査に対する参加意識を高める。また、その場での質問票の回収や、記入に関する質問に答える場にもなっている。		100
106	愛知ユニットセンター	【一宮ぶちイベント】みんなで楽しもう！ハロウィンパーティ♪	参加者	定期的にイベントを開催する事で、調査に対する参加意識を高める。また、その場での質問票の回収や、記入に関する質問に答える場にもなっている。		9
107	愛知ユニットセンター	【北区ぶちイベント】みんなで楽しもう！ハロウィンパーティ♪	参加者	定期的にイベントを開催する事で、調査に対する参加意識を高める。また、その場での質問票の回収や、記入に関する質問に答える場にもなっている。		7
108	愛知ユニットセンター	【一宮ぶち講座】子どもの成長を支えるためのサイエンスミーティング-エコチルママ・パパと考える発達理論の活用術⑤-	参加者	エコチル調査に関連する専門家・研究者に子育てに役立つ情報を講座形式で講演をしてもらう。普段相談できないような事も専門家に相談できる機会を設けることや、調査で分かっていたことをわかりやすく話すことで調査への関心を持続させることが狙い。		2
109	愛知ユニットセンター	【一宮ぶち講座】子どもの成長を支えるためのサイエンスミーティング-エコチルママ・パパと考える発達理論の活用術⑤-	参加者	エコチル調査に関連する専門家・研究者に子育てに役立つ情報を講座形式で講演をしてもらう。普段相談できないような事も専門家に相談できる機会を設けることや、調査で分かっていたことをわかりやすく話すことで調査への関心を持続させることが狙い。		5
110	愛知ユニットセンター	英語で楽しもう♪Christmas Party(一宮)	参加者	クリスマスにちなんだイベントを実施した		20
111	愛知ユニットセンター	英語で楽しもう♪Christmas Party(北区)	参加者	クリスマスにちなんだイベントを実施した		20
112	愛知ユニットセンター	子どもの運動能力をのぼすためのサイエンスミーティング 体育大生と実践！コーディネーショントレーニング②(北区)	参加者	体育大生が教える、子どもの運動神経を伸ばすためのコーディネーショントレーニング教室を実施した		13
113	愛知ユニットセンター	子どもの運動能力をのぼすためのサイエンスミーティング 体育大生と実践！コーディネーショントレーニング②(一宮)	参加者	体育大生が教える、子どもの運動神経を伸ばすためのコーディネーショントレーニング教室を実施した		15
114	愛知ユニットセンター	エコチル調査公開講座	参加者			120
115	京都ユニットセンター	文部科学省認定「共同利用・共同研究拠点」キックオフシンポジウム 木津川市民・主に京都/大阪/奈良の研究者		疫学からのアプローチ(エコチル調査及び追加調査の紹介)	○	100
116	京都ユニットセンター	黄砂とPM2.5の子どもたちへの影響	長浜市民	大気汚染の子どもへの影響についての一般的な見解と追加調査で得られた結果について	○	30
117	京都ユニットセンター	【プチイベント】ひなまつりで遊ぼう	参加者親子	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・参加者同士やスタッフとの交流 ・親子活動の機会の提供		6
118	京都ユニットセンター	【プチイベント】くまごろう物語	参加者親子	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・参加者同士やスタッフとの身近な交流 ・親子活動の機会の提供		88
119	京都ユニットセンター	【プチイベント】ぶくぶく手洗いこねこねせけん	参加者親子	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・参加者同士やスタッフとの身近な交流 ・親子活動の機会の提供 ・手洗いの促進		67
120	京都ユニットセンター	【プチイベント】プチヨガ教室	参加者親子	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・参加者同士やスタッフとの身近な交流		23
121	京都ユニットセンター	【京都フェスタ】エリックさんと歌おう！	参加者親子	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・参加者同士の交流 ・パネル展示による調査報告 ・『黄砂と子どもの健康調査』ご報告として、黄砂の妊婦のアレルギー症状への影響について講演	○	962
122	京都ユニットセンター	【プチイベント】風呂敷を使ってみよう(大人の集いバージョン)	参加者	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・質問票返送キャンペーンの広報		5
123	京都ユニットセンター	【プチイベント】風呂敷を使ってみよう(子連れ歓迎バージョン)	参加者親子	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・質問票返送キャンペーンの広報		15
124	京都ユニットセンター	【プチイベント】クリスマスライトを作ろう	参加者親子	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・親子で活動する機会の提供		32
125	京都ユニットセンター	【エコチル☆ファミリア】エコチルママのためのぶちヨガ教室	参加者親子	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・参加者同士やスタッフとの身近な交流		28
126	京都ユニットセンター	【長浜フェスタ】エリックさんと歌おう！	参加者親子、一般	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・参加者同士の交流 ・パネル展示による調査報告 ・『黄砂と子どもの健康調査』ご報告として、黄砂の妊婦のアレルギー症状への影響について講演	○	733
127	京都ユニットセンター	【エコチル☆ファミリア】消しゴムハンコでお正月グッズをつくろう	参加者親子	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・参加者同士やスタッフとの身近な交流		30
128	京都ユニットセンター	【エコチルカフェ】エコチル調査報告会&ペットボトルであそぼう	参加者親子	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・参加者同士やスタッフとの身近な交流 ・親子で活動する機会の提供		12
129	京都ユニットセンター	【木津川フェスタ】エリックさんと歌おう！	参加者親子、一般	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・参加者同士の交流 ・パネル展示による調査報告 ・『黄砂と子どもの健康調査』ご報告として、黄砂の妊婦のアレルギー症状への影響について講演	○	787
130	京都ユニットセンター	【エコチルカフェ】冬の音楽会	参加者親子	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・参加者同士やスタッフとの身近な交流 ・親子で活動する機会の提供		52

NO	ユニットセンター/ サブユニットセンター	タイトル	想定する広報の 対象	内容・目的	追加調査 に関する 発表	動員 人数
131	京都ユニットセンター	【エコチルカフェ】人形劇	参加者親子	・参加継続意欲と質問票返送の維持・向上 ・参加者同士やスタッフとの身近な交流 ・親子で活動する機会の提供		27
132	大阪ユニットセンター	夏の親子映画上映会	参加者	これまでにはない多くの調査参加者へアプローチすることで、コミュニケーションを深めると共に調査票回収率の向上を目的とする。		167
133	大阪ユニットセンター	エコチル調査6周年記念講演会	参加者、対象自治体職員等	調査参加者及び自治体職員等がエコチル調査の状況を知り、調査の理解及び協力を促進することを目的とする		65
134	大阪ユニットセンター	「英語で親子リミック」	参加者	調査参加者とのコミュニケーションを図り、調査全体、およびユニットセンターの活動に関する感想や意見などを聞く		23
135	大阪ユニットセンター	親子ヨガ教室	参加者	親子ヨガ		36
136	兵庫ユニットセンター	英語イベント	参加者	ネイティブの先生による英語イベント		167
137	兵庫ユニットセンター	「話そう！エコチル調査のこと」	参加者の母親	参加者の現状を把握し、今後のコミュニケーション計画に活かす。		1
138	兵庫ユニットセンター	「親野智可等先生講演会」	参加者家族及び知人	参加者の年齢に応じた講演会を実施し、調査参加への満足度を高める。		18
139	兵庫ユニットセンター	「学研わくわく科学教室」	参加者家族	参加者の年齢に応じ、親子で楽しく参加できるイベントを実施し、調査参加への満足度を高める。		218
140	兵庫ユニットセンター	「元気いっぱい英語リミック」	参加者家族	参加者の年齢に応じ、親子で楽しく参加できるイベントを実施し、調査参加への満足度を高める。		230
141	兵庫ユニットセンター	大気環境学会ブース出展	一般市民 研究者 自治体職員	エコチル調査の概要の説明 詳細調査における環境測定に使用する機器の展示		600
142	鳥取ユニットセンター	第1回親子リミック教室	参加者親子	小規模なイベントを通して、センターと参加者、又は参加者同士のコミュニケーションの場を提供し、調査へのモチベーション向上を目的としている。		34
143	鳥取ユニットセンター	第2回親子リミック教室	参加者親子	小規模なイベントを通して、センターと参加者、又は参加者同士のコミュニケーションの場を提供し、調査へのモチベーション向上を目的としている。		32
144	鳥取ユニットセンター	第3回親子リミック教室	参加者親子	小規模なイベントを通して、センターと参加者、又は参加者同士のコミュニケーションの場を提供し、調査へのモチベーション向上を目的としている。		2
145	鳥取ユニットセンター	エリックさんとえいごでうたって♪おどろう★	参加者親子	規模の大きなイベントを通して、再度大々的に質問票回収の通知を行うことができ、当日に未回収者に対する要請業務を行うことができる。		481
146	高知ユニットセンター	すこやか2017	参加者・一般	ヨーヨー釣り アンケート実施		1,634
147	高知ユニットセンター	「子どもフェスティバルすくも」エコチルブース出展	高知県西部の子 育て世代の家族	高知県西部の幡多地区は高知中央部から離れた遠隔地であるが、参加者の15%を占める重要な地域であるため、参加者との交流が難しい地域であるが、子育て世代が多く集まる自治体イベントに参加することで予算をかけずに参加者とのコミュニケーションが行え、一般市民への認知度調査が行える。		86
148	高知ユニットセンター	「ちよるんクラブ」(ミニイベント2回実施)	参加者家族	参加者の更なる参加意識向上を促し、同時に参加者から直接、意見や要望を聞く意識調査を実施する。また将来広報の素材になるような画像も撮影する。		108
149	高知ユニットセンター	「幡多スペシャルイベント」	参加者親子、一 般	高知県西部の幡多地区は高知中央部から離れた遠隔地であるが、参加者の15%を占める重要な地区である。大きなイベントを行うことで、多くの参加者と触れ合うことができ、丁寧なケアにつながる。また、参加者の知人(一般)を参加できるようにすることで、認知度も高まる。		118
150	高知ユニットセンター	高知大学「物部キャンパス一日公開」	一般	本大学主催の子育て家族向けの体験イベントなので、低予算で参加者との交流とエコチル調査の周知が行える		420
151	高知ユニットセンター	高知エコチル調査イベント「スポーツフェスタ」	参加者親子、一 般	参加者の更なる参加意識向上を促し、同時に参加者から直接、意見や要望を聞く意識調査を実施する。		529
152	高知ユニットセンター	「子育て講演会」	参加者親子、一 般	エコチル保護者向けのイベントを実施することで、調査への参加意識を促し、同時に参加者から直接、意見や要望を聞く意識調査を行なう。エコチル調査から子育て世代への支援という社会的意義を発信する。また、昨年度より参加者の枠を広げることで一般市民への認知度UPを図る。		81
153	高知ユニットセンター	科学の祭典	参加者・一般	バルーンロケット作り		240
154	産業医科大学サブユニットセンター	『ワクワク楽しい人形劇』～春のお楽しみ会♪～	参加者親子と家 族	参加継続意欲の向上および調査への親近感や理解促進を図るといったフォローアップの他、参加者と直接お会いしてコミュニケーションを行うことを目的とする。		67
155	産業医科大学サブユニットセンター	第1回「ヤーっ！！カラテ教室」	参加者親子と家 族	参加継続意欲の向上および調査への親近感や理解促進を図るといったフォローアップの他、参加者と直接お会いしてコミュニケーションを行うことを目的とする。		39
156	産業医科大学サブユニットセンター	第2回「ドキドキ初めてのバレエレッスン」	参加者親子と家 族	参加継続意欲の向上および調査への親近感や理解促進を図るといったフォローアップの他、参加者と直接お会いしてコミュニケーションを行うことを目的とする。		33
157	産業医科大学サブユニットセンター	エコチル調査フォローアップ大イベント 第4弾『エコチル de ハロウィン 2017』	参加者親子と家 族	参加継続意欲の向上および調査への親近感や理解促進を図るといったフォローアップの他、参加者と直接お会いしてコミュニケーションを行うことを目的とする。 このイベントで、全国データ研究・集計結果(論文掲載済・公表済みのもの) + SUC暫定質問票データの集計結果の紹介した。		744
158	産業医科大学サブユニットセンター	第4回『歌って☆踊ってEnglish』～みんなで遊んじゃおう！！～	参加者親子と家 族	参加継続意欲の向上および調査への親近感や理解促進を図るといったフォローアップの他、参加者と直接お会いしてコミュニケーションを行うことを目的とする。		16
159	九州大学サブユニットセンター	3歳児健診会場におけるエコチルブース設置	3歳児	・エコチル調査の認知度向上を目的として、ポスター掲示、来場者全員にチラシと折り紙を配布。 ・参加者からの質問票の受取、問い合わせ対応		1,417
160	熊本大学サブユニットセンター	くぼたまさと工作ショー(天草市)	参加者親子と家 族	フォローアップ率の向上および調査参加者とサブユニットセンタースタッフとの円滑なコミュニケーションを図るため		201
161	熊本大学サブユニットセンター	くぼたまさと工作ショー(人吉市)	参加者親子と家 族	フォローアップ率の向上および調査参加者とサブユニットセンタースタッフとの円滑なコミュニケーションを図るため		244
162	熊本大学サブユニットセンター	親子木育教室	参加者親子と家 族	フォローアップ率の向上および調査参加者とサブユニットセンタースタッフとの円滑なコミュニケーションを図るため		33
163	宮崎大学サブユニットセンター	どんだけ健康会	参加者、一般	参加者との交流、フォローアップ向上、知名度アップ。 「エコチル調査でわかったこと」というタイトルで、環境省ホームページ内で公表されている一部の成果データを発表。		106
164	宮崎大学サブユニットセンター	ハッピーフェスタ2017	参加者、一般	参加者との交流、知名度アップ		482
165	宮崎大学サブユニットセンター	キッズダンス教室	参加者	ストレッチやマット運動、ダンス		53

NO	ユニットセンター/ サブユニットセンター	タイトル	想定する広報の 対象	内容・目的	追加調査 に関する 発表	動員 人数
166	琉球大学サブユニットセン ター	親子フィットネス	参加者親子と家 族	調査に対するモチベーション維持と参加者同士、スタッフとのコミュ ニケーション活動		56
167	琉球大学サブユニットセン ター	第2回エコチル調査 まいふかこどもまつり	参加者親子、宮 古市内在住幼児 親子	宮古島市民へのエコチル調査の紹介と調査協力者・エコチルス タッフとのコミュニケーション活動		527
168	琉球大学サブユニットセン ター	英語リミック&ハロウィンパーティー	参加者親子と家 族	調査に対するモチベーション維持と参加者同士、スタッフとのコミュ ニケーション活動		75
169	琉球大学サブユニットセン ター	英語リミック&クリスマスパーティー	参加者親子と家 族	調査に対するモチベーション維持と参加者同士、スタッフとのコミュ ニケーション活動		83
					合計	41,199

参考⑦-4 成果発表状況（新聞掲載） 65件（平成30年2月末時点）

NO	ユニットセンター/ サブユニットセンター	新聞社名	記事タイトル	内容	追加調査に 関する発表
1	宮城ユニットセンター	三陸新報(気仙沼)	喫煙で体重軽い傾向	気仙沼地域運営協議会の報告	
2	福島ユニットセンター	福島民報新聞	「3B体操」楽しむ 郡山エコチルふれあい会	ふれあい会(小規模地域イベント)の開催	
3	福島ユニットセンター	福島民友新聞	楽しく体動かし親子で3B体操 郡山でエコチルふれあい会	ふれあい会(小規模地域イベント)の開催	
4	福島ユニットセンター	ママタイムス	子育て講演ファミリコン	エコチル調査子育て講演会&コンサート募集のお知らせ	
5	福島ユニットセンター	福島民報新聞	調査実施状況や今後の計画報告 エコチル調査	福島県地域運営協議会開催に関すること	
6	福島ユニットセンター	福島民友新聞	エコチル調査で意見交換	福島県地域運営協議会開催に関すること	
7	福島ユニットセンター	福島民友新聞	子育て講演会来て 郡山で来月27日	エコチル調査子育て講演会&コンサート募集のお知らせ	
8	福島ユニットセンター	福島民報新聞	来月27日子育て講演&演奏会	エコチル調査子育て講演会&コンサート募集のお知らせ	
9	福島ユニットセンター	福島民報新聞	体動かし親子笑顔 伊達でエコチルふれあい会	ふれあい会(小規模地域イベント)の開催	
10	福島ユニットセンター	福島民友新聞	エコチル調査知って 郡山 周知へ講演、コンサート	エコチル調査子育て講演会&コンサート開催	
11	福島ユニットセンター	ママタイムス	エコチル★ふくしま 子育て講演会とファミリコン	エコチル調査子育て講演会&コンサート開催	
12	福島ユニットセンター	福島民報新聞	「あいさつ しっかりね」 エコチルふくしま 郡山で子育て講演会	エコチル調査子育て講演会&コンサート開催	
13	福島ユニットセンター	福島民報新聞	「笑いヨガ」に親子挑戦 郡山でエコチルふれあい会	ふれあい会(小規模地域イベント)の開催	
14	福島ユニットセンター	福島民報新聞	エコチル調査で意見 県中・県南の運営協議会	県中・県南地域運営協議会開催に関すること	
15	福島ユニットセンター	福島民友新聞	エコチル調査 進行状況確認	県中・県南地域運営協議会開催に関すること	
16	福島ユニットセンター	ママタイムス	エコチルふれあい会「笑いヨガ」で楽しいひととき	ふれあい会(小規模地域イベント)の開催	
17	富山ユニットセンター	北陸中日新聞	黄砂でアレルギー悪化 花粉症やぜんそく 要注意	黄砂のアレルギー症状への影響	○
18	富山ユニットセンター	富山新聞	サマーフェスタ 親子連れ楽しむ エコチルとやま	8月27日に開催したサマーフェスタの報告	
19	富山ユニットセンター	北日本新聞	魚多く食べれば妊婦心元気に	妊婦が魚をより多く食べるほど、抑うつ状態になりにくくなる	
20	富山ユニットセンター	北日本新聞	天地人(妊婦が魚を多く食べるほど抑うつ状態になりにくくなる)	妊娠期の魚食の精神状態への影響	
21	富山ユニットセンター	福井新聞	天地人(妊婦が魚を多く食べるほど抑うつ状態になりにくくなる)	妊娠期の魚食の精神状態への影響	
22	富山ユニットセンター	毎日新聞	魚食で抑うつ防止効果	妊娠期の魚食の精神状態への影響	
23	愛知ユニットセンター	朝日新聞社	名古屋市立大学公開講座「エコチル調査ってなに？」	愛知UC主催「エコチル調査公開講座2018」の案内	
24	愛知ユニットセンター	中日新聞社	エコチル調査公開講座	愛知UC主催「エコチル調査公開講座2018」の案内	
25	愛知ユニットセンター	中日新聞社(瑞穂フォーラム)	エコチル調査公開講座2018	愛知UC主催「エコチル調査公開講座2018」の案内	
26	愛知ユニットセンター	毎日新聞	エコチル調査公開講座2018	愛知UC主催「エコチル調査公開講座2018」の案内	
27	京都ユニットセンター	中日新聞	黄砂でアレルギー悪化	黄砂のアレルギー症状への影響	○
28	高知ユニットセンター	高知新聞	高知県内の妊婦9割が葉酸不足 環境省「エコチル調査」で判明		
29	高知ユニットセンター	高知新聞	エコチル調査論文「婦人科疾患の産後うつへの関連性を示す」		
30	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」歯のケア		
31	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」たばこ		
32	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」トイレトレーニング 上		
33	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」トイレトレーニング 下		
34	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」父母以外の支え		
35	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」パートナーの役割		
36	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」テレビ、DVD視聴		
37	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」通園の状況		
38	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」一緒に過ごす時間		
39	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」母乳育児		
40	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」睡眠環境		
41	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」男性の育休		
42	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」食物アレルギー		
43	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」夜泣き		
44	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」食事・おやつ		
45	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」断乳・卒乳		
46	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」保護者の交流		
47	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」好き嫌い		
48	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」言葉		
49	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」活動や衝動性		
50	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」子どもの花粉症		
51	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」習い事		
52	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」携帯電話・ゲーム機の使用		
53	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」むし歯		
54	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」睡眠時間と就寝時間		
55	高知ユニットセンター	高知新聞	【コラム】エコチル調査		
56	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」読み聞かせ		
57	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」家のダニ・ほこり		
58	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」子どもの外出		
59	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」外で遊ぶ時間		
60	高知ユニットセンター	高知新聞	高知の子どもの生活は今「ずっと、ぎゅっと！」ペット		

NO	ユニットセンター/ サブユニットセンター	新聞社名	記事タイトル	内容	追加調査に 関する発表
61	琉球大学サブユニット センター	宮古毎日新聞	健康づくりに挑戦 親子でフィットネス エコチル調査	イベント取材記事	
62	琉球大学サブユニット センター	宮古毎日新聞	エコバック工作に挑戦 エコチル調査 子ども祭りに530人参加	イベント取材記事	
63	琉球大学サブユニット センター	宮古新報	親子で笑顔はじける エコチル調査 まいふかまつり	イベント取材記事	
64	琉球大学サブユニット センター	宮古毎日新聞	次年度の事業計画承認 琉球大学サブユニットセンター	会議取材記事	
65	琉球大学サブユニット センター	宮古新報	18年度事業計画など承認 九州沖縄 エコチル運営協議会	会議取材記事	

参考⑦-5 成果発表状況（テレビ・ラジオ等（マスメディア））
13件（平成30年2月末時点）

NO	ユニットセンター/ サブユニットセンター	媒体種類	内容	備考
1	宮城ユニットセンター	SNS等インターネット	妊婦の7割が医薬品・サプリメント使用 東北大大学院研究グループが調査	Cbnews
2	宮城ユニットセンター	SNS等インターネット	妊婦の半数以上が妊娠前・妊娠中に医薬品・サプリを使用－東北大	Qlife
3	宮城ユニットセンター	SNS等インターネット	妊婦の半数以上が妊娠前・妊娠中に医薬品・サプリを使用－東北大	MediaStream
4	宮城ユニットセンター	SNS等インターネット	妊婦の半数以上が妊娠前・妊娠中に医薬品・サプリを使用－東北大	アストラス
5	宮城ユニットセンター	SNS等インターネット	全国10万人の妊婦に医薬品・サプリメント使用の実態調査 東北大学	タッチポイント
6	宮城ユニットセンター	SNS等インターネット	全国10万人の妊婦に医薬品・サプリメント使用の実態調査 東北大学	大学ジャーナルオンライン編集部
7	宮城ユニットセンター	SNS等インターネット	妊婦の半数以上が妊娠前・妊娠中に医薬品・サプリを使用－東北大	EPARKヘルスケア
8	宮城ユニットセンター	SNS等インターネット	妊婦の薬・サプリ使用実態明らかに	エムスリー
9	宮城ユニットセンター	SNS等インターネット	妊婦の半数以上が妊娠前・妊娠中に医薬品・サプリを使用 10万人を調査	創新社
10	宮城ユニットセンター	SNS等インターネット	妊娠中の医薬品・サプリメント使用の安全性	薬事日報社
11	甲信ユニットセンター (山梨大学)	ラジオ	月に1回、BSSラジオ「午後はドキドキ！」の中で5～10分程度、電話出演。コーナー名「大西准教授の環境医学ニュースの読み方」	
12	甲信サブユニットセンター (信州大学)	ラジオ	エコチル調査の進捗状況	FM長野(番組名:エコチル信州応援団)
13	富山ユニットセンター	テレビ	妊婦が魚をより多く食べるほど、抑うつ状態になりにくくなる	

参考⑦-6 成果発表状況（雑誌） 13件（平成30年2月末時点）

NO	ユニットセンター/ サブユニットセンター	種類	雑誌名	掲載タイトル	想定する広報の対 象	追加調査の み〇
1	富山ユニットセンター	地域情報誌	ここがすごい！富山大学 付属病院の最新治療	エコチル調査-子供の健康と環境に関する全国調 査	大学関係者・ 医学生	
2	富山ユニットセンター	その他	富山大学環境報告書 2017	医学生に対する環境教育	大学関係者・ 医学生	
3	愛知ユニットセンター	地域情報誌	地域情報誌「teniteo愛 知版」	子どもの健康と環境に関する全国調査 エコチル 調査「子どもたちの明るい未来のために」	一般	
4	愛知ユニットセンター	地域情報誌	月刊Kelly 5月号	「エコチル調査でわかってきたこと」	一般	
5	愛知ユニットセンター	地域情報誌	中日メディアプレーン 「Lau」	家族の健康を守る室内のダニ・カビ退治	一般	
6	愛知ユニットセンター	地域情報誌	ami 2月号	「エコチル調査公開講座2018」に参加しよう	一般・参加者・関 係者	
7	愛知ユニットセンター	地域情報誌	teniteo 3月号	愛知UC主催「エコチル調査公開講座2018」	一般・参加者・関 係者	
8	高知ユニットセンター	その他	週刊文教ニュース	高知大学「エコチル調査」(高知新聞)連載		
9	高知ユニットセンター	その他	文教速報	安心して子育てできる環境の実現へ 高知ユニット センターがエコチル調査(高知大)		
10	熊本大学サブユニットセ ンター	地域情報誌	人吉・球磨月刊情報誌 「どろぎゃん」	2017年12月号	人吉・球磨地域に 在住の方	
11	熊本大学サブユニットセ ンター	地域情報誌	人吉・球磨月刊情報誌 「どろぎゃん」	2018年1月号	人吉・球磨地域に 在住の方	
12	熊本大学サブユニットセ ンター	地域情報誌	人吉・球磨月刊情報誌 「どろぎゃん」	2018年2月号	人吉・球磨地域に 在住の方	
13	熊本大学サブユニットセ ンター	地域情報誌	人吉・球磨月刊情報誌 「どろぎゃん」	2018年3月号	人吉・球磨地域に 在住の方	

審議経緯

平成29年10月5日 第1回エコチル調査企画評価委員会

平成29年10月10日～11月29日 環境省による実地調査日程は参考4参照

平成30年1月12日 第1回エコチル調査評価ワーキンググループ

平成30年2月9日 第2回エコチル調査評価ワーキンググループ

平成30年3月15日 第2回エコチル調査企画評価委員会

平成29年度エコチル調査企画評価委員会委員名簿

(敬称略、五十音順)

氏 名	所属・職名
秋山 千枝子	日本小児保健協会 会長
有村 俊秀	早稲田大学政治経済学術院 教授
井口 泰泉	横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科 特任教授
石井 一弥	日本化学工業協会 常務理事
石井 太	国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部 部長
稲垣 真澄	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 知的障害研究部 部長
内山 巖雄	京都大学 名誉教授
衛藤 隆	日本学校保健学会 理事長
新村 和哉	国立保健医療科学院 院長
竹下 俊行	日本産科婦人科学会 常務理事
田中 政信	日本産婦人科医会 顧問
遠山 千春	筑波大学 医学医療系 客員教授
中下 裕子	コスモス法律事務所 弁護士
藤村 正哲	子ども療養支援協会 理事
松平 隆光	日本小児科医会 会長
松本 吉郎	日本医師会 常任理事
麦島 秀雄	日本小児科学会
村田 勝敬	秋田大学大学院医学系研究科 環境保健学講座 教授

平成29年度エコチル調査評価ワーキンググループ委員名簿

(敬称略、五十音順)

氏名	所属・職名
井口 泰泉	横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科 特任教授
田中 政信	日本産婦人科医会 顧問
麦島 秀雄	日本小児科学会
村田 勝敬	秋田大学大学院医学系研究科環境保健学講座 教授

<オブザーバー>

有村 俊秀	早稲田大学政治経済学術院 教授
内山 巖雄	京都大学 名誉教授

実地調査ヒアリング日程

No.	日時		ヒアリング実施機関
1	10月10日(火)	13:00-16:00	神奈川ユニットセンター
2	10月11日(水)	13:00-16:00	鳥取ユニットセンター
3	10月18日(水)	15:00-17:00	宮城ユニットセンター
4	10月19日(木)	10:00-12:00	富山ユニットセンター
5	10月23日(月)	13:00-16:00	九州大学サブユニットセンター
6	10月24日(火)	10:00-12:00	産業医科大学サブユニットセンター
7	10月27日(金)	13:00-16:00	愛知ユニットセンター
8	10月30日(月)	10:00-13:00	高知ユニットセンター
9	10月31日(火)	10:00-13:00	メディカルサポートセンター
10	11月7日(火)	10:00-13:00	千葉大学ユニットセンター
11	11月9日(木)	13:00-16:00	北海道大学ユニットセンター
12	11月10日(金)	14:00-17:00	熊本サブユニットセンター
13	11月14日(火)	13:00-15:00	甲信ユニットセンター(山梨大学)
14	11月15日(水)	12:00-14:00	甲信サブユニットセンター(信州大学)
15	11月17日(金)	10:00-12:00	大阪ユニットセンター(大阪大学)
16	11月17日(金)	14:00-16:00	大阪ユニットセンター (大阪府立母子保健総合医療センター)
17	11月20日(月)	14:00-17:00	福島ユニットセンター
18	11月28日(火)	10:00-12:00	兵庫ユニットセンター
19	11月28日(火)	14:00-16:00	京都ユニットセンター
20	11月29日(水)	12:30-14:00	コアセンター